

平成 27 年度 キャリア教育優良教育委員会，学校及び P T A 団体等の推薦調書 目次

<北海道>	
北海道倶知安高等学校	1
北海道函館五稜郭支援学校	1
<青森県>	
蓬田村立蓬田小学校	2
蓬田村立蓬田中学校	3
青森県立百石高等学校	4
あおもりで「生きる・働く」を学ぶ上北地区実行委員会	7
<岩手県>	
宮古市立重茂中学校	8
岩手県立千厩高等学校	8
<宮城県>	
登米市教育委員会	10
宮城県石巻北高等学校	11
<秋田県>	
仙北市立神代小学校	11
鹿角市立十和田中学校	12
秋田県立由利高等学校	13
<山形県>	
新庄市教育委員会	14
<福島県>	
福島県立小高商業高等学校	15
<茨城県>	
桜川市立真壁小学校	15
水戸市立第二中学校	16
<栃木県>	
宇都宮市立陽西中学校	17
栃木県立矢板高等学校	17
那須 C E O 倶楽部	18
<群馬県>	
みどり市立東中学校	19
群馬県立太田東高等学校	20
<埼玉県>	
埼玉県三郷市立北中学校	21
<千葉県>	
千葉県立船橋二和高等学校	23
浦安市立日の出中学校サポーターズクラブ	23
<東京都>	
葛飾区教育委員会	24
小平市立小平第十四小学校，小平市立学園東小学校	24
東京都立西高等学校	25
東京都立青峰学園	25
昭和第一学園高等学校	26
小平第二中学校 学校支援コーディネーター及び P T A	27
<神奈川県>	
横須賀市立馬堀中学校	27
神奈川県立城郷高等学校	28

<新潟県>	
胎内市立中条小学校	2 8
<富山県>	
高岡市立戸出中学校	2 9
富山県立富山商業高等学校	3 0
富山県立中央農業高等学校	3 1
<石川県>	
石川県立宝達高等学校	3 1
<福井県>	
福井市至民中学校	3 2
敦賀市立栗野中学校	3 3
福井県立奥越明成高等学校	3 4
<山梨県>	
山梨県立塩山高等学校	3 5
<長野県>	
中野市教育委員会	3 6
長和町立和田中学校	3 7
長野県茅野高等学校	3 8
<岐阜県>	
関市立武芸川中学校	3 9
川辺町立川辺中学校	3 9
岐阜県立郡上北高等学校	4 0
<静岡県>	
富士宮市立富士根北中学校	4 1
富士市立高等学校	4 2
<愛知県>	
豊川市立金屋小学校	4 4
愛西市立八開中学校	4 4
<三重県>	
伊賀市立柘植小学校	4 5
三重県立津高等学校	4 6
<滋賀県>	
彦根市教育委員会	4 7
野洲市立中主中学校	4 8
滋賀県立八幡商業高等学校	4 8
<京都府>	
京都府立北桑田高等学校	4 9
<兵庫県>	
兵庫県立三木東高等学校	5 0
<奈良県>	
奈良市立月ヶ瀬中学校	5 1
奈良県立大淀高等学校	5 2
<鳥取県>	
鳥取県立倉吉東高等学校育友会	5 2
<岡山県>	
真庭市立勝山小学校	5 3
岡山県立興陽高等学校	5 4
岡山県立倉敷南高等学校	5 4

<広島県>

尾道市教育委員会	5 5
尾道市立土堂小学校	5 7
東広島市立豊栄中学校	5 8
広島県立加計高等学校	5 9
公益社団法人日本メディカル給食協会	6 0

<山口県>

周南市立鹿野小学校	6 1
平生町立平生中学校	6 2
山口県立周防大島高等学校	6 2
山口県公立高等学校PTA連合会	6 4

<徳島県>

徳島県立阿波高等学校	6 5
------------	-----

<香川県>

東かがわ市立三本松小学校	6 7
多度津町立四箇小学校	6 7

<愛媛県>

伊方町立瀬戸中学校	6 7
愛媛県立新居浜南高等学校	6 8

<福岡県>

福岡県立久留米筑水高等学校	6 8
那珂川町立福岡女子商業高等学校PTA	6 9

<長崎県>

五島市立奈留小中学校	7 0
------------	-----

<宮崎県>

延岡市立北方学園	7 2
宮崎県立飯野高等学校	7 2

<鹿児島県>

霧島市教育委員会	7 3
宇検村立田検小学校	7 4
鹿児島市立吉田北中学校	7 5
日置市立日吉中学校	7 5
末吉高校農巧クラブ	7 6

<沖縄県>

那覇市立松島小学校	7 6
沖縄県立小禄高等学校	7 7

<仙台市>

仙台市立吉成小学校	7 7
-----------	-----

<横浜市>

横浜市立日野中央高等特別支援学校	7 8
------------------	-----

<大阪市>

大阪市立工芸高等学校	7 8
------------	-----

<神戸市>

神戸市立雲中小学校	8 0
-----------	-----

<広島市>

広島市立美鈴が丘中学校	8 1
-------------	-----

	種別	受賞団体名	推薦理由
北海道	学校	北海道倶知安高等学校	当该校では、高校の3年間は、自分の夢を実現するためにある（Dreams come true）とキャリア教育を定義し、「総合的な学習の時間」を「ドリカムプラン」と称し、自らの興味・関心をもとに、生徒自身が自らの将来設計を行い、様々な体験学習等を通して自分の進むべき道を探求する学習活動に取り組んでいる。実施に当たっては、キャリア部が中心となり、地域・産業界等との連携・協力を主体的に図り、組織的・系統的に指導している。 大きな枠組みとして、1年次を「調査の年」、2年次を「行動の年」、3年次を「実現の年」ととらえ、3年間を通して系統性をもった取組を行っている。 1年次においては、生徒の興味・関心に応じたグループを編成し、入学当初の宿泊研修から企業見学や大学見学を実施したり、自分史の作成、職業講話の実施、卒業生と語り合う会への参加、家庭と連携した保護者の仕事アンケート作成及び集約を行うこと等により、仕事研究や学問研究を図りながら、自己理解を深める活動を実施している。 2年次においては、進路希望の傾向に近い生徒でドリカムグループを編成し、行動計画を立てたり、ドリカムノートを作成したりして記録、反省・評価等を行っている。また、ドリカムグループごとにジョイントセミナー（出張講義）やオープンキャンパス、インターンシップ等へ参加したり、見学旅行時にドリカムグループ別に企業や大学を訪問したりすることにより探究活動を深化させている。 3年次においては、志望動機や小論文作成、模擬面接、社会人マナー講習等を通して、社会人としての資質を養うなど、進路実現を図るための実践的な活動を行っている。 キャリア教育に係る校内体制では、キャリア部が中心となり、各学年・分掌と連携するとともに、二人担任制を導入し、日常のホームルームから学校行事、個人面談等を協力して行い、きめ細かな指導を展開している。また、単位制の特色を生かして、生徒の興味関心や進路希望等に応じた多様な選択科目を開設するとともに、少人数授業や習熟度別授業等、丁寧な学習指導を行い、教科指導を通してキャリア教育を推進し、進路実現を図っている。 このような3年間を通じた組織的・系統的な取組を実践することにより、生徒の進路意識が一層明確となり、国公立大学の進学者数及び公務員試験の合格者数の増加、安定した就職内定率や進路決定後の生徒の学習意欲の維持といった成果につながっている。 【ホームページ】http://www.kutchan.hokkaido-c.ed.jp/
	学校	北海道函館五稜郭支援学校	本校は、病弱教育の養護学校として、昭和54年4月に開校し、平成23年4月には、知的高等部を併設する特別支援学校としてスタートする。開設された学科は「環境流通サポート科」で、主として専門学科において開設される教科「流通・サービス」を中心とした教科別指導を行っている。 将来を見据えた「働く力」「生活する力」を身に付ける学習を在学中より計画的に実施している。1学年時は、校内作業実習や町会の花壇を整備する地域貢献活動を行いながら、社会性の基礎を身に付けることを意識して取り組んでいる。2学年以降は、各学年とも午前中の日程で週に3回ずつ、日常的に企業内作業実習を行うなど、いわゆる「五稜郭型デュアルシステム」によって、地域の多くの企業等の協力を得ながら、独自の教育活動を展開している。企業内作業実習の内容としては、五稜郭タワーや保健所、ホテル、教会、町会の会館等の清掃活動を中心に行っている。ビルクリーニングの業者の方から指導を受けた清掃は大変好評で、地域の方から褒められたり話しかけられるなどふれあ

		うことで、生徒たちが社会性を身に付ける機会となっている。また、卒業後の職業自立や社会参加に向けて、3年間で5回の職場実習を行っている。1学年時は、8日間の1回、2学年時は、14日間と17日間の2回、3学年時は、19日間で2回の実習を行っている。 平成26年3月に第1期生13名が卒業し、平成27年3月に第2期生13名が卒業した。卒業生の進路として、一般就労が22名(84.6%)となっている。北海道内の職業学科の知的高等支援学校(15校)における、平成26年度の一般就労の比率が34.2%であり、本校における一般就労の比率の高さは、上記の教育活動の成果であると手応えを感じる。まだ、卒業生の数が少ないこともあるが、これまでの成果と課題を整理・改善し、これからも生徒たちが、自らの将来像を描き、自らの手で夢を実現できるような教育を実践していきたいと考えている。
青森県	学校	蓬田村立蓬田小学校 1 研究の詳細 推薦校では次の3点を研究の柱とし、実践研究に取り組んできた。 (ア) キャリア教育推進のための校内体制のあり方 (イ) 「あおりっ子キャリアノート」(青森県教育委員会作成)の活用のあり方 (ウ) 地域人材、地域性を生かした取組の実践 特に推薦校が重点としたのは、(イ)「『あおりっ子キャリアノート』の活用」である。キャリアノートを活用しながら、キャリア教育で培いたい資質、能力、態度に対する児童の自己評価を定期的に行い、学期ごとの変化や経年変化を分析して各教育活動に反映させるように心掛けている。 なお、児童の記入したキャリアノートは、児童の卒業時に、中学校への引継資料として、同村内の蓬田中学校へ渡すこととしている。 2 「推薦の観点」に照らして 「1」で述べた取組の詳細を、「推薦の観点」③に照らして、以下に説明する。 (1) 地元企業や自治体等との連携 児童の自己評価を積み重ねる中で、「社会とつながる力」(基礎的・汎用的能力の「人間関係形成・社会形成能力」を受けたもの)に対する児童の評価が、他に比べて落ち込んでいるという課題が顕在化した。 それを受けて推薦校では、総合的な学習の時間等を活用しながら、次のような学習活動に取り組んでいる。 ① 水田を「学校田」として借用しての米作り (水田を所有する地域住民との連携) ② 村の名産品「トマト」の栽培(JA蓬田との連携) ③ 学区探検と称した村内事業所への訪問 (道の駅、製菓店、コンビニエンスストア、ガソリンスタンド) (2) 地元への理解・愛着・誇りを育む教育 「社会とつながる力」に対する児童の評価の落ち込みは、特に高学年に顕著だったことから、5年生で「蓬田PR大作戦」と称し、次のような学習活動に取り組んでいる。 ① カルビー株式会社「クラスみんなでサッポロポテト&かっぱえびせんの新商品をつくろう」キャンペーンへの応募 村の特産品などを調べ、それらを生かした「蓬田ならではの味」を考案し、標記のキャンペーンに応募した。 ② 「かかしロード280」への案山子展示 村内を縦断する国道280号線沿いに案山子を展示するイベントが、

		実行委員会の主催により毎年行われている。そのイベントに蓬田村をPRできるような案山子のデザインを考案・作成し、展示した。 3 キャリア教育推進に関する管内での貢献 上記の取組を含めて、2年間の実践をまとめ、「平成27年度 あおもりで『生きる・働く』を学ぶキャリア教育実践活動事業 東青管内キャリア教育地区研修会」で実践発表を行った。 「1」で述べたとおり、「『あおもりっ子キャリアノート』の活用」に重点を置いた研究であったため、参観日に児童と保護者が一緒にキャリアノートを書き込むという事例や、児童の実態に合わせてキャリアノートの内容に修正を加えて記入させる事例など、多様な活用例が紹介され、研修会の参加者からは「大変参考になった」という声が多く聞かれた。 推薦校は、キャリアノートの活用を核としながら、校内の指導体制や地域との連携体制を整え、研究成果を着実に積み重ねた。これは、持続可能なキャリア教育の推進体制であると同時に、今後もキャリア教育の先進校として、当管内の各学校に成果を発信していけるものとする。以上の点を踏まえ、キャリア教育優良学校として推薦するものである。
学校	蓬田村立蓬田中学校	1 研究の詳細 推薦校では次の3点を研究の柱とし、実践研究に取り組んできた。 (ア) キャリア教育推進のための校内体制のあり方 (イ) 「あおもりっ子キャリアノート」(青森県教育委員会作成)の活用のあり方 (ウ) 地域人材、地域性を生かした取組の実践 特に推薦校が重点としたのは、(ウ)「地域人材、地域性を生かした取組の実践」である。職場訪問や職業体験に特化することはせず、自治体や村内の任意団体、各事業所と連携を図りながら、多様な体験活動に取り組ませることで、生徒のキャリア発達を促すように心掛けている。 また、同村内の蓬田小学校と連絡を密に取り合い、児童・生徒と一緒に取り組めるような体験活動を組織するなど、キャリア教育を核とした小・中連携にも積極的に取り組んだ。 2 「推薦の観点」に照らして 「1」で述べた取組の詳細を、「推薦の観点」①に照らして、以下に説明する。 (1) 適切な検証改善 推薦校では、学校の教育活動に対する自己評価や保護者アンケートを毎年度実施している。特に平成26・27年度は、それらの評価結果をもとに、次のような検証改善を行った。 ①各行事の実施要項に「キャリア教育で培いたい資質、能力、態度」を明記 (各行事とキャリア教育との関連をより明確にするため。) ②体験活動を含む行事の実施時期の移動 (体験活動の充実と、行事集中による負担軽減のため。) ③除雪や清掃といった奉仕活動の継続実施 (教育的効果を期待する保護者の声を受けて。) (2) 事前・事後指導を含めた職場見学、職業体験等 推薦校では各学年生徒の発達段階を考慮し、特別活動や総合的な学習の時間の中で次のような学習活動を行っている。 ① 1 学年

		・村の基幹産業への理解を深めさせるための漁業体験 ・村内の各事業所と連携した職場訪問（保育園、服飾メーカー等） ② 2 学年 ・村に隣接している青森市内の事業所での職業体験 ・特養ホーム訪問（3 学年で実施）に向けての高齢者疑似体験学習 ③ 3 学年 ・村内の特養ホームへの訪問 ・村が主催する敬老会の運営補助、合唱等の披露 （3）他校種や地域・産業界等との主体的な連携・協力 （2）で述べた学習活動も含め、様々な活動を行う中で、自治体や村内の任意団体と連携を図り、活動の充実を図る努力をしている。詳細は、次のとおりである。 ①村役場との連携（村主催の敬老会、村内海水浴場清掃奉仕活動） ②漁協、老人クラブ、婦人会との連携（漁業体験、村内海水浴場清掃奉仕活動） 特に蓬田小学校との連携は、次のような深まりがみられた。 ③両校の接続も踏まえたキャリア教育全体計画及び年間計画の作成・整備 ④行事や学習活動の共同実施 （村内海水浴場清掃活動、進路講話、職場訪問報告会、合同学習会） ⑤「あおもりっ子キャリアノート」（青森県教育委員会作成）の引継 3 キャリア教育推進に関する管内での貢献 上記の取組等の実践をまとめ、「平成27年度 あおもりで『生きる・働く』を学ぶキャリア教育実践活動事業 東青管内キャリア教育地区研修会」で実践発表を行った。 「1」で述べたとおり、「地域人材、地域性を生かした取組の実践」に重点を置いた研究であったが、特に小学校との連携に関して多様な事例が紹介され、研修会の参加者から「すぐにでも取り入れたい」という声が多く聞かれた。 推薦校は、地域との連携体制づくりを核としながら、校内の指導体制を整え、研究成果を着実に積み重ねた。特に、小学校との連携による取組は、今後もキャリア教育の先進校として、当管内の各学校に成果を発信していけるものと考ええる。以上の点を踏まえ、キャリア教育優良学校として推薦するものである。
学校	青森県立百石高等学校	1 推薦校について 青森県立百石高等学校（以下「推薦校」）は、昭和23年に農業科と家庭科の2学科で創立以来、家政科や商業科、普通科が設置されるなどの変遷を経て、現在は普通科9クラス、食物調理科3クラスの中規模校となっている。推薦校はこれまで、学校・学科の特色を基盤に地域やPTAなどの関係諸団体と連携して生徒の多様な活動の機会を設定し、世代を超えた人々との交流を通して自己有用感を高めさせるなど、特色あるキャリア教育を実践していることから、キャリア教育優良学校として推薦するものである。 2 教育目標とキャリア教育の推進体制について 推薦校は、「新しい時代を切り拓く、心豊かで、逞しい生徒の育成」という教育目標の下、生徒に望ましい勤労観・職業観を育成して主体的な進路選択の実現を図るとともに、生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成することを目指している。特に、学校から社会・職業

		への移行が円滑に行われるように、地域社会と協働して取り組んでいる。 また３年間を見通した組織的、計画的、継続的なキャリア教育を推進するため、学年ごとに次のようにキャッチフレーズを設定して、それぞれにおいて活動内容を点検・整理し、実施している。 １学年「発見」…自分の良さに気づき、自己の在り方、社会への関わり方について考える姿勢を身に付ける。 ２学年「挑戦」…自己の適性、可能性を高め、学ぶことへの意義や役割について理解を深める。 ３学年「実現」…進路志望実現に向けて取り組むとともに、社会に貢献しようとする態度を身に付ける。 ３ 地域・産業界等と連携・協力した取組 (１) 地元企業研究会（１学年） 総合的な学習の時間の単元「郷土を知る」の一環として生徒及び保護者を対象にし、商工会議所等の協力・支援を得て実施。郷土の企業に対する理解を深め、以後の進路指導に役立てることをねらいとし、十数社の代表者による説明を行っている。 (２) 老人施設体験学習（１学年） 事前に家庭科の授業の中で、外部講師による高齢者の生活体験学習を行って高齢者への理解を深めさせた後、施設を実際に訪問させている。ヒューマンサービス関連分野の産業を理解する一助とするだけでなく、高齢者とのコミュニケーションを体験させている。 (３) 学校設定科目「新聞を読もう」の出前授業（２学年） 新聞を通して地域や社会に対する理解を深め、課題意識を持たせるように授業を展開している。また、取材や新聞製作に携わる記者による出前授業を行い、情報収集や取り扱い等について学ぶとともに視野を広めさせている。 (４) 消費者教育に関する講話（２学年） 「平成２７年度学校等における消費者教育推進事業」指定校となり、家庭科の授業を通しての消費者教育を実践している。その中で、青森県消費生活センターの方から「子供の暮らしの安全性」に関する授業をしていただき、消費者と製造者それぞれの視点から安全問題について考えさせている。 (５) 自己の適性、可能性を高める取組（２学年） ①県内企業訪問…各企業を見学し、職種・職場への理解を深める。 ②ビジネスマナー講座…インターンシップに向けての指導。 ③地元企業におけるインターンシップ 全学科共通…希望する地元企業等において３日間実施。 食物調理科…レストラン（カワヨグリーンロッヂ）の厨房及びバーベキューハウスで現場実習。調理師としての職業意識を高める。 (６) 進路志望実現に向けた取組（３学年） ①本校独自の地元企業合同就職説明会 地元企業から直接説明を受ける機会を設定し、生徒が求人内容等に関する理解を深め、応募先選択の一助とする。 ②地元企業人事部、ＰＴＡのＯＢ会、外郭団体の協力による模擬面接 生徒が自らの課題と努力目標を設定し、進路志望の実現を図る。 ③就職面談会、個別職業相談会 三沢公共職業安定所職員に来校していただき、１０月以降、就職先が決
--	--	---

		まっていない生徒を対象に相談の機会を設けている。 ④受験体験発表会で3年生から1・2年生へ報告、アドバイス (7) おいらせ町長とのフレッシュトーク (1学年) 「若い人たちが住んでみたくなる町」をテーマに、おいらせ町の良さを見つめなおし町への関心を高めさせるねらいで昨年度初めて開催し、町長と本校代表生徒達が懇談した。今年度は、1年生全員を対象にして実施する。 (8) 「キッチンいちょうの森レストラン」 (1・2・3学年) 本校文化祭等において食物調理科がレストランを開設し、接客マナーを身につけるとともに、地元の方々と交流を図っている。また昨年度は、三つ星シェフからアドバイスを受け完成させた「おいらせフレンチ」を提供した。 (9) 成人式のおもてなし料理提供 (3学年) おいらせ町の要請に応じて実施しており、集団調理実習の仕上げとして、テーブルコーディネート、調理、300名分の配膳、会食のおもてなし等、体験的・実践的に学んでいる。 (10) おいらせ町「おいらせブランド協議会」との連携 (家庭クラブ) 地元の食材を使った特産品の開発を協議会から委託され、研究が続いている。だるま芋を使った「へっちょこ汁」は、すでに協会が町内イベント等において来場者へ提供・販売している。生徒にとっても、直接消費者から評価を得る機会となっている。 (11) おいらせ町いきいき健康まつり (食育フォーラム) に向けての健康カレーレシピ作成、発表 (家庭クラブ) おいらせ町からの要請を受け、食と健康づくりの一環として生徒が健康カレーを考案した。そのカレーは実際に町イベントで振る舞われる予定で、生徒は健康カレーレシピづくりの実践報告発表を行い、来場者に健康づくりを呼びかける。 (12) 「おいらせ十種野菜カレー」の開発・提供 (家庭クラブ) 来る11月に開催するおいらせ町合併10周年を祝う記念式典において、地元の十種類の野菜を使ったカレーを提供することとなり、その開発及び提供を本校食物調理科が委託されている。すでに町職員と何度も試食会を重ね、レシピ作成に取り組んでおり、式典ではその成果を発表する。 4 他校種と連携・協力した取組 (1) 保育園体験学習 (1・2学年) 1学年食物調理科及び2学年普通科生徒が、家庭科の授業の一環として地元保育園に出向き、園児とのふれあいを通して乳幼児の行動・言動・接し方を学んでいる。実施に際しては事前及び事後の学習を大切にして生徒の気づきを促しながら、異年齢とコミュニケーションを図る力を育成している。 (2) 幼稚園・小学校・中学校における食育教室 (2学年) 食物調理科で学んだ専門知識を活かし、町内の各園・学校に出向き、生徒による食育教室を実施している。この取組には町も協力しており、訪問校の選定や移動バスの手配など、支援していただいている。 (3) 本校体育祭に保育園児を招待して開催、一緒に競技参加 (1・2・3学年) 地元保育園児にも参加してもらい、園児のマスゲームを披露してもらうだけでなく、本校生徒と一緒に参加する競技も実施している。生徒は、先
--	--	--

		に実施した保育園体験学習等により幼児との交流体験があることから、園児をうまくリードし、和やかに楽しく活動することができている。 5 まとめ 推薦校では、食物調理科の特色ある取組が学校を牽引し、普通科でも食や地域の文化に関するさまざまな取組を継続的に行っており、それらがキャリア教育と効果的に関連づけられている。また学校に対する地域の期待もきわめて大きく、学校と地域の信頼関係に基づく協力体制がしっかりと構築され、一体感を醸している。これらのことが、生徒の学ぶ意欲を高めるとともに、地域を理解し社会に貢献しようとする人材の育成につながっており、キャリア教育実践の好事例となっている。
PTA 団体 等	あおもりで「生きる・働く」を学ぶ上北地区実行委員会	当団体は、平成 22 年度より、青森県立三沢航空科学館を拠点として地域の子どもたちへキャリア教育を推進する活動を継続して展開している。その活動の内容を以下に記述する。 平成 22 年度 ・ボランティアスタッフ研修会開催、企業等の実態及び学校のニーズに関する調査、スタッフのコーディネートによる試行的授業の実施、各地区プラットフォーム間のネットワークの構築など基盤づくりを行った。 平成 23 年度 ・フローチャート図及び各種手続き書類の作成 ・管内小学校で 2 回の実践活動を実施 ・「上北地方小学校教育研究会社会科部会」への企業紹介及び仲介 平成 24 年度 ・年間 3 回の協議会の開催、研修会の開催及び参加 ・上北管内小学校 8 回、中学校 1 回の実践活動、6 回の学校のニーズ調査、69 社の企業訪問を実施 ・「生きる・働く・学ぶをつなぐワクワクする授業」を開催し、教員・企業向けの提案授業と講演及び「我が社は学校教育サポーター」登録企業紹介パネル展示を実施 ・新たにキャリア教育講師派遣プログラム（講師選択型）を構築・実施した。 ・CSR活動に積極的な企業と連携し、学校へ提供する授業プログラムを新規開発 ・ホームページの開設・運用 平成 25 年度 ・年間 3 回の協議会の開催、研修会の開催及び参加 ・上北管内小中学校 7 校延べ 10 回の実践活動、14 回の学校ニーズ調査、17 回の企業訪問を実施 ・地区協議会研修会を開催、講演及び演習を実施 ・昨年に引き続き「生きる・働く・学ぶをつなぐワクワクする授業」を開催し、教員・企業向けの提案授業として 7 月に開催された地区協議会演習で開発した 2 つの授業を実施 平成 26 年度 ・年間 3 回の協議会の開催、「上北地区キャリア教育実践セミナー」研修会の開催及び各種研修会参加 ・上北地区小・中・高等学校における実践活動の実施 ・三沢航空科学館と連携した事業関連イベントの開催（3 回） ・広報誌の発行（平成 27 年 3 月発行） ・企業等の教育資源の調査（10 回）

			・学校のニーズ調査（31回）
岩手県	学校	宮古市立重茂中学校	1 郷土への愛着を育むキャリア教育の推進 （1）地域行事での接客販売や郷土芸能発表など、積極的に地域と関わりを持つ中で郷土理解と自己理解の深化を図っている。 （2）郷土をキャリア教育推進の基盤として位置付け、他地区における特産品販売の出店体験や、漁師町の特性を生かした各世代が一つとなつての協働体験等を通して、郷土の素晴らしさを再認識させ郷土への愛着や誇りを育む体験活動を実施している。 （3）キャリア講演会や伝統芸能の伝承等に地域人材を積極的に活用したり、被災地支援等で訪れるいろいろな人たちとの交流を通したりしながら、多面的なものの考え方や多角的な職業観を育てている。 （4）少子化と被災による生徒数の減少という大きな地域の課題を抱えながらも、地域の人々や教職員は温かく生徒のキャリア発達を支援し、生徒たちもその期待に精いっぱい応えている。 2 キャリア教育を柱とした教育活動の推進 （1）心豊かでたくましい生徒の育成をめざし、「人間関係育成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」の向上のため、教育活動全般を通して生徒のキャリア発達を支援している。 （2）総合的な学習の時間を最大限に活用しながら、各教科・領域、復興教育とも明確に結びつけた教育課程を編成している。 3 小中連携・地域連携による生徒の発達段階に応じたキャリア教育の推進 （1）小学校2年生からの「ふるさと学習」と連携した8年間の一貫した地域重視のキャリア教育を実践し、郷土を支える人材の育成を図っている。 （2）中学校3年間を通して、地元や他地区での職場訪問や職場体験等を系統的に実施することで、生徒の社会性を育むとともに望ましい職業観や勤労観を育成している。
	学校	岩手県立千厩高等学校	同校は明治34年の創立以来、時代の変化に応じた幾多の変遷を経て、今年で114年目を迎える「普通科」、農業系の「生産技術科」、工業系の「産業技術科」の3学科から構成されている岩手県で唯一の普通科・専門学科併置校である。同校では、生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成をめざし「キャリア教育」を推進しており、全校同一の取組や各学科独自の取組などにより、岩手県のキャリア教育のねらいである「人生設計力」と「総合生活力」の育成に努めている。 同校の進路状況は、進学と就職の割合が約6対4である。就職では、ものづくりや農業の担い手など地方創生の希望を胸に、卒業生の約25%が管内に就職している。また、平成26年度の進学では、工業系の産業技術科から岩手県立大学合格者2名を含む計20名が国公立大学に合格した。この実績は、学科の枠を超えた進学及び就職指導の定着によるものであり、専門学科で進学を希望する生徒には、普通科生徒と同等の進学指導を受ける環境が整っており、同校の利点となっている。また、就職先については、これまでの実績に基づいた地元企業をはじめとする多様な進路先が整備されており、専門学科教員による指導とも相まって、普通科就職希望生徒の選択肢は広い。同校では、それぞれの学科の教員がもつノウハウが長年にわたって蓄積・共有されることで、生徒の進路選択肢の幅を広げることが可能となり、志望先に適した指導が容易に受けられる環境にある。このことが伝統的に進学にも就職にも強い高校としての評価につながった。 さて、同校が全ての学科の生徒に共通する取組として平成17年度から実施

		しているのが、NIE（新聞記事を活用した教育実践）である。この取組では、①新聞に親しむ、②社会を知る、③自分を知る、④発信する、という4つのテーマを軸に、社会で必要となる「読む・聞く・書く・話す・発表する」といった基礎力を身につけさせることがねらいである。また、この活動は、「知識・技能」に加えて、それらを活用するために必要な「思考力」・「判断力」・「表現力」や、「主体的に学習する態度」といった要素から構成される「確かな学力」の向上にも役立っている。さらに、専門学科の「課題研究」や「資格取得」等においてもNIEでの経験は有効に機能しており、「キャリア教育」への接続がスムーズに行われている。 同校の特徴は、「キャリア教育」の機能を持つNIEの実践をベースに、日常的教育活動を「キャリア教育」の視点で捉え直し、社会的・職業的自立に必要な能力を育成する「キャリア教育」をPDCAに基づき継続的に推進してきた点にある。そしてまた、3学科が1つの学校として融合し、地域とともに歩んできた同校は、地域と触れ合い地域を活性化しながら、普通科生徒の職業理解を促進させるとともに、専門学科に通う生徒の進路選択肢を広げ、有為な人材の育成を実現させるなど、3学科併置の特徴を有効に活用しながら、キャリア教育を実践してきた。 同校の各種取組や教育実践などについては、学校HP、校報（「理想の翼」）、マスコミ等を有効に活用した情報発信を行い、広くご助言をいただくことで改善に努めている。 同校の「キャリア教育」に係る特徴的かつ具体的な取組は以下のとおりである。 1 新聞記事を活用した教育実践（NIE）の取組 全学年全学科で、毎朝各教室でその日の朝刊が閲覧可能、新聞を活用した授業の実施。平成17年度に試行、平成18年度より本格実施、今年で10年目となる。 2 職業インタビュー体験 普通科の1学年全員を対象に数人ずつのグループを編成、生徒が調査対象を選定し電話によるアポイントをとり後日訪問インタビューを実施。実施後は各グループごとに報告書を提出。壁新聞形式に編集し文化祭で展示発表。 3 農家体験実習 (1) 農家体験：生産科学コース2年対象、総計20時間の見学と体験。 (2) 現場実習：生産科学コース2年対象、優良農家での2日間の収穫・出荷実習。 (3) 東京大田市場・花き市場見学：東京での市場見学。（2日間） 4 インターンシップ（就業体験） 産業技術科2学年全員を対象、管内事業所において連続3日間実施。 5 専門学科の特色を活かした活動 【生産技術科】 (1) 町内のこひつじ幼稚園との交流学习。さつまいもの苗植えと収穫を、校内農場で実施。（年2回） (2) 知的障がい者更生施設「ふじの実学園」での交流体験学習。ドライフラワー作りを活用した施設利用者との交流。（年3回） (3) スウィーツ開発プロジェクト。地元千厩町商店街との協働による試作、町イベント時に試食配付、アンケート集約を実施、地元商店街のイベントに参加協力することで地域活性化を図る。 【産業技術科】
--	--	--

			(1) アイディアロボット大会への参加：課題研究におけるロボット製作の取組。大会ごとに提示されるテーマに従いロボットを製作することで問題解決力を養い、メンバーが協力しながら製作し競技に臨む。平成26年度県大会3位の成績で全国大会に出場。なお、同校は過去に全国大会優勝の実績がある。 (2) 資格取得の奨励：目的意識を持たせ、学習意欲の向上を図るため、同校は職業資格取得を奨励しており、全国工業高等学校長協会主催のジュニアマイスター顕彰制度において平成26年度の特別表彰者5名は県内最多校。
宮城県	教育委員会	登米市教育委員会	登米市教育委員会では、学校教育重点施策にキャリア教育の推進を掲げ、平成24年度より市独自の「キャリアセミナー推進事業」を導入し、市内全10中学校において「キャリアセミナー」を開催している。運営に当たっては、学校と地域をつなぐ「地区コーディネーター」を活用しながら、地域で活躍する企業や様々な業種の人材を講師として採用し、生徒のキャリア教育の充実に努めている。 また、同教育委員会では平成30年度までに全ての小中学校へのコミュニティースクール導入を目指し準備を進めているが、地域で活躍する職業人とその後輩である中学生が互いに職業や生き方について思いを語り合う「キャリアセミナー」は学校と地域を結ぶ大きな役割を果たしており、コミュニティースクール推進の一翼を担っている。 1 「キャリアセミナー推進事業」の概要 (1) 事業の位置付け 県委託の「宮城県協働教育プラットフォーム事業」に組み込むとともに「みやぎの志教育」推進の柱として位置付けている。 (2) 事業の目的 中学生を対象に、多種多様な職業の講師との出会いや話し合いを通じて自らの生き方を考えさせたり、将来に対する志や目的意識をもたせたりしながら主体的に進路選択・決定しようとする意欲や態度を育てる。 (3) 講師の選出 地域コーディネーターには、講師となる人材の把握と生徒の希望に基づく講師の選出を依頼し、学校の負担軽減を図っている。また、可能な限り地域で活躍する人材の発掘を行っている。 (4) 実施上の留意点 ①生徒が少人数で受講でき、講師と深くふれあうことができるよう多くの講師を確保する（受講生徒は多くて10名程度）。 ②セミナーは、生徒が様々な職種について複数回講座を受講できるように設定する。 ③市の関係機関には、事前に教育委員会から依頼し、公的な職種にも触れさせる。 2 「地域コーディネーター」の概要 「地域コーディネーター」は登米市教育委員会が独自に市内9町域に各1名ずつ配置し、協働教育推進のために、種々の活動に取り組んでいる。学校教育に対しては、学校からの要望に応じて地域人材の発掘やボランティア等とのコーディネートを行っている。 以上のように、登米市教育委員会の取組は、協働教育推進やコミュニティースクール導入を視野に入れ、組織的にキャリア教育推進に取り組んでいる優れ

			た実践であることから推薦するものである。
	学校	宮城県石巻北高等学校	当該校は、平成22年の学科改編により総合学科校として、5つの系列（食農、家庭、経情、教養、進学）を学びの主体として、生徒の社会性や職業観の醸成を図りながら「地域のスペシャリスト」の育成を目指して、地元企業や各種団体と連携した学習に取り組んでいる。 【主な取組】 1 地域交流ひろば「と・ら・ま・い」の活動 平成23年度、総合実習施設として地元の伝統芸能「虎舞」を呼称とした地域交流広場「と・ら・ま・い」を校地内に開設し、近隣の住民を対象として農業や家庭科、商業などの各系列で学んだ学習の成果となる農業生産物や加工食品等を販売するほか、伝統芸能「虎舞」を披露するなど、生徒が主体となり定期的な営業活動を展開している。生産、加工、販売の一連の流れについて、各系列での学びを深めるとともに系列を横断した学びの場として、6次産業化にも対応できる地域産業の担い手の育成に取り組んでいる。 また、地元企業と連携した商品開発や、近隣高等学校が製造した物品も販売するなど、産業界のほか学校間連携による学習にも積極的に取り組んでおり、生徒が主体的に学ぶ機会を通して、勤労観や職業観の醸成に取り組んでいる。 2 高校間連携 平成23年5月、東日本大震災により甚大な被害を受けた宮城県水産高校が、校地内の仮設校舎へ移転したことを契機として、1次産業を学ぶ両校が「食」をテーマとして生産、加工、流通を互いの分野で体験する学習に取り組んでいる。田植えや稲刈り、米粉への加工、米粉を使用したかまぼこ作りを共同で行うなど、他学科での学びを体験を通して学習することで、その知識と技術に触れ「食」の生産に携わる地域の専門人材の育成に取り組んでいる。 3 地域の高等学校連携活動 当該校を含む同地区の専門高校5校の生徒が、地元企業や地方振興事務所と連携し（産学官連携）“地域産業の復興はひとつづくりから”をテーマに活動をしている。地元の食文化の発信を目標に検討を重ね、各高校の専門性を融合させ地場産の食材を使用した商品開発を行い、昨年の全国産業教育フェアで開発した商品を販売した。また、企業関係者や地元の方、県を交えた発表会を行う等、様々な活動を通して、地域活性化に主体的に関わる姿勢を育み、課題解決能力を身に付けた、地域産業を担う人材の育成を推進している。 4 地域貢献活動 地元の伝統芸能「虎舞」が当該校で40年以上受け継がれている。虎舞はオープンキャンパスや学内行事、市内の老人介護施設の敬老会などで披露され、伝統を守り継承する活動がなされている。また近隣小学校の児童とともに大豆栽培を行い、収穫した大豆による豆腐作りの交流授業にも取り組んでいる。また、近隣駅前花壇での定期的な植栽活動のほか、震災後兵庫県の高校と共同で仮設住宅花壇への植栽活動も定期的に行い、地域と共に歩む活動を継続して行っている。
秋田県	学校	仙北市立神代小学校	平成22年度より、ふるさと教育を核としたキャリア教育を推進するため、地域の特徴である「人」「もの」「自然」を生かすとともに、地域の諸団体と連携した特色ある実践を重ねてきた。

		これらの実践が計画的、組織的に確立した平成26年度は、秋田県キャリア教育研究協議会において実践発表を行い、高い評価を得た。また、一連の教育活動が、東北農政局主催の平成26年度東北地域食育活動コンクール「東北地域に根ざした食育活動分野」において表彰されるなど、キャリア教育の推進校として県内外への情報発信に努めている。以下に主な特色を示す。 1 総合的な学習の時間を中心とした体験活動 第3学年では、大根・紅花栽培を行い、それらを原材料としてイブリガッコ（漬け物）製造・製品販売体験に取り組んでいる。 第4学年では、ヒマワリ栽培を行い、種取り、油搾取（委託）、ラベルデザイン等に取り組んでいる。 第5学年では、仙北市産業祭において、出店形式のキッズマートを開き、学校田で栽培・収穫した米ならびに他の製品を販売する体験に取り組んでいる。 第6学年では、3年生が製品化したイブリガッコを地域のPRも兼ねて、修学旅行先で販売体験を行っている。また5年生と同様、キッズマートで販売体験に取り組んでいる。 2 地域住民・諸団体との連携による地域活性化 キャリア教育の柱としている栽培活動・食育・販売体験では、地域の諸団体の人たちを先生として指導を仰ぐとともに、交流を深めていくことにより、地域の住民、特に、高齢者の人たちに元気を与え、地域の活性化につながっている。また、6年生が田植えから関わっている「田んぼアート」は、地域に話題をふりまくと同時に、秋田内陸縦貫鉄道の利用促進に大きな貢献をしている。 3 園・小・中の連携 神代こども園、神代小学校、神代中学校は隣接しており、交流活動を行いやすい立地条件にあり、園・小・中合同の避難訓練・引き渡し訓練を実施している。児童会・生徒会の連携による「あいさつ運動」の展開や6年生が中学校総体の激励会に参加しエールを送るという取組も行っている。中1ギャップ解消を始めとする進路指導の観点からも意義ある実践である。
学校	鹿角市立十和田中学校	十和田中学校では、平成24年度の新学習指導要領全面実施を機に、総合的な学習の時間や特別活動で取り組んできた「ふるさと教育」について、「キャリア教育を包摂したふるさと教育を総合的な学習の時間で実践し、その発表の場を学校祭とする」という大幅な見直しを行った。 これにより、ふるさとを愛する心ばかりではなく、生徒自らが考え実践するという体験活動を通して、人間関係形成・社会形成能力や課題対応能力といったキャリア発達に関わる諸能力の育成にも結び付いている。また、地域との連携が進み学校が地域を元気にするための情報発信源となっている。 1 研究・実践のテーマ キャリア教育の推進を中核とした「ふるさと教育」 ～十和田魅力アッププロジェクト～ 2 研究概要 (1) 活動のねらい ①ふるさと教育を充実させ、ふるさとへの誇りと愛着心を醸成し、ふるさと十和田に生きる気概を育む。 ②活動を通して、キャリア発達に関わる諸能力である「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」を育てる。 ③ふるさとを舞台とした活動により、「夢」や「希望」を抱き、その実現

		のために学習への意欲を高める。 ④生徒の主体的な活動を促し，学校教育目標である「自主・自立」の具現化に結び付ける。 ⑤地域を巻き込んだ活動を展開することにより，大湯ストーンサークルの世界遺産登録への気運を高める。 (2) 活動内容 1 年 縄文祭への参加，農業(米・野菜・りんご)，毛馬内盆踊り，十和田魅力新聞，先人・偉人の調査，芦名沢そば作り 2 年 十和田観光マップ，大湯ストーンサークルボランティアガイド，紙芝居，十和田スイーツ，モザイク壁画 3 年 地域を題材にした演劇とダンス，十和田弁当の開発，未来の十和田を考える，総務班によるショートムービー(地域のCM)の制作 (3) 活動に当たっての留意事項 ①生徒各自が各学年のプログラムから自己選択し，具体的な活動内容については生徒の考えを尊重する。 ②活動を進めるに当たって，できるだけ多くの人材との交流の場を設ける。(専門家，講師，保護者，先輩，幼稚園・保育園，小・中・高等学校 等) ③できるだけ多くのプログラムを用意し，少人数で活動させることにより学習への意欲を高める。 ④完成したもののクオリティーの高さよりも，計画から実践までの過程を重視する。 (4) 活動の成果 ①生徒一人一人のキャリア発達に関わる諸能力の育成につながっている。 ②秋田県の学校教育共通実践課題として取り組んでいる「ふるさと教育」に力を入れることにより，ふるさとへの誇りと愛着心の醸成につながっている。 ③学校と地域，保護者と連携する機会が多くなり，生徒の活動に対して外部からの評価も高くなっている。 ④学校教育目標の「自主・自立」について，教職員ばかりではなく生徒も意識するようになった。 ⑤担当する教師自身が地域を学び，地域の素材を生かした教材を開発することにつながり，学校への信頼を高めることにつながってきている。 (5) 課題 ①生徒アンケートから，進路学習との連携をより一層深めなければならない。 ②前年度の反省や生徒の活動状況から，反省を生かし継続させることが必要である。
学校	秋田県立由利高等学校	当該校は，平成 24 年度から平成 26 年度まで秋田県教育委員会から「キャリア教育実践モデル校」に指定されたことを機に，それまでの取組を再構築し，学校全体でキャリア教育に取り組む体制を整え，地域社会が求める能力を身に付けさせるための有効な手立てについて研鑽を重ねた。 特に，キャリア教育の効果を測る「キャリア教育 Can-Do リスト」や，3 年間のキャリア教育の内容を 1 冊にまとめた「由利高校版キャリアノート」の開発は，組織的なキャリア教育の実践に有効であり，全国的にも先進的な取組として評価された。 1 「キャリア教育 Can-Do リスト」の実施と活用 このリストは，生徒自身がキャリア教育による変容を測定することを目的

			に開発された。定期的に行う自己評価の分析で、キャリア発達に関する変容、課題を明らかにし、これまでの取組を検証する際の客観的な指針とした。また、教員向けのアンケート結果と併せて分析することで、教員の意識と生徒のキャリア発達の関係性を明らかにし、指導方法の改善を効率的に行った。さらに、生徒に半年に1回、学校生活や地域貢献と密接に関連する質問項目に回答させることで、日頃の生活や地域への貢献について振り返り、新しい目標を設定する場面を設けるなど、生徒一人一人がキャリア発達を実感する機会を設けている。 2 総合的な学習の時間とキャリアノートを柱としたキャリア教育の推進 当校は、総合的な学習の時間をキャリア教育の柱として、全職員で取り組む体制を整えている。学校行事等を適切な時期に配置することに加え、生徒を地域行事へ積極的に参画させることを意識し、長期的な視点で総合的な学習の時間と各種行事等に関連をもたせ、それぞれの取組や参画への経験が、有機的につながるように工夫している。特に地域行事への積極的な参画を促すことで、地域の課題やその解決策について主体的に考える機運を醸成している。 また、ポートフォリオの役割を持つキャリアノートには、3年間の総合的な学習の時間等で利用するシートがすべて含まれているため、生徒は自分の取組をいつでも振り返ることが可能であり、本人はもちろん、第三者でもキャリア発達を評価することができる。さらに、各学年で身に付けたい能力や、各取組ごとの目的及び取組内容を明示することで、学校組織全体で生徒のキャリア発達を継続的に推進している。
山形県	教育委員会	新庄市教育委員会	新庄市教育委員会においては、平成19年度に、従来から運営してきた小・中学校の不登校児童生徒等を対象にした適応指導教室を土台に「リスタートクラス」を立ち上げた。これは、適応指導教室を単立ち高等学校等に進学したものの、再度学校から離れてしまった生徒や、進学も就労もできずに過ごしている青少年の自立と社会参加をめざした取組であった。中には、学校や就労先に所属していながらも、社会参加に向けて課題を抱えている青少年もおり、その役割と必要性が年々高まってきた。また、対象者も新庄市内に限らず、管内の各町村に在住する者へと広がっていった。 そこで、平成26年度からは、最上全域に活動エリアを拡大するため、市教育委員会から最上広域青少年指導センターへ運営を移管することとなった。本指導センターは、昭和61年に、最上8市町村による合議によって生まれた協議会方式による組織で、新庄市教育委員会が事務局を務めるものである。 社会参加に欠く背景はさまざまで、長期的な支援が必要なケースも多く見られるため、医療及び福祉等の専門機関との連携が不可欠な状況がある。そのため、高い専門性とネットワークを備えた人材が求められるわけだが、本組織においては発足時から継続して役職を務めるカウンセラーの資格をもつ相談員が貴重な働きを担っている。 現在展開している事業は、以下の通りである。 ①仲間づくり・・・・・・毎週月曜日：自由な雰囲気での参加者による交流 ②個別相談・・・・・・毎週木曜日：個別相談会「リスタートカフェ」 ③アウトリーチ・・・・・・居住地施設での相談や家庭訪問支援等 ④他機関との連携・・・・適応指導教室等支援機関及び医療・福祉機関等 ⑤その他・・・・・・来所及び電話での相談等 従来の適応指導教室は、小・中学校における不登校児童生徒が対象であった

			め、学齢期を越えた不登校やひきこもりへの対応が、本地区でも大きな課題となっていた。その課題解決へ向けて具体的な一歩を踏み出している本取組は、誠に意義あるものとして推薦に値するものである。
福島県	学校	福島県立小高商業高等学校	平成21年度に創部された商業研究部において、商品開発や調査研究活動を通して、生徒の課題発見能力や課題解決能力をはぐくむ教育を一貫しておこなってきた。南相馬市小高区の地場野菜である“金房大根”を使用して開発した「小高だいこんかりんとう」が初期の代表的な開発商品である。それぞれの生徒が役割分担をしながら、販売先の開拓や地元での販売会の開催などに積極的に取り組み、生徒みずからがビジネスチャンスの発見と拡大に努めてきた。 平成23年3月11日に起こった東日本大震災とその後の原発事故により、学校は避難を余儀なくされ、商業研究部においても一時は活動停止を検討する窮地に陥った。しかし、当時の部員から「自分たちにできることをしたい」という声があがり、福島県の農家に深刻な影響を与えている“風評被害”の払拭を課題にした活動をはじめることになった。福島県内6カ所のJAから大根を仕入れ、自作のPRリーフレットを作成して全国的な販売展開を開始した結果、多くの方に購入してもらい売上を伸ばすことができたと同時に、たくさんの激励の言葉をかけていただいた。生徒にとっては、人間の温かみを改めて実感することができた貴重な体験となり、人間としての成長が促されるとともに、達成感と自信を自分のものにすることができた。 平成25年度からは、「地元の農産物」を「地元企業で加工」し「地元の販売店で販売」するという、1次・2次・3次産業をつなぐ“6次化商品プロデュース”を展開している。そのために、小高商業高校は相双6次化推進委員に登録し、自治体や地元企業と連携を密にして事業に取り組んでいる。 注目した農産物は、地元で栽培されてきた「九重栗」という品種のかぼちゃ。甘みが強いが水分が多くて日持ちしないこのかぼちゃを使って、お菓子を商品開発した。このかぼちゃを縦に切ると断面がハート型になるところから「はーとかぼちゃシリーズ」として4種類のお菓子の企画書を地元企業に持ち込み、試作してもらい、テストマーケティングも実施した結果、2種類を本格的に生産ラインにのせることに成功した。そして本格販売のための小売店との交渉の結果、南相馬市内にある3つの小売店と委託販売の契約を締結し、安定した商品の流れを構築することに成功した。検証の結果、1次・2次・3次産業それぞれで利益を得る結果を確認でき、地元の方にも喜んでもらっている。現在は通常の納品業務に携わったかわら、イベントでの販売会の実施やパブリシティを活用したPR活動を継続している。 【ホームページ】http://www.odaka-ch.fks.ed.jp/
茨城県	学校	桜川市立真壁小学校	平成21年度より、6年間継続して、様々な職業に携わる方の話を聞いたり、体験活動をしたりする「真壁小職業フォーラム」を実施している。 ＜具体的な取組＞ ①ねらい このフォーラムは、キャリア教育の一環として、児童の望ましい勤労観や職業観を育てるとともに、夢や希望をもち、その実現に向けて、日々努力していこうとする態度を育むことをねらいとしている。 ②対象 全児童（年度によっては学年指定） ③実施方法（教育課程上の位置付け） 総合的な学習の時間と学校行事で2時間ずつ、計4時間を当てている。 ④運営について

		運営においては、計画や準備、フォーラムの進行で、児童の主体性を生かすとともに、講師の選出と連絡・調整、会場の設営等では、学校とPTAが連携協力することで、フォーラムの開催を通じて、児童の健全育成と将来に向けたより強固な基盤づくりを実現している。 招聘した講師は、地域で特色ある職業に従事されている方を中心に、平成25年度は、20職種、23名、平成26年度は、26職種、29名に上っている。主な職種は以下の通りである。（平成26年度実績による） 自衛隊員、ダンスインストラクター、梵鐘製造業、二輪レーサー、石灯籠製作、石材業、和菓子職人、パティシエ、調理師、教師、保育士、助産師、警察官、消防士、酪農業、理容師、美容師、雑誌編集者、シンガーソングライター 等
学校	水戸市立第二中学校	1 キャリア教育充実のための取組 (1) 系統性を踏まえたキャリア教育の推進 ～「自己理解・自己管理能力」の育成～ (2) 地域の特性を生かした事業の展開 ～水戸二中『魁二の丸隊』の結成～ 2 取組の具体的説明 (1) 平成26年度から、以下4点について取り組んでいる。系統的に事業を展開し、スパイラル的に学習することで、「自己理解・自己管理能力」をより高めるように工夫している。 ①二中ゼミα～ハイスクール体験～（全学年対象） 近隣の私立高等学校・国立高等専門学校に協力を依頼し、生徒の学習意欲を高めるとともに、保護者と生徒とが進路を考える場を設けることで、今後の進路指導に活用している。 ②職業人から学ぶ二中ハローワーク（1学年対象） 飲食業、公務員、製造業、スポーツ、メディア・報道、看護師、弁護士、カメラマンなど地域で働く職業人を招き、仕事の内容や「働くこととは何か」、「中学生の時期に身に付けるべき力とは何か」などについて学んでいる。 ③「職業（伝統工芸）ミニ体験」～めざせ！マイスタープロジェクト～（1学年対象） 伝統工芸品（畳、和裁、建築板金、造園）の作り方を教わりながら、伝統工芸のよさに触れる体験をしている。 ④マナー講習会、職場体験学習（2学年対象） 職場体験の事前指導として近隣ホテルの副支配人を招いて、働く側と客との立場の違いや、相手に不快を与えないマナーなどについて講習会を開き、働くことへの意識を高め、職場体験へとつなげている。 (2) 第二中学校は日本遺産の旧弘道館に隣接し、大日本史編纂作業が行われた彰孝館が建てられていた地にあり、歴史と伝統に支えられた学校である。このような地域の特性を生かすため、平成26年度から、生徒が水戸の梅まつり期間に合わせて、観光者等を対象に水戸の歴史や文化遺産を案内する観光ボランティア活動『魁二の丸隊』の活動を行っている。学習会や実地練習を重ねることで観光ガイドに必要な知識や人をもてなす技能といったスキルに気付かせ、生徒の探究心を高めることで『課題対応能力』の育成を図っている。また、ボランティアガイド活動を通して自己の成長に気付かせ、地域社会の一員としての自覚を育み、郷土愛や愛校心を高められるようにすることで『自己理解・自己管理能力』の育成も図っている。観光ボランティアの活動内容は以下のとおりである。

			①ガイダンス ガイダンスを行い、活動のねらい、活動内容、時間数などについて見通しをもたせる。 ②地域理解 学校周辺の史跡見学を行い、身近な環境や歴史に興味・関心をもてるようにする。 ③調査活動 ア 水戸の環境、歴史、偉人についての調査 イ 周辺史跡の案内 ウ 実践活動 エ まとめ
栃木県	学校	宇都宮市立陽西中学校	1 観点①について (1) 組織的・系統的に取り組むキャリア教育 総合的な学習の時間、特別活動、道徳、土曜授業、社会体験学習等をキャリア教育の視点を通して関連づけ、系統的・体系的なキャリア教育を学校での教育活動全体を通して行っている。 その中核となるのが「キャリア教育推進会議」であり、定期的に(週に1回)開催されている。目標の設定、具体的な取組の検討をはじめ、実践の成果や効果等について検証し、適切にPDCAサイクルの確立を図っている。 (2) 具体的な取組 ①土曜授業における他校種や地域・産業界との連携・協力(全学年) ア 1年「働く人に学ぶ」…各種職業人を招聘し、直接話を伺う。 「上級学校訪問」…近隣の高等学校を訪問する。 イ 2年「進路学習会」…現役高校生及び高等学校職員から話を伺う。 「マナー教室」…職業人を招聘し、講話とマナー講座を実施。 ウ 3年「私立高校ガイダンス(6月)」…職員を招聘し、説明を受ける。 「高校入試説明会(10月)」…職員を招聘し、説明を受ける。 「高校体験ショートステイ(11月)」…高校を訪問し、校内見学や授業参観を行う。 ②宮っ子チャレンジウィーク(中2)…職場体験活動(5日間) 2 観点③について よさこいソーランによる「ふるさと宮祭り」への参加、地域協議会主催による奉仕作業など、地元への理解・愛着・誇りを育む教育を積極的に取り入れている。 (1) 地元への理解・愛着・誇りを育むキャリア教育 ふるさと宮祭りへの参加や地域での奉仕活動を通して、地元への理解・愛着・誇りを育む教育を取り入れている。 (2) 具体的な取組 ①よさこいソーランへの参加(参加希望生徒70名) 「宮っ子よさこい」へ陽西中として参加 ②地域協議会主催による奉仕活動(生徒会、各種委員会)
	学校	栃木県立矢板高等学校	県立矢板高等学校は、農業経営科・機械科・電子科・栄養食物科・社会福祉科の計5学科からなる総合選択制専門高校であり、地域産業の担い手育成を重点に教育活動を行っている。特に地域貢献活動を中心に、生徒一人一人の進路実現を目的としたキャリア教育活動に取り組んでおり、各学科の特色を生かし、学科間の連携を図りながら、次のような活動を実践している。 1 チーム☆道の駅「料理レシピの提供」 栄養食物科3年次の課題研究の生徒が中心となり、地元野菜を使った料理

		を募り(毎年 100 点以上)、その中から優れたものを試作・改良してレシピカードを作成し、矢板市「道の駅」に平成 23 年 3 月より毎年提供している。また、平成 24 年度には作成したレシピをもとに 2 種類の定食を考案した。この取組は道の駅の重点目標である「矢板のブランド化」「地域産業を盛んにする」「地域住民の交流の場づくり」に寄与しており、キャリア教育の一環として、主体的に課題を発見し解決していく力や創造性を育み、地域貢献を果たしている。 2 地域企業連携「やいた(焼いた, 矢板)おにぎりの開発と商品化」 平成 25 年度に栄養食物科は、東北自動車道「矢板北パーキング・エリア(株)ネクスコ東日本リテイル」からの依頼により、農業経営科が生産した米と矢板産の食材を使った“焼きおにぎり”「やいた(焼いた, 矢板)おにぎり」の開発を行うことになった。翌年の平成 26 年 9 月以降、「矢板北パーキング・エリア」の担当者を招き、上記の食材を活用した試食会が計 2 回にわたって行われ、数十種類の試作品の中から最終的に「オム焼きおにぎり」「越前煮魚焼きおにぎり」が選定され、商品化された。この活動を、主体的に課題を発見し解決していく力を育む取組としてキャリア教育に位置づけている。 3 福祉のこころ育成事業 矢板市福祉協議会の地域福祉の学びを深めることを目的とした「福祉のこころ育成事業」の取組より、平成 27 年 5 月 29 日、矢板高校は矢板市福祉協議会より「福祉のこころ推進校」に認定された。現在、福祉のこころ推進校として、福祉まつりや学生ボランティア活動、外出支援マップ協力店周知活動を実施しており、今後、シニアクラブ活動の企画運営などにも取り組んでいくことで、キャリア教育の充実を図っていく。 【ホームページ】http://www.tochigi-edu.ed.jp/yaita/
PTA 団体 等	那須 C E O 倶楽部	那須 C E O 倶楽部は、「会員同士がお互いに自分の心を開き、裸になって付き合える場を定期的開催し経営者として自らの経営感覚を革新すること。会員同士が共にビジネスパートナーとして結集・共生し、地域活性化の核を担うこと。」を目的とする、栃木県の県北エリアの若手経営者有志で組織する任意団体である。「地域社会活性化のための事業」として、地域の中学校や高校と連携して「進路学習パネルディスカッション」の開催、高校のインターンシップ事業に対する協力等、地域のキャリア教育の充実と円滑な推進体制の整備に大きく寄与している。 1 進路学習パネルディスカッション 黒磯南高校で実施している進路学習パネルディスカッションは、学校の「キャリア教育全体計画」において 1 学年・2 学年が取り組む活動として位置づけられ、目指す学校像の一つである「社会的自立に必要な意欲や態度を育てるキャリア教育が充実する学校」を達成するための特色ある教育活動として定着している。平成 16 年度に那須 C E O 倶楽部の協力の下に始まり、平成 26 年度まで 10 回実施されている。第 1 回目より一貫して、「生徒の望ましい職業観・勤労観や主体的な職業選択能力の育成」を目的とし、「自己実現を考える」をメインテーマに「仕事」「お金」「生き方」「夢」について、経営者、各クラス代表生徒、代表職員がパネラーとなり討論を行う内容で実施している。パネラーは 2 年生から選出し、それ以外の生徒は討論の中で、色のついたボードをあげて賛否の意志を表示する全生徒参加型の形態となっている。司会進行も那須 C E O 倶楽部が行い、活発な討論が行われる。終了後の生徒の感想からも、黒磯南高校のキャリア教育の目標にある「望ましい職業観、勤労観の育成」に大きく寄与していると考えられる。 2 インターシップ事業

			黒磯南高校のインターンシップ事業は、平成25年度に総合学科に再編され、1期生が2年生となった平成26年度より実施され、今年度で2回目の実施となる。学校の「キャリア教育全体計画」において地域・企業との協働としての事業に位置づけられている。 那須CEO倶楽部は、当初から事業に対して協力的であり、メンバーの経営する企業をはじめ、メンバーの仲介によって多くの受入先を確保することができ、事業の円滑な実施を可能にしている。
群馬県	学校	みどり市立東中学校	みどり市立東中学校は、全校生徒26名の小規模校である。恵まれた自然と温かな人的環境の中で地元企業や自治体と連携し、過疎という地域課題解決に向けて、「学校とともに地域も元気にする」という学校経営の重点のもと、「AZUMA PRIDE」を合い言葉として、生徒の地元への理解・愛着・誇りを育むキャリア教育を推進し、学校や地域の活性化に積極的に取り組んでいる。 1 学校全体としてのキャリア教育目標 地域や人との関わりの中で、自分のよさや役割に気づき、夢や希望に向かって努力し成長する生徒の育成 2 総合的な学習の時間における地域と連携した活動 総合的な学習の時間では、計画的に地域と連携した体験活動に取り組み、生徒自らが改めて郷土のよさを発見し、郷土を深く理解し、郷土を愛する思いを高められるよう、キャリア教育の推進・充実を図っている。 (1) 富弘美術館詩画朗読ボランティア 本学校の卒業生であり、手足の自由を失いながらも愛あふれる作品を描く詩画作家の星野富弘氏の作品が展示されている地元美術館で、観光客の方に向けて朗読している地域サークルと連携し、中学生としての視点を入れ込んだコラボ朗読会を実施している。若い息吹、サークル後継者と期待され、地元の中学生としての役割を担い、大きな賞賛を得ている。 (2) 創作ふるさと弁当の製作と販売 愛すべき郷土の食材をアピールしたいという思いから、本校生徒がアイディアを出し、創作ふるさと弁当とつくる活動を行っている。パッケージ制作、食材選定、調理、販売について、商工会女性部の支援、アドバイスを受けながら活動を進め、販売については、生徒自らが地域の商工祭において行っている。 (3) わたらせ溪谷鐵道駅舎清掃 美しい自然を楽しみに地域を訪れる方々へのおもてなしの一つとして、わたらせ溪谷鐵道本社やふるさと駅長、商工会女性部、PTAと連携して、学区内にある5つの駅を清掃する活動を行っている。 3 他校種との連携した活動 隣接小学校と合同で行う運動会で、本校生徒が中学生としての役目や役割を認識して、小学生を先導しながら、中心となって大会運営を実施している。また、「AZUMA PRIDE」を応援合戦やダンスで表現し、多くの地域住民が集まる場で、地域を大いに元気付けている。 このように、学校や地域から期待される生徒の役割を具現化し、郷土の誇りを発信、体験や活動に対する評価を通して、達成感や成就感を味わうことができるように取り組んできたことにより、学校活動全般において、生徒が何事にも積極的に取り組む姿勢が見られるようになり、キャリア教育で目指す姿を具現化し始めている。

	学校 群馬県立太田東高等学校	平成 18 年度から、主に総合的な学習の時間を活用して、社会人基礎力の育成に関する実践に取り組んできた。さらに、平成 19 年度から、これからの社会において活躍するために必要な教育としてのキャリア教育に着目し、進路指導部をキャリア教育部と変更するとともに、キャリア教育推進係を設置し、総合的な学習の時間とキャリア教育に関連する学校行事の企画・運営を中心に組み組んだ。近年は、総合的な学習の時間を活用し、基礎的・汎用的能力及び勤労観・職業観の育成に取り組んでおり、社会人による座談会、卒業生との交流会、大学・企業訪問やインターンシップなどの企画・運営を行っている。 平成 25 年度からは、総合的な学習の時間を中心に行っていたキャリア教育を、学校のすべての教育活動に広げて実践している。具体的には、教科の学習活動と実社会とのつながりを明確にする、学校行事・部活動等において社会人として身につけるべき能力を意識付けする、などの取組である。本校では、キャリア教育に関する一連の取組を『EAST Project～Embark on Adventures and Seek Treasures!～』と名付け、教育活動の柱に位置付けており、工夫・改善を加えつつ組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。 1 みらい学（総合的な学習の時間）での実践 「みらい学」は学校行事の事前及び事後指導を中心に展開している。学校行事を通して、基礎的・汎用的能力を育成することに着目し、自己評価によって身に付けた能力を確認させている。また、キャリア教育に関連する学校行事では、同窓会や連合群馬と連携したり、大学や企業と協力をするにより、効果的な実践を行うことができています。 (1) 公開みらい学 働くこと等について社会人講師から様々な側面から話を聞き、それを基に質問や討論を行う。生徒が自分自身の長期的な将来像や職業を意識し、高校卒業後の進路選択や今後の高校生活の充実に向けて考えるきっかけ作りを目的としている。この学校行事は、同窓会と連合群馬と連携し、毎年 70 名近い講師を招いて実施している。1 名の講師に対して生徒 4 名程度でグループを作り座談会形式で行う。今年度は、トピックを「働くこと」に限定せず、「社会人としての家庭や地域での役割等」へ広げて話し合いを行った。 (2) 「先輩からのアドバイス」「卒業生からのアドバイス」 「先輩からのアドバイス」は、卒業生（大学 4 年生）を招き、高校卒業後の生き方等についての話を聞く企画である。また、「卒業生からのアドバイス」は、入試を終えたばかりの卒業生から、大学入試に対する取組についての話を聞く企画である。この 2 つの企画を通して、生徒は自分自身の中期的・短期的な将来像をイメージしたり、今後の高校生活の充実のためになすべきことを考えたりしている。 (3) インターンシップ 平成 25 年度より、希望者を対象に行っている。普通科の進学校におけるインターンシップは県内でも先駆的である。大学卒業後の就職先をイメージし、職業への理解を深めながら自己の将来のビジョン構築の契機とするとともに、今後の高校生活において主体的に学ぶ態度を育成することを目的としている。インターンシップを通して、生徒自身が希望する職業に対する適性を考え、自己の進路を考えるきっかけとなっている。 (4) 生徒による高等学校間交流 この取組の目的は、成績面で上位に位置する生徒がさらに自分自身の可能性を広げ、向上心を育むとともに、学習におけるリーダーとして他の生
--	-----------------------	---

			徒に対しての影響力を高め、授業や課外活動で周囲を前向きな態度へと導くことにある。そのために、他校の進路に対する意識が高い生徒との交流の機会を設けたり、事前及び事後指導を充実させたりするなどして、課題対応能力やプレゼンテーション能力の育成にも力を入れた。今年度は、キャリア教育を積極的に実践している高等学校の生徒と授業をともに受けるなどの交流をした。授業では数学バトルや協力して数学の問題を解く活動などを行った。また交流会では、協力して太田の「ゆるキャラ」をデザインする活動を行った。これらの活動を通して、相手校の学習に対する前向きな姿勢やコミュニケーション能力の高さを実感し、生徒たちはこれからの高校生活での課題を明確にすることができた。 2 教科・科目における実践 従来ペアワークやグループワーク等の指導方法を取り入れた授業改善に積極的に取り組んできた。さらに授業におけるキャリア教育にも力を入れ、教科・科目等の学習内容と社会生活とのつながりを意識した授業を行うことにより、生徒自身が自らのキャリア形成を主体的に考えるとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成し、生徒の学習意欲向上に繋げている。 3 特別活動における実践 学校行事や部活動におけるキャリア教育の実践では、事前学習の中で、まず生徒自身に諸活動の目的や身に付くであろう資質・能力を意識させている。具体的には、文化祭では「コミュニケーション能力」「ストレスマネジメント力」「自己管理能力」の3つの資質・能力に着目し、生徒に対する意識付けを行った。このように特別活動を活用して常にキャリア教育を生徒に意識させることにより、効果的に基礎的・汎用的能力を育成している。
埼玉県	学校	埼玉県三郷市立北中学校	「自己実現を目指す進路指導・キャリア教育の推進」を柱にモデルとなる取組を多数、展開している。 1 夢を育む体験活動の推進 (1) JOC オリンピック教室 [4年連続開催(県1校のみ) 2年生全員参加。クラスごとに、オリンピック出場経験者から、エクセレンス(卓越)・リスペクト(敬意・尊重)・フレンドシップ(友情)というオリンピック精神を学ぶ] (2) 本物に出会う ふれあい講演会 [海外展開する農業生産法人の企業家や震災被災地を支援するボランティア活動をしている寝具店経営者など、社会の第一線で活躍する方々から学ぶ] (3) 積極的な生徒指導の推進 [平成25年度文部科学省主催 全国生徒会サミット参加。平成26年度香川県主催「いじめゼロ子どもサミット2015」香川県、福岡市、埼玉県が参加。インターネット中継による意見交換を行う。平成26年度埼玉県主催「Stop!いじめ in SAITAMA 2014」に県内中学生の代表パネリストとして参加 等、自己実現を図り、課題対応能力を育む取組を展開している。] (4) 職場体験学習 [2年生全員が3日間、市内の企業や事業所に出向き、社会体験学習を実施している。事前学習では、マナー講習を実施。社会性を培う。 事後の学習では、職業観に関するテーマを設定しディベートを行い、 I 職業観を深化させる II 根拠をもって意見を述べる(言語により分析し、まとめたり表現したりする)能力を育成する。地域の中にある学校という意識を高め、郷土を愛する生徒を育てている。]

		(5) ボランティア体験[生徒会が運営し、地域のクリーン作戦へ生徒が参加。地域に目を向けるとともに、他者と協同して問題を解決する力を育てている。また、市の清掃活動にも参加している。] 2 小中連携、中高連携の推進 (1) 高等学校出前授業[2学年の全員が体験。専門学科等の授業体験により、上級学校を知るとともに、職業観も養う。] (2) 高校の先生によるパネルディスカッション[実際の高校生活への希望をもち、高校選択の方法や、進学・就職の意義を捉える。] (3) リトルティーチャー事業[夏季休業中に、有志生徒が小学校の補習に参加し、児童の学習指導の補助を実施、子ども同士の交流をとおしたキャリア教育を実践している。母校だけでなく、複数の学校に赴く生徒もいる。児童への支援とともに、中学生として成長した姿を小学校教員に見てもらうことにより、中学生としての自覚を高めることにつながっている。] (4) 中学校紹介[生徒会役員及び2学年、1クラスが小学校を訪問。6年生に対し、中学校生活の紹介や質問に答える。また、合唱を披露し、中学生への憧れや中学校生活に対する期待、意欲を養う。] (5) 小中連携の推進[ハンドボール、吹奏楽など、中学生が小学校へ出向き、支援を行う。小学校の運動会に有志のボランティアとして参加し、用具や接待を担当。自己有用感、自信を育む。] 3 「キャリア教育の視点に立った総合的な学習の時間」～職業や自己の将来に関わる学習～の推進を軸として、社会的・職業的自立に向けて必要な能力を育成する総合的な学習の時間の展開 (1) 体験的な学習を重視した、年間指導計画の作成と実施 [1学年「情報収集・整理分析・まとめ・表現（発表）に関する基礎学習」 2年生「自己の将来にかかわる学習（職場体験学習）」 3学年「進路に関する啓発的活動」～自己実現に向かって～] (2) ディベートの推進 [職業や夢をテーマに、自分の考え方の変容を自覚し、よりよい生き方を追究する。3年生の決勝戦は、全校生徒が参加する。] (3) 進路適性検査の活用 [自己の適性を知り、主体的に将来に向けた課題と向き合おうとする態度を育成] (4) 上級学校調べ・訪問 [訪問や資料をもとに、新聞形式でまとめ、保護者にも発表する。] (5) ライフプランニング授業 [民間会社と連携し、人生設計について学ぶ] 4 保護者、生徒への啓発活動 (1) 進路指導だより『栄光の架け橋』 [上級学校の情報や進路選択に関する情報の提供] (2) 進路セミナーの実施 [年間4回実施。生徒、保護者が参加。入試や就職等にかかわる情報を提供する。与えられた情報を活用する能力を育成する。] (3) 全校生徒校長面接 [ソーシャルスキルトレーニングを用いた面接を実施。自分のよさや可能性に気づき、人生や将来を考える機会とする。] ☆様々な体験活動や講話を通し、職業や進路への学習意欲の向上を図ってい
--	--	--

			る。また、将来、職業人として自立し、時代の変化に対応できる幅広い能力を育成する教育活動を推進している。以上の理由により、三郷市立北中学校を強く推薦するものである。
千葉県	学校	千葉県立船橋二和高等学校	学校経営方針の1つに「教育活動全体を通じたキャリア教育の推進」を掲げ、「今ある教育活動」を十分に生かしたキャリア教育をデザインし、全ての教職員が、授業に限らず様々な場面で、高校生のキャリア発達を意識した教育活動を実践している。 1 「夢実現プロジェクト」の実施（計画的な3年間の指導） 各学年のテーマを、1年次「探る」（「自己」・「将来像」を探る）、2年次「定める」（自己実現の道を定める）、3年次「挑む」（進路実現に挑む）と定め、多様な教育活動を組み合わせ、自ずと社会的・職業的な自立に必要な能力や態度がバランス良く育成されるように工夫している。 2 「ヒト・モノ・コト」との出会いの創出（多様な体験活動） 本プロジェクトは、「自己」と「社会・他者」との関係を体感し、各生徒が、コミュニケーション能力を発揮してその関係をより良いものにしていく経験を重視している。特に、高校生としてのキャリア発達を目指して「地域に根差すボランティア活動」を推進している。加えて、多様な進路情報の提供と道徳教育の充実・体験や触れ合いを重視した校外行事等を実施している。 3 夢実現へのキャリア発達を踏まえたきめ細かな進路指導の実施 3年次では、多様な進路学習が実施されるが、進路や学年職員は、「情報の供給」だけでなく、「何のために」という目的意識を折に触れ問い返していく。生徒が「現在の自己と将来像」から情報を取捨選択するためのサポーターとして指導に当たっている。 また、2年次から職員と進路相談を重ねる等、進路実現への意欲を高め、明確な目的（夢や将来像）を持った進路選択ができるようにしている。 4 研究指定校 「高校生インターンシップ推進事業」（H17・18 千葉県教育委員会） 「総合的な学習の時間における新たなキャリア教育推進」（H21・22 千葉県教育委員会） 5 成果 これまでの研究活動の結果、生徒の自己肯定感や自己有用感、コミュニケーション力や人間関係形成力、地域社会での役割意識などを高めることができた。また、生徒の高校生活への満足度も高まり（本校へ入学して良かったと答える生徒の割合は87%）、3年生の進路決定率は毎年9割（27年3月は92%）を超えている。
	PTA 団体 等	浦安市立日の出中学校サポーターズクラブ	本校では、平成23年度より“働クエスト”と称し、キャリア教育の一環として、4ヵ年にわたり様々な職業に携わる外部講師を招聘している。運営は本校サポーターズクラブが担い、1学年の生徒を対象に、外部講師が職業に関する授業（50分×2時間）を実施している。本学校区における地域住民は、職業に関する高いポテンシャルを持っていることから、地域全体で生徒の職業観・労働観の育成に広く関与し、地域と学校との信頼関係が深まっている。同時に、地域コミュニティーを通じた教育の在り方についても、実践を通して研究を進めている。 1 具体的な取組 目的を「（1）様々な人の労働観・職業観に触れることを通して、働くことの意義・喜び・厳しさを知り、職業について考える機会とする（2）考えること（自己分析）から自己発見につなげ、自分の夢や希望を踏まえ目指す職業や働

			くことへの関心を自ら深めようとする態度を育む」とし、「生きる力」の育成を目指している。事前にキャリア教育学習ガイダンスや職業適性検査、調べ学習等を実施し、自己分析に努めさせながら興味・関心を持たせるように指導している。その結果、生徒は将来の人生設計に希望を持ち、事前の調べ学習でまとめながら働くことへの大切さや楽しさを予想する。当日は、自ら選んだ職業ブースで学び、工夫された講義型授業や体験型授業を通して、胸弾ませて学んでいる。事後は、講師への礼状を書くとともに、学んだことを各自がレポートにまとめ、リクルート主催によるトライワーク中学生編集版として一冊の本に仕上げている。 2 成果 本取組及び研究は、「関心・意欲・態度」及び「思考・判断・表現」との関係が深い。生徒の職業に関する興味・関心を存分に引き出し、意欲的に卒業後の進路選択を自ら選択する育みは、「人間関係形成・社会形成能力、課題対応能力」の育成に大きく関係している。また同校は、平成27年度に4つの“目指す生徒像”を設定しているが、その一つの「失敗を恐れず挑戦できる生徒」の育成に関する学習活動の工夫や評価方法について、本取組を通して明確にすることができている。
東京都	教育委員会	葛飾区教育委員会	平成18年度から管下の全ての中学校において5日間の職場体験を実施し、区内の中学生が望ましい勤労観や職業観を身に付け、地域や社会に貢献できる人材に成長できるよう支援している。また、平成26年度から平成30年度までの5年間にわたる葛飾区教育振興基本計画「かつしか教育プラン2014」を策定し、基本方針に子供の健全育成に向けた家庭・地域・学校の協働を挙げている。この中で、家庭・地域と連携しながら、「どんな状況にもたくましく対応し、社会人として自立していくためにキャリア教育」を小学校段階から推進するとともに、小・中学校で一貫した進路指導を実施している。 教育委員会においては、地域住民と学校とが連携し、キャリア教育をはじめとする教育活動が効果的に推進されるよう、「学校地域応援団」を組織し、地域と学校とが連携・協力して子供たちの成長を支援する体制を整備している。区教育委員会が実施した「社会教育関係者アンケート」（356名を対象に実施）では、「青少年の育成や教育、子育て支援にかかわる活動」に55.1%が「参加した」と回答しており、また、49.7%が「学校支援のためのボランティア活動を行っている」と回答している。さらに、「かつしか区民大学」を開設し、葛飾の特徴や魅力、さまざまな知識や教養、ボランティアや地域の活動を担う人材の育成など、区民が生涯にわたって学び続けられる環境を整備するとともに、その学びが学校や地域における教育活動に還元されていくサイクルを構築している。 以上のことから、推薦する。
	学校	小平市立小平第十四小学校、小平市立学園東小学校	小平第十四小学校と学園東小学校は同じ中学校区にあり、小・小連携を推進している。特にキャリア教育においては、プロフェッショナルや本物に触れる体験活動を基盤とした活動を展開している。具体的には、「八ヶ岳チャレンジ」として、移動教室において歴史、産業、文化等をテーマにした共通の体験学習を行う。事前の学習も、現地における学習も共通の地域住民や現地の講師による講話を聞いたり、支援を受けたりしている。また「お店番体験」では共通する商店街や公共施設に協力を依頼し、進学した中学校の職場体験にもつながっている。 別々の小学校であっても同じ体験を積み上げた生徒は、中学校では共通の基盤をもってキャリア教育の基礎的・汎用的能力を効果的に伸ばしつつある。商

		店や八ヶ岳における講師との調整もボランティアの役割であり、地域と2つの小学校が連携して、地域に根ざした児童の育成にあたっており、創意工夫が見られる。 上記の理由から推薦する。
学校	東京都立西高等学校	「①体験を通じて世の中について学び、②社会的・職業的自立及び自己実現の方策について考え、③身に付けるべき能力・技術・態度を理解し、④今の高校生活で何を学ばなければならないか」とする、西高校独自のキャリア教育のプロセスを開発した。 1 体験を通じて世の中について学ぶ ○ジョブシャドウイングで実体験から自らの職業や将来について考える ・西高校が、同窓会・保護者会の協力を得て、独自にジョブシャドウイングの連携先を開拓 平成23年度7名→平成24年度32名→平成25年度32名→平成26年度12名 ・ジョブシャドウイング開拓・連携先 アドバンテッジアドバイザーズ、三井物産、UDS株式会社、個人クリニック、総合病院他 ○海外交流事業 ・平成23年にインドネシア、平成24年にアメリカ・中国の高校生を招いて交流、平成25、26年度は海外リーダーシッププログラムとしてアメリカ研修（ハーバード大学、MIT、AMSA高校、国連本部などを訪問） ・世界の中の一員として、自国だけでなく他国の文化や価値観の理解を深め、自分は何ができるかということを多面的に考える生徒を育成 2 社会的・職業的自立及び自己実現の方策について考える ○キャリアガイダンス ・外部人材と連携した様々なプログラムを実施 ・「社会のイノベーションをデザインする仕事」（電通社員）、「地球のどこでも～人道支援の現場で働く」（国連難民高等弁務官事務所職員）等、OBによる訪問講義（全学年対象年4回）を実施し、自らの進路を考える契機としている。 ・パネルディスカッション（1年生対象、3月） ・卒業生による進路ガイダンス（2年生対象、年2回） ・外部講師を招いての進路講演会（1・2年生対象、年2回） 3 身に付けるべき能力・技術・態度を理解する ○「進路ノート」の活用 ・定期考査の学習計画、模擬試験の分析などとともに、自己理解、職業調べ、学部・学科調べ、オープンキャンパス報告、進路面談記録などのキャリアガイダンスの記録も一緒に記述させることにより、自己を振り返り将来への自覚を確立させる点が特長 4 今の高校生活で何を学ばなければならないか ○「進路のしおり」の活用 ・分析精度の高い「進路のしおり」（校内実力考査、センター試験結果及び合格大学との関連をデータに基づき分析した冊子）は他校に同様・同精度のものはなく、進路指導の重要な資料であり、これを活用することで、進路実現に向け、「目標をもった学び」となる。
学校	東京都立青峰学園	東京都特別支援教育推進計画（第一次実施計画）に基づいて、平成21年4月に開校。知的障害が軽度の生徒を対象とし、生徒全員の企業就労を目指す知的障害教育部門高等部就業技術科と、肢体不自由教育部門小学部・中学部・高等

		部普通科を併置した特別支援学校である。 就業技術科は、1 学年 40 人の定員制で、職業に関する知識や技能を身に付けるとともに、働くことの意義を学び、働き続けるための態度・体力を着実に身に付けられるよう、職業教育に重点を置いた教育課程を編成している。職業コースとして「ロジスティクス」「エコロジーサービス」「食品」「福祉」の 4 コースを設置し、卒業後の雇用現場を模した実習室等を使用し、実際的な実習を校内で実施し、本校教員の他、職業コース別に企業等から市民講師を招き、専門的な指導を行っている。 校内に「のんびりカフェ（喫茶コーナー）」を設置し、両部門が職業教育の実践の場としている。就業技術科では、福祉コースでの対人援助・接遇、食品コースで製造したパン・焼き菓子の販売、エコロジーサービスコースで育てた花の販売、などの実践の場として活用している。肢体不自由教育部門においても、小学部から高等部までを通して、身体的に可能な範囲でレジ打ちや「店員体験」等を行い、地域の方にも来店していただき、緊張感をもちながらの接客や職場体験の場として活用している。 さらに、就業技術科のロジスティクスコースでは、カフェで使う宣伝用チラシ等の印刷物を「授業内での仕事」として「受注・納品」をし、肢体不自由教育部門では図画工作や美術の授業で、切り紙細工や陶器の花瓶を、カフェ室内の装飾用に制作する等、両部門、全学部でそれぞれの実態に応じて「自分たちのカフェ」として経営に関与している。 このような取組により、児童・生徒一人一人が自らの能力・適性を理解し、十分に発揮できることから、将来の自立と社会参加に向けた意欲向上が図られている。 このような実践をはじめとする本校の教育活動の成果として、平成 21 年度から高等部の卒業生を送り出しているが、進学・就職希望者は毎年ほぼ全員がそれぞれの希望をかなえている。そして、平成 26 年度の高等部卒業生は、両部門ともに就職希望者は 100%進路先を決定することができた。また、肢体不自由教育部門の福祉サービスを受ける生徒も、全員進路先を決定できた。 本校の実践は、公開研究会に全国から参加者が訪れたり、全国の特別支援学校に加えて、特別支援学級を設置する中学校の教育課程改善の参考にされたりするなど、障害のある児童・生徒に対するキャリア教育の推進に、大きな貢献を果たしている。
学校	昭和第一学園高等学校	【キャリア教育の取組について】 1 昭和第一学園高等学校では平成 26 年度 4 月より新たに専門のキャリアカウンセラーによるキャリア相談室を開設した。豊富な企業経営や人事採用育成を熟知したキャリア教育専門の相談室長が、生徒が「将来なりたい自分」の発見や夢実現に必要なスキル獲得への助言、そしてまさしく実現のためのロードマップを描けるようになることを目指して生徒と一緒に考える。月曜日～金曜日の昼休み及び放課後 6 時までの相談時間とし、部活終了後の対応も考慮しながら相談業務を行っており、本校の特色の一つであるキャリア相談者数の多さに繋がっている。 2 昭和第一学園高等学校では、普通科・工業科の各コースに合わせて、週に一度、キャリア学習の時間を設けている。情報や知識の不足や生徒の思い込みにより、本当に自分に合った進路を見つけられなかったということのないよう、多角的に自分自身を振り返り、進路を考え、社会を見つめていけるようなサポートを行っている。 また、卒業生(大学生)を呼び、「大学生トークライブ・・・大学生生活」開催

			や社会で活躍している方に加えて、保護者の皆様にもご協力いただいた講演会なども実施している。 3 特別活動におけるキャリア教育については、文化祭等あらゆる機会を活用している。
	PTA 団体 等	小平第二中学校 学校支援 コーディネ ーター及びP T A	小平第二中学校学校支援コーディネーター及びP T Aは、当該校のキャリア教育の目的を具現化させるための学校と家庭、地域の円滑な連携に大きく貢献している。具体的には、学校支援コーディネーター、管理職、教員、保護者、地域などで構成する学校支援コーディネーター部会を必要に応じて開催し、キャリア教育の主な活動場面となる職場体験や福祉体験や職業人の話を聞く会などに適切な人材や事業所の情報提供をしたり、保護者ボランティアの勉強会を主催したりして教育活動を支援している。学校支援コーディネーターの支援により、学校は計画的かつ地域と連携したダイナミックなキャリア教育を実現している。 当該校のコーディネーターの活動は、他の学校の模範的存在である。当該校では、他の活動においても家庭や地域から安定して協力者を確保できているのは、コーディネーターとP T Aによる長期の目標をもった地道な活動が理解されているからである。 上記の理由から本団体を推薦する。
神 奈 川 県	学校	横須賀市立馬 堀中学校	「よこすかキャリア教育推進事業」を活用し、1年生での市内にある無人島活性化への参画と2年生での職場体験学習をキャリア教育の中核に据えながら、3年間を見通して生徒の育成にあたっている。 【馬堀中学校のキャリア教育のねらい】 社会の一員として、より豊かに生きるため、自分を見つめ、主体的に自分の人生をきりひらく態度と力を体験を通して培う。 ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心に基づいた、生き方や進路に関する現実的探索 ・望ましい職業観・勤労観の形成と、職業に関する知識・技能の獲得 ・人との関わりや思いやりに関する理解と具体的行動力の育成 [各学年における目標] 1年生 ・自分のよさや個性を自覚する。 ・自己と他者との違いに気づき、尊重しようとする。 ・集団の一員としての役割を理解し果たそうとする。 ・自分の将来について考え、より具体的な希望を持つ。 2年生 ・他者との関わりを考え、自分の言動などが他者に及ぼす影響を理解する。 ・社会や大人を客観的にとらえ、社会の一員としての自覚をもつ。 ・将来の夢を達成するため、現在の自己の課題を見つけ、その解決に向け努力する。 3年生 ・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。 ・社会の一員としての義務と責任を理解する。 ・将来の進路の道筋をたてながら、実現するための努力をする。 キャリア教育の視点を生かした教育課程を編成し、家庭や地域との連携と開かれた学校づくりを推進している。

	学校	神奈川県立城郷高等学校	本県では、これからの社会を担う自立した社会人を育成するため、積極的に社会参加するための能力と態度を育成する実践的な教育をシチズンシップ教育としてキャリア教育の一環として、教育課程上に位置付け、平成 23 年度より、すべての県立高校及び中等教育学校において、取組を進めている。 城郷高校は、本県のシチズンシップ教育に係る研究推進校であり、特に政治参加教育において、県選挙管理委員会、かながわ選挙カレッジの大学生と連携し、架空の候補者を立てて、選挙公報の作成、立会演説会の開催等も工夫した実際の選挙を対象とはしない模擬投票に意欲的に取り組み、本県におけるシチズンシップ教育の充実に向けた新たな方向性を示した。 また、司法参加教育に関しては、6 月の 3 学年「政治・経済」の授業における、日本の司法制度及び裁判員制度についての学習を踏まえ、11 月に 3 学年「総合的な学習の時間」において、横浜弁護士会と連携して裁判員制度のしくみについて学習するとともに、模擬裁判を行った。用意された裁判事例をもとに生徒が裁判を進め、その後、グループに分かれて評議・評決を行い、その結果を互いに発表し合うなど、実践的な学習に取り組んだ。 城郷高校の取組は、公職選挙法の改正による選挙権年齢の引下げを受けて、今後、シチズンシップ教育の更なる充実を目指していく本県において、他の県立高校の模範となる意欲的、先進的な取組であり、キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績があった学校として評価できる。 以上のことから、城郷高校を、キャリア教育優良学校としてふさわしい高校であると判断し、推薦する。
新潟県	学校	胎内市立中条小学校	「ふるさと胎内への愛着や、誇りに思う気持ちが薄い」「自ら課題を見つけ主体的に課題解決をする姿勢に弱さがある」といった児童の実態が、各種調査から教育上の課題として明らかになった。そこで平成 22 年度より「自ら課題を追究し、ふるさと胎内への思いを高める子」を目指す子ども像として設定し、郷土愛を軸としたキャリア教育を教育活動の中核に据え、以下のように取り組んだ。 1 取組の概要 (1) 各種計画の見直し ①キャリア教育全体計画及びキャリア教育プログラム キャリア教育の全体計画を見直すとともに、「郷土への愛着」の視点をはじめとして、「つばさっ子プラン」（中条小学校キャリア教育プログラム）の改善により、各学年が取り組む内容を明確にし、系統的に取り組む体制を整えた。 ②総合的な学習の時間全体計画 「体験活動と言語活動を適切に組み込んだ探究的な学習過程の組織」「連続性・発展性をもたせ、地域の方々と協働的に学ぶ単元配列」等を柱に総合の全体計画を見直した。また、総合で育てたい力を「基礎的・汎用的能力」と結び付け、明確化、具体化した。 (2) 「ふるさとへの思いを高め、自ら課題を追究する子ども」を育てる総合の充実 ①地域のよさにたっぷりと触れ、地域の課題を自分事として捉えるための 2 段階の単元構成 総合的な学習の時間を 2 段階の単元構成とし、地域を学習材として児童が地域のよさや問題状況に触れ、かわり、地域の課題解決に児童が参画できるようにした。具体的には、第 1 単元を地域の「ひと・もの・こと」にたっぷりと触れ、地域のよさや問題状況をとらえる単元「ふれ

			る・かかわる（30 時間程度）」。そして、第 2 単元は、第 1 単元の学びを踏まえ地域の一員として地域の課題に「働き掛ける（40 時間）」単元とし、児童が探究的に課題解決に取り組める学習過程を組織した。 ②探究的な学習過程の組織と課題意識を高める体験活動と言語活動の充実 各単元において探究的な学習過程を構築し、各学習過程において児童の拡散した意識を収束し、課題を焦点付けるように体験活動と言語活動を組織した。児童自ら課題意識を高め、地域の諸課題を自分事の課題として捉え、主体的に課題解決を図れるようにした。 （3）関係機関との連携 ①地域の方と協働的に課題を解決する体制づくり 教務主任、総合主任及びキャリア教育主任が窓口となり、地元企業や地域活性化に取り組んでいる団体等に働き掛け、地域の課題解決に向けた児童の参画可能性について話し合い、協力を要請した。 ②胎内市教育委員会との連携 胎内市教育委員会では、平成 20 年度から「ふるさとを学び、ふるさとをつくる」教育を推進し、全小学校の 5 年生を対象として「ふるさと体験学習」を実施してきた。そして、キャリア教育推進協議会を設置し、小・中・高等学校及び地域、産業界からの参加を得て、キャリア教育に対する成果と課題について協議し、各学校でのキャリア教育の一層の充実のために取り組んでいる。 2 成果と課題 （1）成果 ・第 5 学年のアンケート調査において「胎内市を好き」「胎内市のよさについて詳しく言える」と回答する児童は、95%以上である。また、「わたしのふるさとの自慢は、胎内市の自然、文化、歴史とともに、胎内市の活性化に尽力してくれる人たち」と多くの児童が作文等で述べている。 ・地域の方々と協働的に課題解決に取り組むことで、地域の課題を児童が自分事として捉え、意欲的、主体的に追究活動に取り組む姿が見られた。 （2）課題 ・小学校で培った力を中学校にいかに繋げて、伸ばしていくかが課題となる。9 年間を見据えた系統的なキャリア教育を小中連携を図り構築していく。 校長のリーダーシップの下、胎内市が推進している「ふるさと体験学習」及び総合的な学習の時間の取組において、ふるさとへの愛着や誇りに思う教育を積極的に推進していることから優良学校に推薦する。
富山県	学校	高岡市立戸出中学校	1 自らの在り方生き方を追究する戸出中学校のキャリア教育 戸出中学校では、平成 24 年度より学校運営の柱の一つに、「将来の目標や夢をもった生き方」の追究を掲げており、県教育委員会による 2 年生の「社会に学ぶ『14 歳の挑戦』」を核とし、1 年生での「13 歳の学び」、3 年生での「15 歳の選択」とあわせ、発達段階に応じ、3 年間を見通したキャリア教育を組織的、系統的に推進している。これらを通し、自己や他者への理解を深め、将来の生き方や働き方について考えることができる生徒の育成、進路の多様な可能性を見だし、望ましい勤労観、職業観を身に付けた生徒の育成に取り組んでいる。 2 3 年間を見通した戸出中学校の主な取組 （1）将来に対する夢やあこがれをもたせる取組 「13 歳の学び」（1 学年：2 学期）

		・様々な職種の専門家（地域の方）を講師として招聘し、専門的な知識や情報をもつ方々と語ることで、働くことの意義や目的、苦勞や生き甲斐を学ぶ中から将来の夢や職業への関心・意欲を高める機会としている。 （２）自己理解を深め、職業観・勤労観を培い将来の生き方を考えさせる取組 「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」（2学年：1学期） ・2年生全ての生徒が5日間の職場勤労体験をしている。職業の意義や勤労の大切さを学ぶとともに、職業観を培いながら自分たちの将来の生き方を考える啓発的体験となっている。 「生き方講演会」（2学年：1学期） ・「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」後、経済団体、企業等から講師を招聘し、社会で活躍している方の夢や志をもった生き方から学ぶ講演会を実施している。勤労体験によって膨らんだ職業への思いや希望、社会における自己表現について、さらに考えを深める機会としている。 （３）自己の将来設計を具体化し、達成に向け努力する生徒を育む取組 「15歳の選択」（3学年：1学期） ・本校を卒業した先輩（高校生）を講師に招き、先輩の体験に学ぶ会を開催している。さらに上級学校の教育課程や進路状況などを調べる学習活動やオープンハイスクールへの参加を通じて、自己の進路を具体的に意識できるように工夫している。 「進路懇談会」（3学年：2学期） ・国公立・私立の普通科、職業科等様々な上級学校から講師を招聘し、生徒と保護者が共に聞く学校説明会を実施している。進路情報を共有することは、上級学校卒業後まで見通した将来設計を親子で一緒に考える機会ともなっている。また、将来を具体的に意識させることで、学習意欲が高まる効果もみられる。
学校	富山県立富山商業高等学校	1 模擬株式会社「TOMI SHOP」の活動をととしたキャリア教育 ・①望ましい勤労観、正しい職業観の育成、②商業人としての経営管理能力の育成、③起業家精神の育成、④問題解決能力、協調性、責任感、創造性の育成、⑤地域社会に貢献できる職業人の育成をねらいとして、①生徒販売実習 模擬株式会社「TOMI SHOP」、②企業経営者によるキャリアガイダンス、③地域の企業と連携した商品開発など、総合的な体験学習に取り組んでいる。 2 生徒販売実習 模擬株式会社「TOMI SHOP」の運営 ・毎年、生徒と教職員が出資し模擬株式会社を設立し、商業で学んだ知識や技術を生かし、商品企画、仕入、販売、決算業務など一連の企業活動を、生徒の主体的な活動によって実践している。 ・毎年11月に2日間校内で学校デパートを実施している。14期目の平成26年度は約8,100人の来場客数があり、アンケートによるお客様の満足度も満足以上の割合が約99.1%と評価を得ている。 3 企業経営者によるキャリアガイダンス ・「TOMI SHOP」の経営について、地元経済団体や地域の企業の協力を得て、働くことの意義や社会人に求められることなど様々な視点からアドバイスを受け、起業家精神、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などの育成に努めている。 4 商品開発 ・地元企業等の指導・助言により「TOMI SHOP」で販売する商品の開発を行っている。

		5 仕入先研修体験学習 ・「TOMI SHOP」の協力先企業で研修を行うことにより、販売員としてのスキルアップや社会人としての心構え等を学び、その成果を「TOMI SHOP」の経営に生かしている。 6 他校種との連携 ・「TOMI SHOP」の活動で身に付けた接客応対の技術を生かし、地域の中学校へ出向き、マナー教室等で指導に当たるなど、地域社会への貢献を図っている。
学校	富山県立中央農業高等学校	1 農業高校におけるキャリア教育の実践 ○農業を通した様々な活動の実践により、生徒の基礎的・基本的な知識・技能の定着と問題解決能力を育成している。 【企業等と連携した活動】 ・持続可能な農業を目指した循環型農業に取り組み、除草剤等の農薬を使わず、米ぬかを使った水田雑草の抑草を研究し、企業と連携してエコペレットや米糠圧縮製剤を開発し、後者については特許を取得している。 ・ヤギを活用した高速道路法面の除草による二酸化炭素排出低減効果に関する調査を実施している。 ・学校の寮から廃棄される廃食油に着目しバイオディーゼル燃料の使用について企業と連携し研究実践に取り組んだ。バス、トラクタの運行、ハウス暖房などに活用し、また廃油回収で地域との連携も深めている。 【地域の課題解決に向けた活動】 ・高齢化、後継者不足から栽培農家が減少している「万願寺スイカ」の産地復活プロジェクトを開始し、栽培技術の伝承と地域の農業の活性化を目指している。 ・棚田保全の必要性や中山間地域の農業について理解を深めることを目的として、平成 13 年度より生徒有志のボランティア「棚田を守り隊」を組織し、棚田の畦草刈りを毎年実施している。 ・中山間地の獣害対策としてモンキードックを育成し、被害の低減を図るとともに、モンキードックを活用したイベント実行委員会を組織し、地域の活性化にも貢献している。 ・エンツアイ（空心菜）を活用したファイトレメディエーションによる福島県川内村のセシウム汚染土壌の修復に関する研究を高大連携で取り組んでいる。 これらの活動は達成感や自己有用感を醸成するとともに、地域理解、愛着、誇りを育むことにつながっている。
石川県	学校	石川県立宝達高等学校は、中能登地区に位置し、今年で創立 43 年目になる普通科 2 クラスの小規模普通高校である。「ふるさとに誇りを持って地域の発展に貢献できる人材の育成」を中・長期目標に掲げ、地域との連携や小・中学校の交流活動、ボランティア活動の参加等を通して、ふるさとを愛し、地域社会の活性化に主体的に参画できる人材を育成し、地域から信頼される学校づくりに取り組んでいる。 【インターンシップなどの体験的な学習の充実】 地元企業 45 社以上の協力を得て、平成 11 年度より就業体験を 17 年連続実施している。その体験は毎年学年全員で参加するもので現在は、2 年次に 3 日間の経験を通して、働くことの姿勢や認識を高めている。また、3 年次にも就職希望者に対して希望企業での就業体験を実施し、企業や職種のミスマッチを防ぐシステムづくりに努めている。全ての教員が企業訪問したり、就業体

			験の担当をするなどしてキャリア教育への共通理解を深めている。その結果、個に応じたきめ細やかな進路指導につながっている。 【地元特産品を活かしたスイーツの開発（平成 22 年～）】 平成 22 年に宝達志水町のふるさと振興事業の一環として、同町の特産品をふんだんに使ったスイーツを創作した。地域活性化に一役買いたいと生徒が考案したレシピをもとに、地元の菓子店（同校の先輩パティシエ）が商品化し、6 つのジュエル（宝）スイーツが誕生している。地元の「桜まつり」や県産業教育フェアで販売し全国的にも好評を得ている。（平成 25 年農林水産省フードアクションニッポンアワード入賞） 【地域交流活動】 老人ホームでの高齢者との交流、子ども会での調理ボランティア活動、宝達山クリーン登山活動（宝達志水町小中高生徒が合同でクリーン活動に参加）、まちなかフラワーロードづくりなどの取組やジュエル・スイーツ開発など地元根ざした活動を通して地域貢献できる人材の育成を図っている。（第 19 回北國あすなろ賞受賞） 【外部人材を活用したキャリア教育等に係る講話やガイダンス等】 ジョブカフェ石川から講師を招いて、インターンシップの事前就職指導講話や就職内定者セミナーなどを実施し、生徒の人間関係形成能力や状況対応能力などの育成に努めている。また、租税教室や金融講座を通して、社会に巣立つ前のフォローアップ体制を充実させている。 これらのことから、本県教育委員会は当該校をキャリア教育優良校として推薦する。
福井県	学校	福井市至民中学校	福井市至民中学校では年間を通して、家庭、地域社会や産業界など学校外との教育資源を有効に活用している。その中で、学校と様々な者がパートナーシップを発揮して、それぞれの役割を自覚しながら連携・協働した一体的な取組を実践してきた。実践においては生徒一人一人に丁寧な支援を行いながら、将来、社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現できる力を育むとともに、人間関係形成・社会形成能力を培っている。また、地域社会と連携した体験活動は、生徒の地域に対する誇りや尊敬・愛着の念を高めている。 1 豊かな体験活動を支えるキャリア教育に係る連携組織 保護者に加えて、校区の地域住民で結成された組織『サポート至民』や南江守生産組合、南江守環境保全組合、社南公民館、JA 福井支店など、校区にある地域組織と手を取り合って、年間 20 以上の地域連携活動を行っている。特に『サポート至民』とは毎週金曜日の午後、学校関係者を交えて「定例会」を開催しており、活動の打合せはもちろん、地域の各種団体との調整も担っている。時には各教科のゲストティーチャーとしても活動するなど、学校教育全般にわたり地域社会と強力に結びついている。 また、福井大学教職大学院との連携も図っている。院生が『サポート至民』の「定例会」に年間を通して参加することで、農業体験等活動をはじめとする諸活動に企画段階から関わり、生徒の活動を支援している。 2 地域社会と連携した体験的な学びから達成感や満足感を得ることによる自信や自己有用感の獲得 文化祭における地域交流タイムでは、『サポート至民』の支援により卒業生、保護者など地域住民 100 名以上を講師に招いて 20 講座を開設し、文化や歴史に関わる体験的な学びを毎年行っている。事前に生徒一人一人が目標を立ててから講座を体験することで、達成感や満足感を得ている。そして、

		自分自身に自信を持つとともに、肯定的な自己理解を促している。 田植え・稲刈り体験（南江守生産組合と JA 福井社支店の協力）、サツマイモの苗植え・芋掘り体験（南江守環境保全組合の協力）などの農業体験では、地域の農業に従事する方とともに、自然に触れ、自然の恵みに感謝する気持ちや態度を育てている。さらには、収穫感謝祭と銘打って農業体験に協力していただいた地域の方を昼食に招待して、今までの支援に感謝をしながら、協力していただいた地域の方との交流を深めている。また、公民館まつり（社南公民館との連携）に代表者が参加し、中学生も地域の一人としての自覚を持ち、責任ある行動をとることをめざすなど、地域に貢献する取組も数多く行っている。近年の生徒の参加状況は増加傾向にあり、生徒の地域社会への関心や地域社会への参画の意識も高まっており、自己有用感の獲得につながっている。 3 家庭、地域社会や産業界と連携・協働した職場体験学習の推進 生徒たちに「働くことの意義」「社会の担い手としての役割の理解」を伝えるため、中学1年生で3日間、中学2年生で3日間、生徒一人あたり計6日間の職場体験学習を実施している。そこで270名程度の生徒が同時に職場体験学習に取り組めるよう、地域や保護者だけではなく、経済界（経済同友会、福井青年会議所、福井商工会議所青年部等）の協力を得て、事業所の確保や事前指導（福井青年会議所「地域の担い手作りプログラム」の利用）を行っている。特に事業所の確保においては、福井県経済界と市教育委員会との連携で作成した福井市中学校職場体験学習受入リスト（各事業所からのエントリーシートをまとめたもの）も利用して補充している。事後指導では事業所への礼状書き、体験内容・事業所のPR・体験の感想を記載した新聞制作など、生徒が自分自身を見つめ、成長したことを実感できるような活動を取り入れ、自分の生き方を考える機会を設けている。さらには、事業所へ実施したアンケート調査の分析（生徒の実態把握）を行うことで、職場体験学習を通して学校の課題と向き合い、改善に努めている。 4 各教科等と関連づけた取組 3年生の社会科（公民的分野）では、金融機関の支店長等をゲストティーチャーに招いて金融教育を行う際、働くことの意義などの勤労観や職業観も含めた講話となるよう要請している。また、1年生の技術科の栽培の授業では、花の苗植えに『サポート至民』をゲストティーチャーに招いて、土壌づくりからポット苗を植えるところまで指導を受ける際、共同作業を通して協調する態度などの醸成に努めている。さらに、3年生の家庭科の保育の授業では、保育体験にて園児と触れ合う活動などを通して、自己理解の深化と自己有用感の高揚を図っている。このように日常の学習活動においても、一人一人の生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力としての「基礎的・汎用的能力」を育成するための実践を学校全体で推進している。 【ホームページ】http://www.fukui-city.ed.jp/shimin-j/
学校	敦賀市立栗野中学校	敦賀市立栗野中学校は、「栗野地区に対する理解・愛着・誇りを育み地域に根ざした職業観を育成する」ことを目的に、伝統文化を継承する地域住民、地元企業や自治体関係機関等と連携した「地域指導者教室・進路学習会」を、平成13年度より継続実施している。多様な学びや体験活動をととした「生徒が自ら考え、行動できるキャリア教育」を目指し、次のような活動に取り組んでいる。 1 地域指導者教室 伝統、文化、自然をテーマに、地域のゲストティーチャー約40名が14

		講座を設定し、生徒に直接体験の機会を提供している。本活動は、伝統文化や地域の行事を生徒と共につくる講座や、優れた技術を学ぶ講座等、学校と地域でつくる独自の取組になっている。具体的には、栗野地区の踊りを習う「柴田音頭とすてな踊り」をはじめ、「ゆかた着付け」「そば打ち」「和太鼓」「茶道」「大正琴」「囲碁・将棋」「切り絵」「手芸」「竹細工」「エネルギー環境と科学技術」等を開設している。 本教室は、社会生活や仕事をしていく上で基礎となる「人間関係形成・社会形成能力」を学ぶ活動となっている。価値の多様化が進む現代社会において、多様な性別、年齢、個性、価値観等を持つ人や社会とのかかわりづくりとなる本教室は、自分に必要な知識や技能、能力、態度に気づく機会となっている。 地域の方々の熱意ある指導は、生徒の主体的な活動を支え、学びを深めている。また、ゲストティーチャーとの共同作業は、地域をより身近に感じ、将来の生き方を考えるキャリア教育の貴重な機会となっている。全校生徒が地域の指導者とふれあい、地域で生きる良さを学ぶ体験を積み重ねる本実践は、「ふるさと意識の高揚」を推進する敦賀市の中でもキャリア教育の模範となっている。 2 進路学習会 本学習会は、地元企業や自治体関係機関から約20名のゲストティーチャーを招き、「ふるさとで働く喜び・誇り」を直接学ぶ活動である。「マスコミ」「放送」「幼児教育」「防災」「スポーツインストラクター」「建築関係」「自動車整備・販売」「飲食店（料亭）」「医療関係」等、10講座を開設している。 1年生は「職業について学ぼう」、2年生は「職業について深く知ろう」のテーマで、ゲストティーチャーによる講話・実演を通して「働くこと」の意義を学び、「自ら主体的に判断しキャリアを形成していく力」に繋げている。また、3年生は「先輩から高校について学ぼう」のテーマで、地元高校に進学した本校出身者をゲストティーチャーに招き、学校生活について聞く機会を設けている。地域の方や身近な先輩とのふれあいは、進学に向けた不安を和らげ、進路意欲を高める貴重な機会となっている。 本学習会は、生徒が未来に向けたイメージを膨らませ、地域から自分の生き方のモデルを見つけながら「キャリアプランニング能力」を高めていく活動として、栗野中学校にしっかりと位置づいている。 このような、14年間に及ぶ「地域指導者教室・進路学習会」をとおした地域との連携による、組織的・継続的なキャリア教育の取組は、生徒の地元への理解・愛着・誇りを着実に育んでいる。また、地域のゲストティーチャーが、自分の趣味や生き方を紹介したり、生徒に指導したりすることにやりがいを感じる方も多く、地域を活性化させる重要な活動となっている。この継続した取組が、2年時に実施する「社会体験活動（職場体験）」や3年時の「進路相談会」と連動し、より効果的な社会的・職業的自立へのキャリアプログラムを生み出している。 【ホームページ】http://edu.ton21.ne.jp/awa-cyu/
学校	福井県立奥越明成高等学校	平成23年に、工業、商業、家庭、福祉に関する学科を設置する福井県初の総合産業高校として開校した。「地域に親しまれ、信頼され、必要とされる学校」、そして「地域を創造する学校」をモットーに、地域の産業・文化を担い貢献できる人材の育成をめざし、地域社会とのつながりを大切にしたい取組を展開している。

			生活福祉科福祉コースを除く学科・コースで、2年次に3日間のインターンシップを行い、就労意識の向上を図っている。また、希望生徒を対象に「実践的長期企業実習」を夏季休業中に行いより高度な技能の習得を図っている。また、3年次には進路研修を実施し、各学科ごとに関連する企業等を見学し、企業に対する見識を深めるとともに進路について考える機会としている。 全学科・コースの取組として、毎年「越前おおの産業と食彩フェア」に参加し、大野市および大野商工会議所、地元産業界との連携・交流を図っている。また、各学科では、その学科の特色を活かした地域連携活動を積極的に行っている。機械科では、地元商店街から「あんどん」製作を依頼され納品している。また、電気科とともに、地元企業の協力を得て太陽光発電および小水力発電システムの研究を行い、地元に着目した環境エネルギー教育活動を行った。ビジネス情報科では、学校設定科目「観光」および課題研究で、観光ポスターやミニコミ誌の製作、観光案内DVD・名所マップの作成、地元商店街やイベントでの出店等を行っている。多角的な視点から観光を理解するだけでなく、地域と連携して地域振興についての提案を行い、積極的に地域課題の解決に取り組んでいる。生活福祉科では、地元食材を使ったレシピの開発や地元企業と連携した商品開発を行っている。また、全国高校生食育王選手権や地域の料理コンクール、公民館主催の料理講習会等に参加するなど地元食材の魅力をアピールしている。 このように、奥越明成高等学校は、地域に根ざした教育活動を展開し、校内外で地域との連携や交流を積極的に進めることで、地域を担う人材の育成をめざすキャリア教育を実践しているため推薦します。
山梨県	学校	山梨県立塩山高等学校	平成26年度～27年度の2年間、山梨県教育委員会のキャリア教育推進実践研究校の指定校として、総合的な学習の時間、各教科・科目、インターンシップを含む特別活動等を中心に、学校全体で組織的・系統的にキャリア教育の実践を推進している。特に総合的な学習の時間における地域の課題に対する探究活動や、商業科2年生全員を対象としたインターンシップ、学園祭における地域産業に関わる企画の実施、商業研究部の地域の活性化への取組をはじめ部活動や委員会活動を通しての地域との連携など、甲州市唯一の高校として、地域の保育園・幼稚園・小中学校・自治体・民間施設・企業などと連携し、体験的な活動を展開している。 また、校内研修会を通して、生徒の実態と目標を教員全員で共有し、キャリア教育理論やシンキングツールの活用方法を学び、共通認識や理解を図りながら、全教職員でキャリア教育を推進している。 1 総合的な学習の時間における、地域との連携を重視した探究活動の取組 全体テーマ「社会に生きる」のもと、1年生は「社会を知る」、2年生は「社会の仕組みを学ぶ」、3年生は「社会の中で生きる」をテーマに探究活動を行っている。 〈1年生〉新聞を活用した探究活動と発表／博物館研修と発表／卒業生から職業の話を聞く体験活動と発表／上級学校及び企業見学、職業調べと発表 〈2年生〉生活設計・コミュニケーショントレーニング／地域でのインタビュー実践と発表／沖縄から世界を知る探究活動と発表 〈3年生〉社会・地域の課題に対する探究活動と発表 平成26年度「山梨のおもてなし」山梨県庁でのプレゼンテーション 平成27年度「地域の活性化」甲州市役所でのプレゼンテーション

			2 各教科・科目におけるグループ活動・発表を重視した取組 各教科・科目において、グループ活動や自分の意見を発表する場を設け、コミュニケーション能力や自己肯定感、課題解決能力を培うことを目指す。 3 特別活動等における地域と連携した取組 (1) インターンシップ・企業見学 商業科2年生全員が夏期休業中に2～5日間のインターンシップを行っている。受け入れ先は、生徒の進路希望を鑑み、地域の製造業、販売業、保育園、介護施設、市役所、図書館等多岐に渡る。2学期に体験報告会を実施している。 また、普通科・商業科の就職希望の2年生の生徒を対象に2月に、ハローワークの協力を得て、企業見学を行っている。 (2) 学園祭での地域との連携 ・模擬店における地域産業に関わる企画 ・地域の公立専門学校のコーナーの設置 (本校卒業生によるパソコンの操作実演や指導、学校説明など) (3) 部活動等における地域・異校種との連携 〈商業研究部〉地域の農園と連携した学園祭での野菜販売や、地域の特産品を加工しての地域のお祭(神金フェスタ、およっちょい祭)への出店、甲州市ゆかりの植物甘草の活用方法についての調査・研究 〈吹奏楽部〉地域のお祭での演奏 〈ボランティア部〉市役所での甘草植え付け、老人ホーム・障害者施設での紙芝居や手品による交流 〈茶道部〉保育園での茶道教室、地域の記念館での呈茶 〈演劇部〉地域の図書館主催の「真夏のおはなし会」での演劇上演 〈放送部〉地域のお祭りでの司会 〈バスケットボール部、バレーボール部ほか多数〉近隣中学校との交流試合や合同練習 〈相撲部〉地域の神社での奉納相撲 〈生徒会〉塩山駅の清掃、保健所との連携による薬物乱用防止キャンペーンのティッシュ配り、福祉施設の納涼会参加、地域の祭の手伝い等 (4) 中学生との交流会 ・学校説明会における学校紹介や部活動紹介を通しての交流 ・近隣中学校での「高校生活について語る(聞く)会」の実施
長野県	教育委員会	中野市教育委員会	中野市では、教育の担う基本目標を「地域が育て地域が守る教育と文化のまちづくり」とし、平成23年度より家庭・地域・学校の教育力向上を目指し「教育力向上プラン」を推進している。その取組を背景として平成24年に「中野市キャリア教育支援協議会」を設置、N中学校区を推進拠点に位置付け、小中一貫したキャリア教育カリキュラムの体系化を進めている。 1 事業概要 (1) 「中野市キャリア教育支援協議会」平成27年度構成委員【21名】 商工会議所・JA中野市・建設業協会・小中PTA連合会・幼保小中高校園長・小中学校教頭会・市経済部・市産業公社・市社会福祉協議会・市公民館 (2) 会議 ①「中野市キャリア教育支援協議会」年間2回(9月末、1月末) ②運営を支える会議として、中学校教頭会(年間5回)、各校キャリア教育推進教諭による「推進のための打ち合わせ会」(年間2回)、N中学校

		区キャリア教育研究委員会（年間４回） ２ 支援の具体 （１）小学校への支援 ①教科・領域の体験活動をキャリア教育の視点で見直すことを助言。 ②そのための視点として「職業に直接関わる体験活動」と「キャリア教育に包括的に関わる体験活動」に振り分けることを提案。 ③中学校とのつながりを考えて体系化を図ることを助言。 ④夢をもつことの素晴らしさを伝える「夢の教室」を開催。 （２）中学校への支援 ①職場体験学習の体験職場の開拓や日程の調整などのコーディネート。 ②単なるイベントで終わらせず「つながる事前指導」「振り返る事後指導」とするため、市内４中学校で使用する共通のワークシートを提示。 ③中学校と体験職場が互恵的な関係を築けるよう、ワークシートに職場からのコメント欄を設ける。 ④職場体験事前学習での講演会の費用を予算化。 ⑤キャリア教育推進拠点である N 中学校 1 学年での「ふるさと job セミナー」開催を働きかける。学校の主体性を大切にしつつ講師 24 名のうち 4 名を市教委で紹介するなどの支援。今後全市に拡充予定。 （３）小中連携 キャリア教育推進拠点である N 中学校区での小中一貫のキャリア教育ブランドデザインの作成を主導。今後全市に拡充予定。 （４）家庭地域との連携 学校教育課と生涯学習課とが連携し「早寝・早起き・朝ご飯＋１運動」を支援。メディアコントロールの取組により、手伝いをする子どもが増えた。 以上のように中野市教育委員会は、学校のニーズに寄り添い、また学校の主体性を第一に考えながら幼保から高校までの縦のつながり、特に小中一貫を意識したキャリア教育、また学校と地域とのつながりを大切にしたキャリア教育の推進を主導しており、推薦に値するものとする。
学校	長和町立和田中学校	１ 職場体験学習 （１）実施形態【２年生】３日間（商工業体験）【３年生】３日間（福祉体験） （２）事前学習の特色 ①キャリア教育講座１ オリエンテーション（２時間） ・ねらいと流れ、心構え等のオリエンテーション ・「ジョブカフェ信州」のキャリア教育アドバイザーによる職業学習 ②キャリア教育講座２ 和田地区の起業家を講師に（２時間） ・働くことの意義、和田で起業する理由、商品開発のポイント、若者に伝えたいこと、和田地域のよさ、職場体験の留意点 ③キャリア教育講座３ 職場体験の事前打合せ（２時間） ・事業所の企業アピール、基本的な社員教育、ワークショップ ④職場へのアポイントメント取り、職場調べ、職場体験先への事前訪問 等 （３）事後学習の特色 ①活動のまとめ用ワークシートへの記入・お礼状の作成 ②文化祭での発表（受け入れ職場の方を招待） ・発表についての感想をいただき、成果と課題を共有する。 （４）職場受入担当者会（事前・事後連絡会）

		①体験のねらいやつきたい力、流れなどを共有する。 ②生徒の活動の様子や報告と、反省を踏まえて次年度推進についての協議 2 アントレ学習 (1) 位置付け・ねらい キャリア教育の集大成として位置付け、生徒の発想力、想像力、問題解決能力、情報収集能力、チームワーク等の育成をねらう。 (2) 概要 ①地域の方々から学ぶ和田の歴史・文化・自然や職場体験学習 ②「和田から発信するイベント開発」等地域活性化のテーマのもと、縦割りグループでの企画開発等 ③プレゼン資料やポスターの作成と、地域の方の前でのポスターセッション (3) 特色 企画書づくりから発表会まで長野大学と連携して指導を受けている。 こうした学習により次の成果がみられるので推薦に値するものとする。 【生徒】郷土愛や人を思いやる気持ちが育まれ、相手意識や表現力、コミュニケーション能力が高まっている。 【学校】様々な体験学習が仕組み、豊かな学びを生み出すことができる。 【地域】生徒に必要とされていると実感することで、学校支援が生き甲斐になっている方が増えている。
学校	長野県茅野高等学校	同校は、普通科の地域高校で、「生きる力を求め、地域を担わんとここに学ぶ」という教育理念のもと、本県教育委員会の実施する「先導的カリキュラム支援事業」の指定を受け、「地域を知り」「地域のために何ができるのかを知る」ことで「新しい自分を発見する」ことを目標に地域での様々な体験活動に取り組み、成果を上げている。 同校の取組は次のような概要である。 1 「地域と連携した体験学習の充実」 八ヶ岳中央農業実践大学校、地元の高齢者施設や保育園、茅野市民の森、尖石縄文考古館などで、地域を教材として地域の方々に講師に招いて実施する体験学習は、地域を知るよい機会になっている。地域を知ることで、「地域に貢献する気持ち」や「地域を担いたいという気持ち」が育ち、また、「地域の課題」を考える機会にもなっている。地域に出た成功体験の積み重ねが自信となり自己肯定感を育むことが期待できる。加えて、協力して仕事を進めることやコミュニケーションの大切さを学習する機会にもなっている。 2 「岩手県立大槌高校との交流」 東日本大震災以来4年間、津波による被害の大きかった岩手県大槌町にある大槌高校と交流を続けている。本校の文化祭である石楠祭では、毎年チャリティマーケットを行い、地域の方々からの協力で、商品や野菜を提供していただき、その売上金を義援金として大槌高校までお届けしている。昨年は、町民運動会にも参加した。生徒同士の交流や被災された方からのお話を通して、被災という極限の状態から立ち上がり、支え合って生きている方々から学ぶことは多く、自分の生き方を見つめ直す良い機会となっている。 3 「茅野高フォーラムの開催」 同校の取組について、地域の方々に来校してもらい、生徒たちが発表しご意見をいただいている。自分たちが取り組んできたことを生徒同士で話し合い、調べ、まとめ、発表するということは、コミュニケーション力の向上と

			なり、また地域の方々から励ましの言葉をいただくことで、生徒の更なる成長にも繋がっている。このことから、推薦に値するものとする。
岐阜県	学校	関市立武芸川中学校	1 取組の概要 関市立武芸川中学校では、「生き方指導」というものを、すべての教育活動の根幹として位置付けている。この指導は、「一人一人の高まりに焦点を当てていること」「その高まりは、集団によって高め合うようにしていること」「生き方作文（個の具体的な事実を記したもの）を使った、学級活動を核にしていること」が特徴である。この指導により、一人一人の生徒が、卒業時に「卒業しても手放したくない生き方」を語れるようになり、社会人として自立できる価値観を身に付けて中学校を卒業できるのである。 2 取組の具体 当该校における「生き方指導」を進めるにあたっては、社会や職業について、体験を通して具体的に知る取組が重要である。望ましい職業観・勤労観を育むために、総合的な学習の時間を使って行うプログラムがそれにあたる。1年生では、「地域の事業所めぐり」や「職業講話」、2年生では、「職場体験学習」、3年生では、卒業生（社会人）を招いての「先輩と語る会」が行われている。 さらには、PTAが主催する「武芸川オープンスクール」という取組は、他にはあまり例のない興味深いもので、PTAの努力により長年継続して開催している。この取組は、さまざまな職業に就いている方を15名ほど講師として招待し、それぞれの方にワークショップをしていただくというものである。講師の多くは、歌手、パティシエ、美容師、幼稚園教諭、介護福祉士、消防士、俳優、切り絵師、自衛官等々、武芸川という地域にゆかりのある多種多様な職業の方々である。この「武芸川オープンスクール」は、生徒自身が自分にとって興味・関心のある職業について、地域にゆかりのある方々から実際に話を聞いたり体験したりとキャリア教育を推進する上で、貴重な体験の場となっている。 3 取組の効果 武芸川中学校では、地域とのつながりを考慮して、生徒自身の興味・関心を高め、具体的な体験の場を設定するとともに、望ましい職業観・勤労観を醸成することができるよう、自らの将来を考える機会がバランスよく教育課程に位置付けられており、キャリア教育を通して、確かな「生き方指導」が実践されている。
	学校	川辺町立川辺中学校	1 取組の概要 川辺町立川辺中学校では、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意志決定能力」をキャリア教育で付けたい4つの力として位置付け、中学校3年間での宿泊研修や職場体験などを通して、系統的なキャリア教育を推進している。様々な活動を実践しているが、特に「川辺町小中サミット」「ふるさと学習」「あらたま志集会」は、小・中学校、PTA及び地域企業、行政との連携を図り、人間関係を見つめ、将来を見据える力を育成する優れた実践である。 2 取組の具体 「川辺町小中サミット」は、川辺町内の3小学校と川辺中の児童生徒の代表が集まり、いじめをなくすための取組が議論される。また、このサミットは、保護者や地域の方も参加する地域全体の取組となっている。とりわけ、本サミットを通して、生徒会を中心に「いじめ0」に向けた取組を行い、「人間関係形成能力」を育んでいる。

		・「かわべKMS 9運動」についての交流・啓発運動 K…携帯, M…メール, S…SNS, 9…情報通信健全利用の9重点（PTA3重点, 児童会・生徒会3重点, 学校3重点）, 義務教育9年間, 夜9時以降の使用を控えるといった運動 ・ピースデイ（人権集会）の開催 「ふるさと学習」は、川辺町の自然や歴史、産業などに目を向けることを目的としている。地域の企業や行政と連携し、地域の活性化に向けた取組につなげ、勤労観や職業観を養っている。 ・ボート講話、ボート体験 ・「川辺町の特産品を知る」講演会、事業所見学・体験 ・川辺町の特産品を広めるための活動…ポスター、看板、パンフレットなどの作成 ・わが町川辺学習発表会 「あらたま志集会」は、PTA本部役員と共に運営を行い、地域で志をもって活動している方とのシンポジウムを行っている。地域で活躍していたり、地域で働いたりしている方とのシンポジウムを通して、自分自身の志として「将来設計能力」「意志決定能力」を養っている。また、ここで決意した志を学習の姿で示すために、「あらたま志集会」の後には、学習公開も行われている。 ・学びすとパフォーマンス、シンポジウム ・生徒集会、3Cチャレンジ、299人の学びすと宣言、学習公開 3 取組の効果 目まぐるしく変化し続ける社会の中で、自分の将来について思いを巡らせるだけでなく、小中学校の連携、ふるさと川辺町、地域で活躍する方々にも目を向ける取組によって、自己を見つめ、目標をもち、学び続ける生徒が確かに育成されている。
学校	岐阜県立郡上北高等学校	各学年の進路目標を、1年「自己理解」、2年「自己啓発」、3年「自己実現」と定め、計画的かつ継続的に発達の段階に応じた進路指導を行っている。この基本計画に基づき、総合的な学習の時間を中心に本校独自に作成した多様なワークシートで進路学習に取り組ませている。2年生では全員にインターンシップを実施し、3年生では就職希望者を対象に意識啓発を目的とした「郡上未来塾」を実施している。岐阜県教育委員会が実施する外部リソース活用研究事業の指定も受け、商業、家庭の授業を通して生徒の進路支援を行っている。また、白鳥中学校との連携型中高一貫教育を行っており、交流事業を通しての働きかけもしている。 1 ワークシートによる進路学習 「職業いろいろ発見」「将来を見据えた進路選択」「職業調べ」「職業人インタビュー」など多様なテーマで、ワークシートを用いて将来の職業について考えさせている。ワークシートは主に1・2年生を対象としており、2年生からは就職、進学に進路希望に応じた進路学習ができるように作成している。 2 インターンシップ 2年生全員に実施している。申し込みの依頼からインターンシップ終了後に礼状を発送するまでを生徒自らがやっている。自校で作成した「インターンシップ記録ノート」を活用して目的、心構え、事前の確認事項、注意点等を整理した上で取り組み、インターンシップ終了後は報告会を行っている。就職、進学に関わらずインターンシップは進路決定に向けた重要なものと位

			置付けている。 3 郡上未来塾 ハローワーク岐阜八幡，郡上市雇用促進協議会と共催し，3年生就職希望者を対象として4月から6月末までに3回実施している。 ・第1回 オリエンテーション ・第2回 社会人となった卒業生とのパネルディスカッション ・第3回 郡上市内企業人事担当者による模擬面接 4 外部リソース活用研究事業 就職希望者の多くが地元で就職し，地元で生きていく。そのため，地域を支える人材として高齢化が進むなか福祉の知識と技術を学ばせること，地域の企業と連携して企業人として活躍するための専門知識を学ばせることは大きな意義をもつ。このような人材育成を目指して平成25年度より外部リソース活用研究事業に取り組んでおり，今年度で3年目となる。 ・コミュニケーションコースでのビジネスマナーの研修 ・ライフデザインコースでの介護実習 ・ビジネスコースでは，各種の商業系資格の取得や「クエストエデュケーションプログラム」を採用し，企業から出された課題を解決する学習に取り組んでいる。 5 中高一貫教育に関わる交流事業 ＜本校生徒による出前授業＞ ビジネスコース2年生が中学校の技術家庭科の授業で教師役となり，パソコンによるグラフの作り方などを指導した。 ＜検定対策＞ 漢字検定，英語検定，数学検定，ワープロ検定などの検定に向けて，中学生が高校生と一緒に高校の対策講座（補習）を受講できるようにした。漢字検定，英語検定は土曜講座の中で実施している。また，検定は中高の合同開催としている。 6 その他 ＜卒業生と語る会＞ 実社会で働く卒業生の体験談を聞く機会，1・2年生の就職希望者対象 ＜職業人講話＞ 今年度は，1年生全員を対象に白鳥交番長の講話，2・3年生の希望者を対象に郡上警察署の交通課長，刑事生活安全課長の講話を実施した。 ＜社会人マナー講座＞ 社会人としての身だしなみなどの基礎的マナーを身につける講座
静岡県	学校	富士宮市立富士根北中学校	本校では3年前からキャリア教育事業の一つとして「ドリームジョブカフェ」なる教育活動を行っている。これは，富士宮市が市教育委員会の施策として実施している「教育の日」の一つ「卒業生1日先生」（社会で活躍している卒業生の生き方に接しその姿から学校生活等で学ぶことの意味を考え，改めて日常的な学校生活を見直し，前向きに取り組むきっかけとする）を受けたものである。社会で活躍する卒業生を含む多くの大人たちに講師になってもらい，縦割り小グループによる座談会を行うものである。詳細は以下の通り。 1 ねらい (1) 働くことの意義について理解を深めることを通して，学ぶことの必要性や大切さをとらえ直す。【キャリアプランニング能力】 (2) 将来の夢や目標，職業等について自分をふり返り，これからの生活に意欲を持つ。【自己理解・自己管理能力】 (3) 講師との対話の中で，自分の考えを伝えたり，分からないことを積極的に質問したりすることができる。【課題対応能力，人間関係形成力・社会

		形成力】 2 実施方法の留意点 (1) アドバイザーは20人程度に依頼する。 (2) 前・後半の2回に分け、2種類の職業について聞けるようにする。 (3) アドバイザーの割り振りは教師サイドで行う。(希望重視) (4) 3学年縦割りの少人数グループ(1グループ5～7人程度)にする。 3 アドバイザーにお願いしたこと (1) 人生経験から、中学生に教えたことや伝えたいことを話したり、生徒からの質問も交えたりしながら行う。(対話形式) (2) アドバイザーの「話題」は例として、次のようなこと。 ・講師自身の職業について ・人生の転機、人との出会い ・自分自身の学生時代のこと などから、生徒へ教えたこと。 4 生徒への事前指導 (1) 自分の現在の夢・目標に対する思い、悩み等を各自が語れるようにしておく。 (2) グループ毎、質問事項を講師のプロフィールをもとに整理しておく。 5 「進行方法」について (1) グループリーダーが、共通の「台本」に従って行う。 (2) 教師は見守る姿勢で。必要に応じて進行についてのアドバイスをする。 6 参観者について 当日は「登校日(授業参観日)」なので、保護者、祖父母、地域住民等の参観者は、自由にグループに参加することが可能。 7 アドバイザーの人選 (1) 過去の参加者 (2) 富士根北中出身の保護者・地域の方(P T A本部役員を中心に) (3) 富士宮青年会議所(J C)からの紹介 (4) 教員からの推薦
学校	富士市立高等学校	富士市立高等学校は、平成23年4月に総合探究科、ビジネス探究科、スポーツ探究科の3学科に学科改編を行い、今年度で5年目を迎える。学科改編に合わせて、校訓「考えよ」のもと、「コミュニティーハイスクール」、「ドリカムハイスクール」、「探究ハイスクール」の3つの新たな教育理念を掲げ、「知・情・意」のバランスの取れた、心身ともにたくましい「自律する若者」の育成に努め、自然と地域を愛し、富士市や社会に貢献できる人材の輩出を目指している。これらの実現に向けて、「探究学習」と「キャリア教育」を教育活動の中心に据え、3年間を通して、社会で求められている力を段階的に高める取組を実施している。 【地域課題解決型キャリア教育を核とした総合的な学習の時間「究タイム」】 1 「究タイム」 「究タイム」は、チーム課題解決に必要なスキル習得(1年生前期)から始まり、ディベート(1年生後期)、地域課題解決(2年生前期)、テーマ探究(2年生後期)と様々な題材を通して課題解決的な学習を繰り返し、自らの学びと成長を振り返る自分スピーチ(3年生前期)で締めくくられる。この学習では、すべての単元を通して、体験的な活動をもとにした探究的な活動を通して、自ら問題に気づき、主体的に課題解決に取り組むことで、思考力、判断力、表現力等を身に付けること、また、協働的な課題解決の活動

			を通して、多様な意見や考え方を尊重し、互いを認め合いながら行動する力を身に付け、地域や社会に貢献しようとする意欲を高めることを目的にしている。 2 地域課題解決型キャリア教育プログラム「市役所プラン」（2年生前期） 地域住民の一人として、地域課題とその現状を知り、その解決に向けて何をすればよいかを理解し、自ら行動できる力を育成することを目的に、2年生全員が学習している。 (1) 単元の概要 この単元は、大きく3つの探究的なサイクルでできている。最初は、担当する分野に関する市のプランや市職員の講話等から地域が抱える課題について情報を収集してまとめる。次は、担当する分野に関連する体験的な活動からの気づきを班内で共有し、取り組むべき地域課題を絞り込み、中間報告する。最後は、最終の提案に向けて、インタビューや体験活動を通してさらなる情報収集を進め、地域の抱える課題に対して「高校生としてできること」という視点で解決策を提案する。 (2) 企業、行政、地域との連携 「市役所プラン」がスタートして、今年度で4年目を迎えた。平成26年度は、防災、環境、健康・福祉の3つの分野の課題について、富士市の防災危機管理課、廃棄物対策課、環境保全課、福祉総務課、スポーツ振興課と連携した。災害時の地域の危険個所をグループで検討する災害図上訓練や不法投棄回収実習など、富士市の課題の現場を体感できる体験活動の実施に向けて、内容や実施場所等についての情報提供や具体的な活動の調整まで、幅広い協力が得られている。また、地域企業や学校周辺の町内会長の皆様の協力もあり、生徒にとって多くの気づきが得られる体験活動の充実につながった。これまでに、上記以外にも富士市の健康対策課、観光課、広報広聴課、まちづくり課など、授業で設定した分野に関連した様々な部署と連携して学習の充実を図っており、地域においてもこの学習への理解が深まってきている。 (3) 学習の成果 生徒達の学習の振り返りから、「グループで話し合うことで、自分には思いつかない意見をもらえる」、「実際に高齢者や若者から本音が聞けたことで、改善すべき課題が見つけた」など、他者を理解する力や適切な情報を収集し分析する力などの課題解決力の高まりに関する記述が多く見られた。また、「今回富士市について学んだことを活かして、富士市に貢献したいという気持ちが強くなった」、「富士市は他と比べれば良いほうですが、このまま保っていけるとは限りません。未来の富士市を今より良いものにしていきたい」など、地域に対する思いを深め、地域や社会への貢献意識を強くしたことがうかがえた。 これらのことは、昨年度、「究タイム」を終えた3年生で実施したアンケート結果にも表れている。 以下に、特徴的な質問項目と肯定的に回答した生徒の割合を示す。 「異なる立場や考えを受け入れ、理解しようと思う」：95.1% 「お互いの良いところや違いを認め、協力することができる」：93.6% 「課題の解決に役立つ情報かどうかを考えながら、情報を集めることができる」：89.2% 「自分の生活だけでなく、社会全体のことを考えたいと思う」：88.7% 「興味や関心のある職業をいくつかあげることができる」：87.7%
--	--	--	---

			「人の役に立てる人になりたい」：95.1% 「地域社会の一員として、自分にできることはないかと考えたことがある」：71.9% 「社会や地域の課題解決に向け、主体的に活動したいと思う」：72.8% これらの結果に見えるように、本取組は、市役所や地域との連携による本物の課題をテーマに、チームによる地域課題解決型の学習を通して、基礎的・汎用的能力に関する幅広い資質・能力の高まりにつながるだけでなく、地域への理解を深め、地域や社会に貢献しようとする意欲を高める、効果的なキャリア教育となっている。 【ホームページ】http://www.fuji-ichiritsu.jp/
愛知県	学校	豊川市立金屋小学校	金屋小学校では、「自分の良さが分かり、夢や希望をえがける子の育成—キャリア能力の獲得に迫る—」をテーマに、平成25年度よりキャリア教育についての研究を推進している。 目指す子ども像として、以下の4点をあげている。 ①自分の長が分かり、それを伸ばそうとする子 ②友達の良さを認め、共に生活する楽しさを感じられる子 ③目標や問題に主体的に取り組める子 ④将来について考え、今を大切にできる子 これら目指す子ども像に向け、教科・領域だけに限らず、学校生活全般を通してキャリア教育の在り方を研究している。 1 キャリア能力表の作成 獲得させたいキャリア能力を「自己理解・自己管理能力」「人間関係・社会形成能力」「問題解決能力」「将来設計能力」の4つとし、それぞれの力を低・中・高学年の子どもの実態に即して細分化したものを、キャリア能力表としてまとめた。 2 キャリア教育年間指導計画表の作成 それぞれのキャリア能力を獲得させるために、年間を通した各学年指導計画表を作成している。年間を見通すことで、4つの能力を万遍なく獲得できているか確認ができるとともに、各学年間の系統性についても確認している。 3 キャリアアンケートの実施 能力表、年間計画表の見直しのために、学期始めと学期末に子どもへのアンケートを実施し、実践内容を検証している。計画・実践・評価・改善を繰り返し、常に子ども達の実態に即したものとなるよう、実践を進めている。 4 地域の活用 キャリア能力獲得のために、校内に限らず地域を積極的に活用している。隣接している金屋中学校との交流、5年生によるデイケア訪問、低学年による幼稚園・保育園訪問等、学習の場を広げている。 教科・領域の授業に限ることなく、学校行事、児童会活動等すべての学校生活全般をキャリア教育の視点でとらえ、子どもの成長を願って研究を進めている。また、研究発表会も予定するなど情報発信にも取り組んでおり、推薦に値すると考える。
	学校	愛西市立八開中学校	八開中学校では、生徒たちにこの地域に生きる誇りと自信をもって社会に羽ばたいてほしいと願い、「郷土に貢献できる生徒の育成」を目標に掲げ、キャリア教育を行っている。この目標達成に向け、地域の特性を活かして、中学生として地域に貢献できる活動に取り組んでいる。そこで、平成25年度から市内洋菓子店と共同で地域の特産品である蓮根を活かした新商品の開発を行い、平成27年度の修学旅行において市のPRを兼ねて販売体験を行った。販売で生じ

		た利益については東日本大震災の被災地に寄付することとし、1つ行動を起こすことで人とのつながりが広がり、社会全体への貢献にもつながる実感がもてるよう実践に取り組んだ。 【具体的な取組】 1 特産品を活かした商品開発と地域での販売体験 「地域の達人に学ぶ」と題した出前授業をきっかけに市内洋菓子店と共同で、市の特産品である蓮根を活かした新しいお菓子作りを行った。企画書の作成やパワーポイントを使ったプレゼンテーション等、本格的な取組で約半年間かけて「はすの花びら」「八つのおもい」という2つの商品を完成させた。平成26年度には店頭と市主催のフェスティバルにて2度の販売体験を行った。また、中日新聞のNIE教育を受け、開発に関わる取組をまとめた新聞「八開中地域おこし特別号」を製作し、広く地域に知ってもらうことができた。 2 修学旅行における特産品販売体験と愛西市PR活動 平成27年度に行った修学旅行では、浦安市観光コンベンション協会主催の販売体験マーケットにおいて、新浦安駅前にて自分たちの開発した商品に加え、地元産の野菜や職場体験でお世話になった事業所の商品、観光協会のグッズ等、さらには交流のある宮城県南三陸町からも海産物や乾物などを取り寄せ、販売を行った。「地域貢献」と「復興支援」を掲げ、総額約34万円を売り上げ、うち約9千円を南三陸町に寄付することができた。 以上の実践を通し、生徒たちは郷土への愛着を深め、郷土に誇りをもつと共に、自分たちが郷土の人々に愛されていることを実感し、将来に渡って郷土の発展に貢献していこうとする気持ちを高めることができた。そして、将来に役立つ様々なスキルを身に付け、地域に貢献できる自分に気付くことで自尊感情や自己肯定感を高め、社会で力強く活躍できる人材を育成することができた。 【ホームページ】http://www.aisai.ed.jp/hachikai-j/
三重県	学校	伊賀市立柘植小学校 柘植小学校は、創立142年を迎える歴史のある全校生徒123人の小学校で、「生まれたまちを誇りに思い、ふるさとを大事にしようとする子ども」、「将来に夢を持ち、夢から逆算して今の自分をきたえようとする子ども」の育成を目指している。低学年のうちから子どもたちが将来の夢を持ち、その実現に向けて活動するために必要な能力や態度を身に付けることができるよう、キャリア教育の充実に取り組んでいる。 同校のキャリア教育では、「進路保障をめざすキャリア教育」を目標に、「キャリアビジョンの力」、「リテラシーの力」、「エンパワメントの力」の3つの力の育成を柱にしている。行事等における体験的な取組と日常における取組を有機的に機能させるとともに、学校全体で一貫したキャリア教育を実現するため、各学年のキャリア教育年間計画を策定し、組織的・系統的な取組を進めている。 1 「キャリアビジョンの力」の育成について 同校では、子どもたちが多様な人生モデル・職業モデルとの出会いや体験活動等とおして、将来のあるべき姿を描き、将来への道筋について具体的に考える力を身に付けることができるよう、学年のつながりを大切にしたカリキュラムを設定している。 低学年では、「うちの人の仕事を知ろう」、「おしごと大発見」と題して、家族の家事労働の姿や地域の身近にある仕事についての学習を行っている。 中学年では、鳥羽水族館やテレビ局などにおいて、普段では見るものの出

		来ないバックヤードの見学や聴き取り学習等をとおして、子どもたちが職業の社会的役割を知ること、将来の夢や仕事を幅広く捉えられるようにしている。 高学年での職場体験では、一つの事業所で一人の児童が職場体験を行うことで、「ふんばる」経験を踏まえ、自己の課題を探ることができるようにしている。5年生時に行う職場体験を6年生での修学旅行における職場体験や大学見学につなげることで、子どもたちは将来の夢の実現に向けた進路の在り方について考えを深めることができている。 2 「リテラシーの力」の育成について 同校では、児童が将来社会を生き抜いていくために必要な力を身に付けられるよう、教科の学力を高めるとともに、課題解決能力やコミュニケーション能力を身につけることを目指した学習指導を進めている。授業において、基礎基本の学習や反復練習の目標レベルを上げることで、子どもたちに達成感を味あわせ、学ぶことの楽しさや学ぶ意義を実感させ、学ぶ意欲を高めさせている。また、「家庭学習強化月間」や「家庭読書」など、家庭と連携した取組を進めている。 コミュニケーション能力の育成に関する特色のある取組としては、「T（柘植小）－1 グランプリ」を行っている。本年度で11回目を迎えるこの取組では、漫才でコミュニケーション能力を鍛えることを目指し、審査員にプロの漫才師を迎え、保護者や地域住民を招いた発表の機会を設けることで、子どもたちの士気を高めている。 3 「エンパワメントの力」の育成について 同校では、自己の暮らしを見つめ、自己を取り巻く人々の願いを受け止め、生活を高めようとする力や自己有用感を持たせることを目指している。 2年生の「ちくたんけんをしよう!」、4年生の「地域のよさをみつめよう」、6年生の「水平社宣言にこめられた思いを考えよう」など、地域課題に根差した実践をとおして、自分の生き立ちや今ある暮らしの中で自己肯定感を高める取組を行っている。 また、県教育委員会のキャリアモデル派遣事業「三重県版ようこそ先輩」を活用し、卒業生を招き、体験談などを聞くことによって、自ら行動することの素晴らしさや人とつながりあうことに気付かせる取組をしている。 【ホームページ】http://www.iga.ed.jp/tsuge-e/
学校	三重県立津高等学校	津高等学校は明治13年に津中学校として開校以来、135年の長い歴史と伝統を持ち、「自主・自律」の精神を大切にしている。全校生徒1,077人の県内有数の進学校で、ほとんどの生徒が大学進学を希望しており、平成26年度卒業生で大学へ進学した257人の生徒のうち約65%が国公立大学へ進学している。 同校においては、10年以上前から生徒のキャリア形成に着目し、生徒が将来を見据えて行動ができるように、様々な取組を行ってきた。 学校で行われる教育活動すべてをキャリア教育と捉え、日常型と体験型の2つを中心とした取組を行っている。これにより、生徒が広い視野と高い志を持って自らの進路を切り拓いていくとともに、卒業生が将来、地元地域はもとより日本国内や国際社会の中で活躍できることを目指している。 津高等学校のキャリア教育の特徴として、以下の3点が挙げられる。 1 キャリア教育の視点を踏まえた教科指導 各教科においては、生徒が日常の学習活動で培った基礎基本を土台に主体的に考え行動できるよう、いち早くアクティブ・ラーニングを取り入れ、小

			グループ等を活用した探究型の授業を推進している。1年生では学校設定科目「SS探究活動Ⅰ」を開設し、将来における「自己実現」に必要な職業観、論理的思考力、コミュニケーション能力や人権感覚を育成している。更に、2年生では「SS探究活動Ⅰ」の内容を深め、課題解決や探究活動に主体的に取り組む資質や能力を育て、自己のあり方や生き方を考え、主体的に進路決定ができる力の育成に繋げている。 一方、全生徒に各教科・科目の講座内容、学習内容、学習進度、到達目標、自学のすすめ等が記載された冊子を配付し、生徒が身に付けたい力を意識して取り組めるようにしている。また、教員は生徒の意欲関心を喚起し、授業の本質に迫る取組をしている。 2 地域の教育力を生かしたキャリア教育 三重大大学の協力を得て実施している「津高キャリアプロジェクト」は、「志」を育む機会を与えるプロジェクトとして始まり、5年目を迎える。身近な『地域』をテーマに、地域課題とその対応策についてゼミ形式で研究するもので、自主的に考える力や考えを表現する力を養うことを目指している。平成25年度には研究した内容をもとに、「20年後の三重県」について知事への提言も行った。このプロジェクトに参加した生徒は自己の将来について考え、自分が地域にどのように貢献できるかを見つめ、現在、大学で学んでいる。 また、NPO法人と連携した地元企業でのしごと密着体験等、多彩な企画を用意し、生徒は学年を問わず、積極的に参加できるように、自己の将来に向けて考えるきっかけづくりを行っている。 同校は、本県の進学校におけるキャリア教育の牽引役となっている。 3 多様な評価によるキャリア教育とカリキュラムの共有化 キャリア教育における評価については、身に付けさせたい力を生徒と共有するために、体験前後での変化を生徒に振り返らせ、生徒の変容を捉えている。 一方、年間2回、キャリア形成に関する生徒アンケートを実施し、定性的な評価だけでなく、定量的な生徒の変容の分析も行っており、きめ細やかな見取りを実践している。 また、同校では、学年別、月別に学習到達目標や様々な行事が系統的に示してある「進路ストーリー」を作成しており、年度毎に見直しを行い、改訂を重ねている。このことにより、時代で求められる人間像や生きる力を柔軟に吸収し、反映することができる仕組みがとられている。
滋賀県	教育委員会	彦根市教育委員会	- 彦根市中学生チャレンジウィーク実施推進委員会は、城内7校の担当者と、市教育委員会の担当者、市内校長・教頭会の世話係で構成され、年間7回開催されている。 - 実施推進委員会においては、地域や保護者、関係団体の協力を呼びかけ、受入れ事業所の開拓を積極的に行っている。 - 城内の学校の活動が一定のレベルでの活動になるように、実施推進委員会が中心となって、細かな情報交換を行っている。また、職場体験をまとめた市全体の冊子を作成したり、城内で統一したキャリアノートを活用したりして、キャリア教育の充実に向けて取り組んでいる。 - 城内の全ての中学校において、事前事後指導を含め、充実した内容で5日間の職場体験を実施している。具体的には、事前指導においては、マナー講座や職業講話を実施し、事後指導では、お礼状や事後レポートの作成などを実施している。また、キャリア教育における基礎的・汎用的能力の育成の一環として、小学生と中学生が合同でボランティアの清掃作業をしたり、地域コーディネー

		ターの方と連携して、地域の一人暮らしの方に年賀状などを送る取組をしたりするなど積極的な活動を行っている。
学校	野洲市立中主中学校	キャリア教育を充実させるために、教科教育におけるキャリア教育が実践されている。「人間関係形成能力・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つの力で構成される基礎的汎用的能力の視点で、各教科の学習内容を見直して指導案の作成などを行うなど熱心に授業研究に取り組んでいる。 また、校内における職員研修やOJTの中に、キャリア教育を位置づけて、キャリア教育についての指導力育成に取り組んでいる。 〔各学年の取組〕 1年生では、「先輩に学ぶ」ということで、地域の活性化に取り組んでいる事業所からお話を聞いたり、市内の商工会からお話を聞いたりして地域の現状と課題について学んでいる。 2年生では、「地域に学ぶ」ということで、事前指導として、職業講話を実施したり、マナーアップ講座を実施したりしている。職場体験については、5日間の日程で実施している。また、その中で、「商い体験」として近隣の事業所で販売活動を行い収益を福祉事業団に寄付している。 3年生では、自分たちが住んでいる市の将来について、市長や市役所の多くの課と語り合う活動を実施している。その他、地域の事業所の講演を聞いたり、これまで学んだことをレポートにまとめる活動をしている。
学校	滋賀県立八幡商業高等学校	生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を育成することを目的に平成13年度からインターンシップに取り組むとともに、地域の社会福祉施設等での介護福祉体験等を通して、生徒のコミュニケーション能力や対人関係形成力の育成を図ってきた。これに加え、平成25年度からは、地元や訪問地の自治体・商業関係者等の協力を得て、行商等を中心とした実践的な販売・仕入実習を行う「近江商人再生プロジェクト」を実施し、主体的に課題を発見し、解決できる能力の育成を図っている。これらの取組を通し、商業高校での学びを基礎に、卒業後、実社会で即戦力となる人材の育成を図るため、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。 <取組の具体的な説明> ○インターンシップ 自己の進路実現を考える取組の一環として、1年生全員が毎年2月中旬の4日間、地元企業等約100社において実施している。なお、11月には、大学や専門学校のキャンパス見学会をあわせて実施している。 ○介護福祉体験 平成10年度から人権教育の一環として実施していたが、平成26年度からは、キャリア教育としても位置付けた。地域の老人福祉施設等で、1年生全員が12月中旬に半日の日程で介護福祉の体験をしている。 ○「近江商人再生プロジェクト」 商業高校としての特色あるキャリア教育の取組の一つとして位置付け、近江商人の精神や商法等を実践的に体得する機会としている。特に、「三方よし」の精神を大切にしながら、商品の仕入から販売にいたるまでのすべての段階を、生徒に自ら計画させ取り組ませている。この取組を通して、将来必要となる企画力や開発力、計画力、実践力等を身につけさせ、経済人・商業人として活躍できる人材の育成を目指している。このプロジェクトは、近江商人や滋賀県に縁のある地域を訪ねて仕入と販売の実習を行うものであり、訪問地において、滋賀県の特産品を行商等で販売するとともに、訪問地の特産品を仕入れ、次の

			訪問地で販売する「産物回し」と言われる近江商人独特の商法を体験させている。対象の生徒は、1～3年生の希望者で、7月下旬に6泊7日の日程で実施する体験には、例年約30人の生徒が参加している。
京 都 府	学 校	京 都 府 立 北 桑 田 高 等 学 校	京都府立北桑田高等学校は、京都府中部の山間地域（旧北桑田郡＝美山町と京北町）にある全校生徒200名余の京都一小さな高校である。平成23・24年度に「府立高等学校キャリア教育推進に関する実践研究指定校」の指定を受け、インターンシップ等の体験活動や外部人材を活用した生徒講演会・教員研修等を積極的に実施し、キャリア教育を推進する校内体制の基盤を形成した。 平成26年度からは、普通科の生徒を中心に主として総合的な学習の時間を活用して「美山・京北まちごとキャンパス」（まちキャン）の取組を実施している。本取組は「学校の周りのヒト・モノ・コトすべてが先生、すべての場所がキャンパス」という発想で、学校と地域が一体となって、生徒の体験活動や学習支援を行うものである。「地域」と「体験」をキーワードに、この地域で生まれ育ったことを誇りとして、北桑田高校で学ぶ楽しさや喜びを実感し、3年間の学習に意欲的に取り組む態度を育成するとともに、将来の職業選択のみならず人生を主体的に生き抜く力と態度を養うことを目的としている。 具体的取組は以下のとおりである。 1 地域の魅力再発見（かやぶきの里研修） 国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている美山町のかやぶき民家の里で研修し、歴史や建築方法、建物構造などを学ぶとともに、周辺の清掃ボランティアを行い、故郷のよさを再発見し、伝統文化継承と保存の意義について理解を深めた。 2 地域の事業所との連携（キャベツ・白菜・大根の定植と収穫サポート） きょうと京北ふるさと公社の圃場において、キャベツ・白菜・大根のそれぞれの定植や収穫時期に合わせて、公社スタッフの指導の下、農業体験を行った。作業の大変さや収穫の喜びを実感した生徒が多かった。27年度はサツマイモの定植・収穫を加えることとしている。 3 地域お助け隊（地域の桜の手入れほか） 少子高齢の地域の高校生として、地域の人々のさまざまな課題解決の支援を行った。例えば、地域河川堤防に植えられている桜の木の移植と鹿よけネット設置作業のほか、人手のかかる小豆の選別作業を行った。 4 森林リサーチ科体験 北桑田高校に設置されている林業の専門学科である森林リサーチ科の実習に普通科生徒が参加し、森林リサーチ科3年生の指導により、間伐作業やログハウスづくりを行った。北桑田は全国的なブランドである北山杉をはじめとした森林資源にあふれており、その価値について改めて理解を深めた。また、森林リサーチ科3年生2名を講師として「森林リサーチ科に学ぶ意義」と題した講演を実施し、興味を持つことや疑問を深めていくことの大切さを学んだ。 5 地域の人に学ぶ 地域在住者による「美山の歴史とかやぶきの里」や「平安京の造営と北桑田の材木」についての講演を実施し、地域についての理解を深めた。また、地元老人クラブの指導によりしめ縄づくりを体験し、伝統文化を学ぶとともに世代間の交流を行った。 6 進路講話 卒業後の進路に向けて、卒業生等によるグループ講話を実施した。第1回は自校若手教員や教育実習生による「大学について」、第2回は卒業生（現

			役大学生) による「自らが歩んできた学びの姿や受験体験・卒業後の生活」, 第3回は地域在住の卒業生による「進路選択と仕事のやりがい」をテーマに行った。 7 大学・企業見学ツアー 校外学習として, 京都市内の大学・企業への見学会を2回実施した。 8 社会人マナー講座等 京都府キャリアサポーターによる講座「高校生で身につけるマナー入門」, ケアマネジメントに携わる卒業生による「生きること働くこと」をテーマにした講義・グループワークを実施した。 9 高大連携 1年次の成果(26年度実施)を受けて2年次(27年度)は, 京都大学教育学部の学生と北桑田の地域活性に向けた交流を行う。 10 成果発表・広報 学校後援会, 同窓会, P T A, 地域住民, 小中学校関係者が参加して開催する「北桑田高校の未来(あす)を創る会」において, 生徒による実践発表を行った。また, 学校ホームページを充実させることで, 取組内容を効果的に発信している。新聞や地元ケーブルテレビでも取り上げられ, 地域での評価も高い。 以上のように, 京都府立北桑田高等学校は, 北桑田の地域資源を十分に活用した, 北桑田地域だからこそできる「美山・京北まちごとキャンパス」により, 生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎力の育成に取り組んでいる。 地域との連携を基軸とした特色ある本取組は, キャリア教育プログラムとして高く評価でき, 全国の高等学校の模範となるものであり, 文部科学大臣表彰の候補校として推薦する。 【ホームページ】http://www.kyoto-be.ne.jp/kitakuwada-hs/cms/
兵庫県	学校	兵庫県立三木東高等学校	生徒及び教員も伸ばすキャリア教育の「3つの推進力」を掲げ, 学校全体を挙げたキャリア教育を推進している。 1 推進力1: 地域を学び, 地域とつながり, 地域を活性化させる起業家精神の育成プログラム ○内容 ①北播磨地域の歴史を地域の人と学ぶ。 ②北播磨地域の人と自然の共生について地域の人から学ぶ。 ③北播磨地域の地域の人とつながり地産地消の製品を開発する。 ④北播磨地域の産業と経済を活性化に貢献し, 起業家精神を育成する。 ⑤北播磨地域における介護実習により震災の教訓「支え合いの大切さ」を学ぶ。 ○伸びる力 ・生徒・・・起業に不可欠なチャレンジ精神 ・教員・・・ベテラン教員と若手教員の実践力の融合 2 推進力2: 体験を経験知に変えるキャリア教育プログラム「TOMO³」 ※TOMO³(ともきゅーびっく) 本校の「産業社会と人間」「総合学習」「課題研究」を学ぶキャリア教育プログラムのことである。「友(とも)と共(とも)に明日(Tomorrow)を拓く」という意味で, 「世の中」を知り, 自分の生き方や未来について考えると同時に, すぐ隣にいる仲間と共に, 自分たちで行動する力・認め合う心を身につけてほしいという願いを込めている。

			○内容 ①なりたい自分づくりを目的に、学校・家庭・地域の連携を図る。 ②自分の目標とした本物を確認するため、直接現場に行き、自分の目で確かめ、体験する学習を中心としたプログラムを実践する。 ③実践したプログラムを全生徒の前で発表し、自分の夢実現へ近づける。 ○伸びる力 ・生徒・・・自己課題発見・解決・表現能力 ・教員・・・教科指導等におけるICT活用能力、コーチング能力 3 推進力3：生徒一人一人の社会人基礎力を高める指導の展開 ○内容 ①日々の体験学習により自己創出力を生み出す。 ②朝の5分間学習・図書館の積極的活用・ビブリオバトルにより主体的な学習の基礎力を養成する。 ③未来実現「キャリアノート手帳」活用、並びに、生徒会活動及び部活動デーによる全校挙げての課外活動を通して精神的な成長を促進する。 ※未来実現「キャリアノート手帳」 生徒自身の日々の「気づき」または「成長」を記録し、生徒の主体的な行動に結び付ける「確固たる自己」を形成する手帳である。 ○伸びる力 ・生徒・・・自信創出・自己管理能力 ・教員・・・教員と生徒が一致団結した総合学科教育の推進力
奈良県	学校	奈良市立月ヶ瀬中学校	奈良市立月ヶ瀬中学校は、平成22・23年度に、文部科学省指定「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」として地域の方と連携してふるさと学習を進め、伝統工芸である「烏梅（うばい）を使った紅花染め」を広める活動を実施した。ふるさとのよさを発信するため「学区ブランド産品」を開発し、月ヶ瀬中学校区地域教育協議会の方と共にPR及び販売活動を行った。烏梅製造を継承され、当時、日本でただ一人、烏梅製造に関する選定保存技術保持者として文化庁の認定を受けておられた中西喜祥氏（平成23年には、息子の喜久氏も認定）をはじめ、烏梅を使って昔ながらの染色をされている地域染色家の協力を得て、プロジェクトを進めた。 平成24年度以降も、地域教育協議会と連携し、プロジェクトを継続している。生徒と地域が連携して、アクセサリーや「天使の羽衣」ストール・バンダナ、月ヶ瀬にしかない烏梅使用の「コースター・ドイリー」と、毎年商品開発やパッケージ開発に取り組み、キャリア教育の一環としてふるさと学習を進めてきた。 月ヶ瀬の梅の発祥のルーツである烏梅のすばらしさを伝えるために、郷土学習や染色の仕組みを科学的に調べる「紅花サイエンス」などを、総合「なら」や家庭科、道德の時間にキャリア教育と関連付けて実施した。地域の方には、ふるさとのよさを伝えるために伝統の技や伝統を守る心意気を生徒に伝えていただくとともに、郷土愛を大切にする生き方を教えていただいた。 また、平成25・26年度には「全国世界遺産サミット in なら」において、地域教育協議会の方と共に、生徒が「学区ブランド産品」（紅花コースター、天日干し梅干し）のPR及び販売活動を行った。 プロジェクト開始から6年目となる平成27年度は、地域活性化を目指して取り組んでいる。地域教育協議会と生徒が共にふるさとの未来を考え、伝統工芸や、伝統産業の復興を願い活動している。 烏梅製造の文化伝統を守っておられる方への聞き取りや、茶産業を第6次産

			業化するという発想の転換をして活躍されている方のキャリア講話を積極的に取り入れるなど、地域課題の解決に向けて、地元への理解や誇りを育む学習を継続的に実施している。 こうしたことから、推薦の観点「地元企業や自治体等と連携し、地域課題の解決に取り組むなど、児童生徒の地元への理解・愛着・誇りを育む教育を積極的に取り入れている学校」に該当する当校を推薦する。
	学校	奈良県立大淀高等学校	学校における教育活動全般において、規範意識の醸成と社会性の向上を目指し、社会人としての基本を身に付けさせる取組を行うなど、キャリア教育の視点に立った指導を推進している。 1 キャリア教育プラン 職業意識を身に付け、社会人としての素養を培うための、具体的なサポート体制を整えている。 2 面接指導の充実 企業人としての土台作りのみならず、「正しい言葉遣い」「時間を大切に」「整理整頓を心がける」という3点を進路実現のポイントに掲げ、お互いが支え合うことのできる集団形成を目指す。 3 資格取得の推進 大学進学や就職に生かすための資格取得に向け、情報処理検定などの商業教育や小型フォークリフト特別教育や小型車両系建設機械（ユンボ）特別教育を実施している。 4 大高キャリア通信の発行 生徒の進路決定への意欲を高める手段の一つとして、年2回、生徒と保護者到大淀高校独自の通信を配布している。 5 基礎学力定着の取組 基礎学力定着の一つの手段として、朝のホームルームの10分間を活用し、朝ドリルを実施している。 6 キャリア教育を踏まえた生徒指導 規範意識の醸成と社会性の向上を目指し、社会人としての基本を身に付けさせるよう生徒指導に取り組んでいる。 7 看護・医療コースの取組 勤労観・職業観を育成するキャリア教育の一環として、積極的にインターンシップを実施している。 8 大高遠足 自己の体力の限界に挑戦することで、苦しみに打ち勝つ強い体力と精神力の高揚を図り、主体的に行動できる力を育成する。 以上の理由により、今後、県内の高校におけるキャリア教育の指導的な役割を果たすことが期待できる。
鳥取県	PTA 団体 等	鳥取県立倉吉東高等学校育友会	当該校は、県中部の伝統校で今年107周年を迎えた。PTAは「育友会」と称し、会長・副会長などの執行部と、健全育成委員会、人権教育推進委員会、広報委員会、ホームページ運営委員会の4つの専門委員会を構成し、「倉東高教育の応援団」としてさまざまな事業に取り組んでいる。 事業の一例として5月の育友会総会前の「大人（おせ）の一言」がある。これは保護者によるミニ講演会で、各クラスに1名ずつ計15名の講師が立つことが特徴的であり、教室という生徒に近い空間で、「仕事に対する思い」、「まちづくり事業」、「ボランティアの実践」など多岐にわたる話と質疑応答を行う。これは10年前に学校から「キャリア意識の育成支援」の要請をうけ、育

			友会が企画し実現したもので、生徒たちのキャリア形成に大変役立っている。 保護者の研修では、毎年11月に日帰り可能な範囲の大学をバスで訪問。大学の研究施設を見学し、昼食時は学生食堂で本校OB・OGの大学生との食事会を行い、生活費、アルバイト、卒業後の進路や高校時代の勉強方法などを聞く。この大学見学会は、保護者が大学の実態を知る貴重な機会となっている。 育友会は「倉吉鴨水館」設立にあたって支援を行った。鳥取県では昭和34～36年に、進学を志す浪人生のために「専攻科」を県立高校3校に設置したが、民業の圧迫と、浪人生への県費投入を問題視する声を受けて平成25年3月に廃止することとなった。しかし廃止決定後も、専攻科存続を望む声が大きく、「専攻科は将来の自分の方向性を見つめ直す機会を与えてくれた」、「専攻科があったから、経済的に浪人を選ぶことができた」、「専攻科では、受験対策のみでなく、学びの本質を理解することができた」などの卒業生や保護者の声を受け、倉吉東高校同窓会と育友会は専攻科に代わる学びの場の設立に動き始めた。県議会へ陳情を提出するため、同窓会長、育友会長、中部地区高等学校PTA会長が発起人となり、6,000件を超える署名を県教育長に提出。平成24年10月県議会で趣旨採択。25年1月NPO法人認証。名称を「NPO法人倉吉鴨水館」とし3月に第一期生を受け入れた。倉吉東高校卒業生だけでなく、県内全域の浪人生の進学支援をめざし現在50名。県の財政的な支援を受けず、入館料1万円、年間授業料36万円で経営している。 子どもや若者が、社会の一員としての役割を果たすため、個性や持ち味を最大限発揮し、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育の場を、卒業生に対してもPTA活動の一環として支え、提供したことを通じ「地域を支える人材の育成」に大きく貢献した。
岡山県	学校	真庭市立勝山小学校	平成25・26年度キャリア教育実践モデル事業指定中学校区の中心校として、研究主題「生き方を考え、夢に向かってチャレンジできる児童・生徒の育成」～自他の良さを知り、進んでコミュニケーションのとれる児童・生徒を目指して～のもと、中学校区内の1中学校・2小学校と緊密な連携を図りながら研究を推進し、大きな成果をあげ、その普及に努めた。 勝山小学校が中心となり中学校区のめざす子ども像を明確にして、キャリア教育に関わる体験活動を洗い出し、各校における全体計画や年間指導計画の見直しを進め、他校のモデルとなる成果物としてキャリア教育全体計画や年間計画を示した。 また、キャリアの視点を取り入れた授業改善や教育活動にも取り組み、教科の目標を達成させながらキャリア教育の目標も達成できるよう、本時案に教科の目標とキャリア教育の目標を明記した指導案を提案し、県のモデルを示すことができた。また、朝の会・帰りの会で育てる児童像を明確にした勝小スタンダードの徹底や、児童が、高齢者福祉施設の訪問や地域行事への参加などを通じて、地域との交流をすすめ地域の良さを体験する教育活動が、他校の取組にも良い影響を与えている。 これらの取組の結果、児童の人間関係形成・社会形成能力や自己理解・自己管理能力の育成に成果が見え、自分たちが住んでいる地域をよりよくしていこうとする意識が高まった。従来、異校種の連携を進めていたが、キャリア教育に取り組むことで、中学校区の中心校として児童の自己肯定感の高まりや郷土を愛する気持ちを高めることができ、実践研究の成果は7回の公開授業と研究発表会により普及することができた。 【メールアドレス】katsuyama_es@city.maniwa.lg.jp

学校	岡山県立興陽高等学校	当該校は、創立 98 年の歴史と伝統をもち、農業学科（3 科）と家庭学科（2 科）を併設する専門高校である。それぞれの学科の特性を生かした特色ある教育実践及び組織的・系統的なインターンシップの取組を通して、地域社会に貢献できる将来のスペシャリストの育成を目指している。 ○インターンシップの組織的・系統的な取組 平成 16 年度から、より早い段階での就業意識の高揚を図るため、1 年生全員を対象に、夏季休業前に 2 日間のインターンシップを実施している。実施に当たっては、進路指導課の企画の下、学年団が中心となり組織的に進めている。また、岡山県中小企業家同友会と連携し、同会に所属する会員企業にインターンシップの受け入れ及び事前・事後の指導に協力をいただいている。本インターンシップは、教科「農業」及び「家庭」の学校設定科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」につながっており、インターンシップを系統的に指導できる教育課程が編成されている。「インターンシップⅠ」では、希望者を対象に 4 日間実施し、働くことの意義や責任感、チームワークの必要性などの社会性を主として学ぶ。「インターンシップⅡ」では、「インターンシップⅠ」を履修した希望者を対象に、生徒が所属する学科に関連する企業等での職業体験を 4～14 日実施しており、学科に関連する職業に求められる知識や技術を学ぶとともに、専門学科での学びとその延長上にある職業とのつながりを実感する機会となっている。このような取組を通して、卒業後の進路、ひいては、人生設計の軸となる職業観・勤労観を育成している。 ○学科の特色を生かした地域貢献活動の取組 当該校は以前から、農業学科による稲作体験会や草花の花壇整備、家庭学科による地域の独居高齢者への手作り弁当やお菓子の宅配、小学校への出前授業など、学科の特色を生かした地域貢献活動を実施してきた。特に、平成 25 年度からは、県指定事業での取組である「KOYO 地域貢献プロジェクト」において、これまでの活動を更に発展させる「5 科レンジャー」を実施した。これは、専門 5 科（農業科、農業機械科、造園デザイン科、家政科、被服デザイン科）の特徴を生かし、なおかつ、5 科が協働して地域からの要望に応える形で地域貢献をするものである。この取組により、これまで各学科でまちまちに行われてきた取組が学校内で共有され、学校全体での取組となった。このような取組を通して、生徒は地域とのつながりの中で、専門的な知識や技術が認められることを実感し、自己肯定感を高め、地域への理解や愛着をはぐくんでいる。 以上のように、当該校での取組は、複数学科併設校が、それぞれの学科の特色を生かし、学校全体で組織的にキャリア教育を推進している先進的なモデルと判断し、推薦する。
学校	岡山県立倉敷南高等学校	当該校は昭和 49 年創立の普通科高校で、平成 19 年に単位制への移行とあわせて文部科学省の「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究実施校」の指定を受け、校内にキャリア教育支援室を設置し、以後、継続的・発展的にキャリア教育を推進している。 天領であった倉敷は「町衆（有力商人）」が町の運営を担い、独自の精神や文化を生み、継承してきた。そこで、倉敷商工会議所を中心とした「町衆連」からの「本物からの学び」を取り入れようと、平成 25 年度から、県指定事業の「倉敷町衆精神を育む」～地域をプロデュースできる人材育成事業～において、「地域」の視点を取り入れた 3 年間のストーリーのあるプログラムで自助・共助の精神を学び、良き市民の育成を目指すキャリア教育を構築し、主体的・協働的活動に取り組んでいる。 具体的には、1 年次では、「学びの志」の育成として、地域の課題に関して、

			10 人の班でテーマを設定し、市役所や商工会議所、観光施設、生産者、NPO 法人などを訪問しインタビューや実験を行うフィールドワークを実施する。その上で発見した課題やその解決策・提言等をポスターにまとめ発表する活動を通して、地域の課題を自らの課題としてとらえる姿勢を育成する。また、土曜日活用の講座では大原美術館を訪問する。2 年次では、必修の学校設定科目「キャリア I」において、生徒がクラスの枠を超えて 5 系統 15 講座の学問分野に分かれ、テーマを設定して課題研究を行い、ポスターセッションを実施する。また、大学教員の講義、事業所訪問を盛り込み、自らの進路を踏まえながら学びを深める。3 年次では、地域の課題を論題としてディベートを行い、倉敷の未来、自分の将来を展望した活動を行う。 それらの活動は、平成 27 年度からは、県指定事業の「グローバル町衆育成事業」に進化し、カンボジア研修や海外の高校との交流を盛り込むなど、地域を題材としながら世界を考えるよう、より深い学びを追求している。 「授業もキャリア教育である」という視点でとらえ、チームでの思考、相互発表などの工夫をし、問題発見、問題解決の体験を取り入れている。コミュニケーション能力やコラボレーション能力を鍛えることにより、授業によるアクティブラーニングとキャリア教育との相互深化を図っている。こうしたことが、生徒の意識を変え、我が町倉敷への愛着と社会の役に立ちたいという高い志が学習意欲の喚起につながっている。 このように、地域との連携を軸に、学校全体で組織的にキャリア教育を推進する体制を構築し、カリキュラムの開発を継続、発展させようとしている。普通科高校として、地域に根ざしたキャリア教育のモデルとしての先進性をもってしていると判断し推薦する。
広島県	教育委員会	尾道市教育委員会	尾道市教育委員会は平成 17 年度から「夢と志を抱く子どもの育成」を政策の柱とした「尾道教育さくらプラン」において、職場体験などの推進をはじめとした取組を進め、自立した人間として力強く生きていくための「生きる力」を持った子供たちの育成をめざし 9 年間の取組を進めてきた。平成 26 年度からは、これからの変化の激しい社会において、多様な価値観をもった人材が協働して新たなものを創造していく力が求められるということを踏まえ、新たに「夢と志を抱き、グローバル社会を生き抜く子どもの育成」を政策の柱とした「尾道教育みらいプラン」を策定した。その中で、これからの社会で求められると考えられる能力を身に付けさせ、なりたい自分の姿を描きつつ、社会の役に立とうとする志を抱くことができる人材を育成するため「さくらプラン」でのこれまでの成果を継承・発展させながら取組を進めている。「尾道教育さくらプラン」並びに「尾道教育みらいプラン」における取組としては以下のとおりである。 【具体的取組】 1 発達段階に応じた職業観・勤労観の育成（キャリア教育で育成すべき関連する主な力：自己理解・自己管理能力、課題対応能力） 就学前教育と小学校・中学校を繋ぐ「尾道 15 年教育」において、発達段階に応じた職業観・勤労観の育成に取り組んできた。幼稚園における手伝いの奨励、小学校高学年での職場見学の奨励は、中学校 2 年生における 5 日間の職場体験への意識を高めるものとして実施してきた。中学校における 5 日間の職場体験は、「職場体験連絡協議会」を設置し、職場体験の目的や実施内容について市内中学校で共通認識を図るとともに、受け入れ先や事前事後の指導について情報共有を図る体制を整備している。 職場体験学習後は、そこで学んだり、経験したりしたことを今の生活やこ

		れからの進路選択に生かすため、次に掲げる『おのみち立志式』との繋がりを図り、自己の役割の理解や自己の動機付け、主体的な行動につなげ、体験で終わることがないように各学校で指導を行っている。 2 おのみち「立志式」「1／2成人式」の開催（キャリア教育で育成すべき関連する主な力：キャリアプランニング能力） これからの人生をたくましく生き抜こうとする自覚・意欲を高めることをめざし、市内全ての中学校2年生が自らの志を宣言する「志宣言」を書く。 さらに市内のホールに各学校から中学校2年生が集まり、代表が自らの「志宣言」を発表する「立志式」を開催した。平成26年度からは、市内すべての小中学校で、小学校4年生での「1／2成人式」、中学校2年生での「立志式」を地域公開の形で実施している。 式を迎えた児童生徒は、他の学年の児童生徒や保護者・地域の方々の前で、将来就きたい職業やその理由、自分が今がんばることなどについて、発達段階に応じた内容で、宣言や作文の読み上げを行う。内容については、職場見学や職場体験の経験を反映させるなど教科や他の教育活動と関連付け、将来社会人・職業人として自立していくための能力や態度の育成につながるよう、各学校での指導を行っている。 3 中学校リーダー研修会の実施と社会貢献活動の取組（キャリア教育で育成すべき関連する主な力：人間関係形成能力・社会形成能力） 市内中学校生徒会執行部の代表を集め、各学校における生徒会活動の取組の交流や、共通的な課題解決にむけた話し合いを実施することにより、愛校心や郷土愛を喚起するとともに、地域貢献、社会貢献の意欲を育てることを目的として実施している。 これまでに、尾道市出身で、市内や市外で活躍されている方の経験や中学生に期待することなどの講話を聞くことで、自分の生き方や今やるべきことについて考える機会としたり、中学生の活動について社会人の立場から指導助言を受けるなどの内容を実施してきた。また、リーダー研修会が中心となって全中学校でアルミ缶を回収し、集めた資金で、観光地へのベンチの設置や観光パンフレットの作成と配布を行ったり、中学生リーダー研修会のマスコットキャラクターを作成し、市内における各種行事で活動させるなどの活動を進めてきた。リーダー研修会を経験した生徒が進学先の高等学校で生徒会長を務めるなど、この研修会を通してリーダーとしての役割に充実感を感じ、その後の生き方に生かそうとする卒業生の姿がみられる。 さらに、尾道市内の各地域で実施される祭りにおいて、NPO団体と連携したゴミ集めのボランティア活動に多くの中学生が参加している。 これらの取組より、地域貢献を自立意識や目的意識を培うとともに、社会貢献をしようとする意欲を醸成し、自らの生き方について考えたり、学校や地域のためにできることを仲間と共に考え実行しようとする態度の育成を図っている。 4 アイデンティティの確立をめざすふるさと学習推進事業の実施（キャリア教育で育成すべき関連する主な力：人間関係形成能力・社会形成能力、課題対応能力） 各学区における地域人材を活用した学習活動を実施し、郷土の歴史、伝統や文化への理解と愛情を持ち、それらを拠り所としながら自分の夢や目標を確立する姿を育成することを目指している。具体的には、郷土の文化や歴史などについて先人から学ぶと共に、自分で課題を発見しそれについて調べたりまとめたりすることを通して、情報活用能力を育成するとともに、他者
--	--	--

		とのかかわり方や自己の生き方について考えられるよう取り組んでいる。 【取組の成果】 ○職場体験学習の前後において、生徒の生活面や仕事に対する理解、自己肯定感や将来の夢や目標についての項目は全て上昇するなど、職場体験の目的が達成されるよう、各学校における取組が充実してきた。尾道教育研究会キャリア教育部会において成果の上がった取組の共有を図るよう教育委員会による情報収集と指導・助言を進めるとともに、取組の成果をホームページ等で公表するなど、成果の発進に取り組んでいく。 ○予習・復習をする生徒の割合や、わかるまで努力する生徒の割合が上昇した。様々な取組を系統的に関連付けたり、目的に応じた指導計画の見直しを図ることにより、さらなる上昇を図っていく。 ○地域の祭りや行事に参加するだけでなく、祭りの後のゴミ拾いやアルミ缶集めなどのボランティア活動に積極的に参加しようとする生徒が育ってきた。活動に参加し、やりきることによって達成感や自己肯定感を向上させると同時に、活動を他から評価されることで自己存在感や社会貢献の意義等を再認識し、社会貢献への意欲の向上をめざしていく。 ○夢や目標があると答える生徒の割合は、ここ3年で上昇してきた。今後も取組を進めることでその割合の上昇を図っていく。
学校	尾道市立土堂小学校	キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育である。本校は、コミュニティースクールで学校運営協議会から4点の目指す学校像（ミッションステートメント）1. 基礎基本を大切にし、確かな学力と健やかな心身を育む。2. 学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む。3. 尾道への郷土愛を高める。4. 地域と保護者が共に育て支える学校を示され、その達成を目指して学校運営を行っている。これまで取り組んできた学習や活動をキャリア教育の視点で捉え、継続的・系統的な取組により成果を上げている。 特に特別活動（学校行事）や総合的な学習の時間においてキャリア教育の目標を設定し、ねらいを持って、意図的・継続的に実践を積み重ねている。 具体的には、以下の通りである。 1 特別活動（学校行事） （1）学校創立記念式典：毎年、地域や保護者と共に学校の歴史や伝統にふれ、率先して学校を大切にすることを養う。 （2）あじさい集会：先輩である作家・林芙美子さんについて学習し、学習した内容を全校集会で発表し、郷土尾道を大切にすることを育む。 （3）あじさい忌：林芙美子さんを偲ぶ地域行事に積極的に参加し、地域の方々とコミュニケーションをとり、人間関係形成能力を育てる。 （4）林間学校（S A F）：集団生活の中で、良好な人間関係づくりを促進していくプログラムを設定し、主体性やチャレンジ精神、コミュニケーション能力、協調性等、人間関係形成能力を育てる。 （5）二分の一成人式：地域や保護者の多数の参加を得て、自分の夢を語ったり、先輩の卒業生の話の聞いたりして、二分の一成人式を行っている。自分を見つめ直し、将来の夢への意欲を向上させるキャリアプランニング能力を育てる。 2 総合的な学習の時間 （1）4年生「絵のまち尾道」の取組：小林和作の創作活動や生き方について、課題発見・解決学習を行い、今の自分と対比させながら学習を進め、人間関係形成・社会形成能力や課題対応能力を育成する。

		(2) 5年生「映画のまち尾道」の取組：映画づくりには、様々な人が関わっている。自らの疑問を持ち、探っていく課題発見・解決学習を通して、目標をもって好きなことをやり尽くすこと等を学び、キャリアプランニング能力や人間関係形成・社会形成能力を育成する。 3 その他 (1) 学校生活全般 ①土堂っ子太鼓：伝統の太鼓活動において、高学年は、毎日練習する中で友達と心を合わせて演奏をすることを通して、人間関係形成・社会形成能力や自己理解・自己管理能力を育てる。また、低中学年にとっては、演奏だけでなく、所作を含めあこがれる活動になり、キャリアプランニング能力の育成につなげる。 ②掃除：6年生が、年間を通じて1年生に清掃の仕方を伝授し、共に校内美化に努める。自分にできることを見つけ進んで実践し、人間関係形成・社会形成能力を育てる。 (2) 学力の土台となるモジュール授業 ①モジュール学習：計画的に継続して全校で行い、学力の向上とともに学習習慣づくり、コミュニケーション能力や課題解決能力の向上を図る。 (3) 委員会活動 ①報道委員会 ブログ記事作成：子供が自主的に記事を書き、積極的に発信している。仕事に誇りを持って進めることで、キャリアプランニング能力を育成する。 ②報道委員会 写真撮影：母校やふるさと尾道の写真を人や物と会話をしながら撮影し、撮影した写真を学校のHPから発信し、人間関係形成・社会形成能力を育成する。
学校	東広島市立豊栄中学校	本校の教育目標の一つに、生徒が将来に対する夢や希望をもち、社会人として自立していくための意欲・態度・能力の育成がある。グローバル社会をたくましく生き抜くために、生徒一人一人に学ぶことや働くことの意義や役割を理解させることによってキャリアプランニング能力を高めるとともに、地域と多様な関わりをもたせることによって、人間関係形成・社会形成能力を育成している。 第1学年の職場訪問では、身近にある職業や職場に関する情報を収集させ、「働く」ことについて興味・関心をもたせる。第2学年では、第1学年の学習を基に、5日間の職場体験を行う。事前・事後指導を充実させ、働くことを意識しながら自分の将来の姿を考えさせたり、自分のよさや可能性を発見させ、それを実現するための計画を作成させたりすることで、意図的・計画的にキャリアプランニング能力を育成している。地域の産業界等との連携を積極的に図り、16名の生徒に対し、17の事業所（町内16事業所）を開拓している。生徒は一人一事業所での職場体験を行うことで、働くことに対する強い責任感が生まれるとともに、自己理解・自己管理能力が養われている。 これらの取組を基に、第3学年では、地域内の保育所、サロンへ計画的に訪問する。自分と社会とのかかわりから将来における多様な生き方や進路について考えさせることによって、人間関係形成・社会形成能力を育成することを目指している。実際に、幼児や地域のお年寄りと触れ合うことを通して、立場の違いや相手のことを考えた言動や行動が必要であることを学び、他者理解や広い視野に立った物事の見方や考え方が身に付く。特に、地域サロン訪問で、サロンの方から昔の生活や生き方などを聞くことは、今後の自分の生き方と照らして考える機会となっている。1回目の訪問を基に、2回目の訪問内容を生徒自

		身に企画立案・決定させることにより、相手のことを真に考えるようになる。このことは課題対応能力、人間関係形成・社会形成能力の育成につながっていると考えている。 以上のように、地元への理解・愛着・誇りを育むとともに自己の生き方との関わりについて考えさせる等、キャリア教育を積極的に推進している。温かく見守り関わって下さる地域の方との交流を大切にすることによって、豊かな感性と優しさを身に付け、そして世界に羽ばたく人間として成長していったほしいという願いを地域と学校が共有し、共に生徒を育てるという風土の醸成を目指している。
学校	広島県立加計高等学校	広島県西北部の中山間地に位置する安芸太田町にある広島県立加計高等学校は、各学年1クラスで全校生徒は95名である。90有余年の歴史を誇る伝統校であり約9,000人余りの有為な人材を輩出している地域の拠点校であったが、人口流出とともに少子化が進み在籍者数も減少した。地元安芸太田町は、高齢化率が広島県で最も高く、少子化により町の将来を憂いて雇用と教育に支援を行っている。このような状況の中で、他校種や地域・産業界等と連携・協力を主体的に図り、組織的・系統的なキャリア教育に取り組むことで、生徒の地元への理解・愛着・誇りを育む教育を積極的に推進している。その結果、1学年20数名で成績幅の大きい中、毎年5名前後の国公立大学・公務員合格、就職率100%という成果を出している。 1 組織的・計画的に 確かな学力と勤労観、職業観をもち、豊かな人間性を備えて地域貢献できる生徒を育成することを目標にかかげ、キャリア教育全体計画及び年間指導計画を作成し、異校種や地域と連携したインターンシップや地域の産業・生活文化を探究する学習活動など様々な実践的・体験的な学習活動を、年間を通して計画的に実施している。 2 実践的・体験的な学習活動を通して (1) 全校生徒参加の「集団宿泊研修」 国立山口徳地青少年自然の家で課題発見・課題解決をテーマにした「TAP学習」（体験学習プログラム）を行っている。学年ごとの発達課題や身に付けさせたい力を明確にし、目標達成を目指して宿泊を伴って全校生徒に主体的な学習に取り組ませている。上級生が下級生をうまくリードしており、学校のコンセプトである「里山の人柄の良い生徒・先生・地域に囲まれて過ごした3年間は、必ずあなたの人生に大きく影響します」を体現させている。 (2) インターンシップをはじめとする体験活動 町、商工会議所、小・中・高が参加し「キャリア教育推進協議会」を設置し、キャリア教育の在り方、及び発達段階に応じたより効果が上がるプログラムを検討し、小・中・高でのバッティングを防ぐ効率的な職場体験・インターンシップを実践している。 また、町に所属している「地域おこし協力隊」とコラボし「商店街マップ」を共同で作成したり、建築系に進学する生徒が「空家の改造設計」を共に考え技術の伝承を行うことで「地域創生」・「長幼の序の醸成」・「指示待ち人間の解決」に効果を発揮している。 (3) 総合的な学習の時間「探究活動の時間」 平成26年度から地元の産業を意識しながら学ぶ総合的な学習の時間「探究活動の時間」を各学年に設置している。この授業は、「菌類研究」「園芸農業」「森林を考える」「生活文化研究」「国際理解」「地域観光・伝

		続音楽」の6つの講座で、全校生徒が縦割りのグループ編成により、3年生がリーダーとして下級生の指導に当たっている。このことにより、上級生にはリーダーシップが醸成され、下級生には先輩の経験を生かし、高い目標を設定している。また、地域の社会人を外部講師として招聘したり、現地に赴いた体験活動等、積極的に地域と連携を図っている。 (4) 小・中・高の各校種による「協調学習」 小・中・高すべての学校において、年間を通じて協調学習を実施している。月1回の定例会の開催や授業交流、検討会などをもち、教員の授業力の向上に努めている。また、広島県が推し進める「学びの変革アクションプラン」に基づき、課題発見・課題解決に資する深く考える授業を行っている。 (5) 地域に根差したボランティア活動 町主催の行事（しわいマラソン等）にはほとんどの生徒が「ボランティアスタッフ」として準備や運営に携わったり、小・中・高共同で参加する「月ヶ瀬公園清掃活動」では高校生が中心となって活動を行ったりすることにより自己有用感を高めている。さらに、平成4年度から継続的に取り組んでいる道路清掃活動については、平成26年度「広島県アダプト制度」青少年活動コンテストにおいて団体表彰を受けている。 部活動においては、射撃部を中心に安芸太田町で10回を数える「ライフル射撃全国高等学校選手権大会」において、参加と共にボランティアを行い全国の約500名の参加者をもてなしている。また、射撃部は年間6回小学生を招いて射撃の体験活動を、先輩らしさを出して支援している。 (6) 海外交流 韓国・米国・台湾（予定）の3か国と姉妹校提携を行っており、昨年度ハンガリーに1年間1名・ハワイに15日間2名・今年度ハワイに15日間2名の生徒を留学生として送り出している。 3 個に応じた取組 個に応じた補習体制として、各教科で行う7時間目補習や、外部講師を招聘した「公営塾」等、計画的・継続的な学力の充実を図る体制を整え、生徒の多様な進路希望に対応し、成果を出している。 4 連携・協力して 上記のインターンシップやボランティア活動等の様々な実践的・体験活動は、地元である安芸太田町、社会福祉協議会、商工会等、及び他校種と綿密な連携のもとに、地域が一体となって継続した取組が進められている。 このように、中山間地域の小・中・高等学校が地域と深い連携のもとで一体感や共通認識をもちながら、キャリア教育の基盤づくりに努力していることは高く評価できる。こうした取組を表彰し、奨励することで、芸北地区全体のキャリア教育の更なる発展が期待できることから加計高等学校をキャリア教育優良学校として推薦する。 【ホームページ】 http://www.kake-h.hiroshima-c.ed.jp/
PTA 団体 等	公益社団法人 日本メディカル給食協会	日本メディカル給食協会は、病院、診療所、介護老人保健施設等における治療の一環としての患者等への食の提供について、公共事業を通じて、その質の向上、安全安心及び時間、経理の効率化を図るとともに、病院等の食の提供の場における障害者の雇用を促進することにより、国民医療の向上及び高齢者・障害者福祉の増進に寄与することを目的として構成された法人で、平成24年4月1日に公益社団法人として発足した。

		○広島県特別支援学校技能検定の実施 広島県教育委員会では、広島県内の知的障害特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加に向けて、生徒の就職意欲を高め、企業等に雇用を促すため平成23年度から企業団体等と連携して本県独自の認定資格を開発、授与する特別支援学校技能検定を実施しており、日本メディカル協会会員企業には、認定資格研究協議会の委員として参画していただき、認定資格の開発から技能検定実施に当たって、全面的な協力をいただいている。（協力企業：8社） （1）特別支援学校食品加工技能検定の開発、実施（認定資格研究協議会、食品加工部会） （2）特別支援学校食品加工技能検定の審査等 （3）特別支援学校「作業学習」での生徒への指導（認定資格指導員派遣） <実績> ○平成23年度 認定資格研究協議会 年2回、食品加工部会 年3回 ○平成24年度 認定資格研究協議会 年2回、食品加工部会 年3回、特別支援学校食品加工技能 検定 年1回、認定資格指導員派遣8校延べ21回 ○平成25年度 認定資格研究協議会 年1回、食品加工部会 年3回、特別支援学校食品加工技能検定 年2回、認定資格指導員派遣8校延べ14回 ○平成26年度 認定資格研究協議会 年1回、食品加工部会 年2回、特別支援学校食品加工技能検定 年2回、認定資格指導員派遣6校延べ11回 ○平成27年度 認定資格研究協議会 年1回、食品加工部会 年2回、特別支援学校食品加工技能検定 年2回、認定資格指導員派遣6校延べ19回 <成果> ○広島県内特別支援学校高等部生徒の就職希望者数（高1～高3）の増加（H25.5 493人、H26.5 543人、H27.5 573人） ○就職者数の増加（就職率の増加）（H25.3卒 101人26.0%、H26.3卒108人33.0%、H27.3卒 159人39.8%）（※就職者数には就労継続支援A型事業所の利用者を含む） ○生徒は、家庭において、家族の手伝いをしたり、自分で食事を準備したりするようになった。また、大きな声で挨拶をしたり、自分の所属校や氏名を言えるようになった。 ○技能検定への取組を通して自信をもち、自己肯定感が高まり、就職をはじめとする様々なことへ意欲が高まった。特に、就労に必要な衛生的な作業のための手洗いや服装等の知識を理解し、実践できるようになった。	
山口県	学校	周南市立鹿野小学校	1 重点目標に沿った系統的な取組 キャリア教育の重点目標「他者の個性を尊重し、自己の個性を生かしながらよりよい人間関係をつくっていくことができる」を設定し、この目標実現に特化した教育活動を年間計画に位置付け系統的な実践を行っている。 2 地域と連携した起業体験 キャリア教育の重点目標の達成と鹿野の町を活性化したいという思いを学校運営協議会のメンバーの多くがもっており、学校運営協議会の承認・支援を受けながら本単元を実践している。 年3回開催される地域の市のうち、1回出店している。商品は地域の方から御指導いただきながら児童が製作・販売している。商品は地元の産物である「茶」「和紙」「竹」等を利用したものがある。子どもたちは、地域の方とのかかわりや地元の産物を知ることにより地元への誇りや愛着を育んでいる。 収益については、全校で来年度「鹿野市」参加への繰越金、募金、備品購

		入等に活用することを決めている。
学校	平生町立平生中学校	1 適切な検証改善による取組 児童生徒の実態把握を目的とした町内小学校と共通の調査による結果をもとに、「めざす生徒の姿」を明らかにし、その実現に向けた事前・事後指導を含めた職場見学、職場体験等を、年間指導計画に位置付けている。 2 地元自治体等との連携による取組 地元への誇りや愛着を育み、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成している。今年度は、「キャリアプランニング能力の育成」に重点を置き、学校運営協議会の支援を受け、以下の取組を行っている。 ・卒業生を講師として招聘して行う「キャリア教育講演会」 ・地元の特産品等の製作、史跡巡り等の「ふるさと体験学習」 ・高齢者宅を訪問し家事のお手伝いを行う「ひらお手伝い隊」 ・乳幼児とふれあう「思春期体験学習」 ・自分の「志」を明らかにする「立志の集い」 等 3 キャリア教育に関する研修の充実 毎時間の授業や、定期テスト、部活動等、学校生活の様々な場面で、キャリア教育の視点から全教職員が意識して指導すべき事項について、担当者が中心となって研修する場を設定している。 【ホームページ】 http://www.jhshirao.town.hirao.lg.jp/
学校	山口県立周防大島高等学校	当該校は、瀬戸内海に浮かぶ周防大島唯一の高校として、島の将来を担う人材の育成、高校が中心となった地域の活性化など、地域から大きな期待があり、連携型中高一貫教育校の仕組み（島内すべての4中学校と連携）を生かしながら、キャリア教育を中核とした系統的・計画的な教育活動を展開している。 また、国や自治体を中心に地方創生の取組が本格化する中、全国唯一である「地域創生科」の創設やユネスコスクールへの認証（ともに平成26年度）に伴い、教育内容・教育活動を大幅に見直し、地域との連携を深め、地域に貢献する存在感ある学校づくりを推進する中で、生徒の自己有用感、自己肯定感を高め、将来を担う人材の育成に取り組んでいる。 具体的な取組内容は次のとおりである。 1 地域と連携したキャリア教育 ～地域に貢献する活動を通して～ （1）取組の推進基盤となる組織の設置 『周防大島高校「地域・学校活性化委員会」』 関係機関等との協働体制を確立することにより、活力ある地域の創造と魅力ある教育活動の実現に向けて設置。 （町役場、町教委、地域、連携中学校、本校関係者、生徒代表等） （2）取組の要となる教科等の設置 ○学校設定教科「地域創生」の開設 地域の経済・産業、文化、福祉の発展に寄与するとともに、環境と共生する持続可能な社会を築き、誰もが幸せに暮らせる活力ある地域づくりに貢献する社会人を育成することを目的とする。 ○「総合的な学習の時間」の位置づけと内容の見直し ◇第1学年全生徒が履修する「総合的な学習の時間」を、学校設定教科「地域創生」と関連付けて実施。 ◇「島・学・人プロジェクト～島がすき、学校がすき、そこで生きてる人がすき～」として実施。 ・周防大島の魅力を調べて発信 ～島がすき～ ・周防大島高校の魅力を調べ発信 ～学校がすき～

		・島の人々との交流 ～そこで生きてる人がすき～ (3) 地域の産業、組織等との密接な連携 「海の市」との連携 ○毎月第四日曜日に開催され、地域の起業家らが出店する地元の市場「海の市」との連携 ○総合的な学習の時間、学校設定教科「地域創生」などの学習の場、学習成果発表の場とするとともに、地域の志のある人材との交流を図る。 (4) インターンシップの充実 本校では、従来から2年次に職場の実際を体験する体験型インターンシップを実施していたが、平成26年度から、新たに「海の市」を活用した地域活性型インターンシップを加えて実施している。 ○体験型インターンシップ 周防大島で働く人々のさまざまな職場を体験。 ○地域活性型インターンシップ 「海の市」を活動の場として、就業体験やイベントの企画・立案・運営を年間を通して実施。 (5) ユネスコスクールの取組を通じた地域貢献・地域活性化活動 ○「“届けよう、服のチカラ”プロジェクト」 大手衣料品小売りメーカーと連携し、不要になった子ども服を回収して、世界中で服を必要としている人々に届ける活動。 ○「すおうおおしまキレイな海岸フォトコンテスト」 「地域創生」の活動に位置づけ、自然やふるさとを愛する心の育成。 2 連携型中高一貫教育の仕組みを活用したキャリア教育 県内唯一の連携型中高一貫教育校として、町内の4中学校と連携し、推進目標「地域の子どもは地域で育てる」の下、次の「4つの柱」にもとづく教育活動を中高が連携して展開し、中学生も加えて、子どもたちのキャリア発達を支援する取組を展開している。 ○周防大島町内中学生の学力の向上 ○地域の特性を生かした教育の推進 ○中学校と高等学校の滑らかな接続 ○協働による中高教員の資質向上 ＜中高連携による教育活動＞ (1) 地域貢献・ふるさと学習 ○中高6年間を見通したテーマ学習（「郷土おおしま」発表大会合同開催） ○ふれあいみかん収穫作業（地域の主要産業である「みかん」の収穫作業） ○ボランティア活動（地域の福祉活動、スポーツ大会等でのボランティア） (2) 中高6年間を通じた進路支援 ○高校教員による中学生の進路相談、高校生による合格体験談 ○中高一貫カウンセリング（中学校教員が高校を訪問して生徒と面談） (3) 学力向上支援 ○合同学習会（町内中学3年生が一堂に集い、課題別グループ編成による授業の実施） ○学力アップ特講（中学校の学習と高校の学習の滑らかな接続） ○学力定着状況確認問題（連携中学3年生の学力の定着状況の把握） ○「学びのステップワン」（中高教員共同作成の自学自習教材）の活用 ○イングリッシュキャンプ（中高合同による英語を使用した体験活動） (4) 系統的・継続的な教育計画
--	--	---

		○中高教員による指導方法の工夫・改善（交流授業，提案型少人数指導） ○4 中学校における各教科年間指導計画の共通化 ○6 年間を見通した計画的な資格取得（漢字検定，英語検定等） 3 成果と課題 （1）地域と連携したキャリア教育について ○地域の多様な大人，特に，U・I・J ターンにより島に移住し起業している志を有する人々との交流を通して生徒はコミュニケーション能力や社会性，望ましい職業観や勤労観はもとより将来の夢を志に育てている。 ○学習の場，学習成果の発表の場として「海の市」を積極的に活用することにより，生徒一人ひとりの自己有用感や学校の存在感が高まり，地域・学校を肯定的に受けとめ，自分に自信と誇りをもって前向きな学校生活を送ろうとする姿勢が高まっている。 ○地域貢献活動等の取組を積み重ねる中で，生徒の課題意識を高め，高校生の視点から，町づくりについて企画・提案していく活動に高めていくことが期待される。 （2）連携型中高一貫教育の仕組みを活用したキャリア教育について ○中高が連携した行事により，異年齢の交流を行う中で，高校生が手本を示したり，中学生を指導したりする活動を通して，双方の自己有用感や肯定感につながっており，また，中学生についても，見通しをもつことができるなど，さまざまな成果が表れている。 ○体験活動について，中高一貫教育の中で，事前・事後指導も含めた一層効果的な実践の工夫が期待できる。 【ホームページ】 http://www.suo-oshima-h.ysn21.jp/
PTA 団体等	山口県公立高等学校 P T A 連合会	当連合会は，従来より P T A 活動を通じたキャリア教育の推進に積極的に取り組んでおり，特に平成 2 5 年度以降，家庭・学校・地域社会総がかりでのキャリア教育の在り方について検討や協議を重ね，教育活動の充実に大きく寄与している。 また，当該連合会会長は本県キャリア教育推進会議に委員として参画するなど，県全体の推進体制の強化に尽力している。 生徒一人ひとりが主体的に自らの未来を切り拓くとともに，郷土に誇りと愛着をもち，地域に貢献する生徒たちを育成するために，P T A として以下のような活動を通じて，学校等と一体となったキャリア教育の推進に取り組んでいる。 1 全国高等学校 P T A 連合会大会「山口大会」 平成 2 5 年 8 月 2 1 日・2 2 日 テーマ 【夢から志へ】 ～たくましく生きるチカラを育むために，今，私たちができること～ 基調講演 『日本の教育の再生』 文部科学大臣 下村 博文 氏 第 1 分科会 学校教育と P T A ～キャリア形成と職業観～ 第 2 分科会 進路指導と P T A ～キャリア教育と進路指導～ 特別第 1 分科会 熟議 ～地域社会総がかりで教育現場を支える～ テーマ：望ましい勤労観や職業観を育てるには 山口県での全国大会の開催にあたり，キャリア教育を中心的なテーマに掲げて企画・運営を行った。この大会を通して，子どもたちの生きぬく力の育成のために，共に育む者として新たな連携を模索し，これからの P T A のあ

		るべきカタチを山口から発信することができたと評価されている。 2 山口県公立高等学校PTA連合会総会における講演 平成26, 27年度においては、キャリア教育や進路指導に焦点をあてた講演を実施し、会員の意識高揚を図った。 ○平成26年度 講師 今村 亮 氏 認定特定非営利活動法人カタリバ 統括ディレクター テーマ 「高校生の中に火を灯す」 ～大学生による出張講義「カタリ場」の事例を通して～ ○平成27年度 講師 鈴木 寛 氏 東京大学教授, 慶應義塾大学教授, 文部科学大臣補佐官 テーマ 「変化の時代に対応した高校教育, 高等教育, その接続の在り方について」～PTAの皆様へ期待すること～ 3 研究討議研修会 平成27年8月7日 講演 「保護者は高校生の心に火を灯すため, どう行動する？」 講師: 今村 亮 氏 (カタリバ 統括ディレクター) 熟議: 参加者 115名 (小中高PTA, 教職員) 講話をもとに, 講師とともに会員相互に研究討議を行い, 学校と家庭, 地域等との連携協力体制の強化を図っている。 4 山口県公立高等学校PTA連合会アクションプランの推進 全国高等学校PTA連合会大会「山口大会」のテーマ「夢から志へ」を発展・進化させ, 「志を立て, 実践する」子どもたちをサポートする高校生応援プロジェクトを推進していくことを決定した。その継続的な事業展開の2本柱を「熟議」及び「カタリ場」と位置付け, 持続的・横断的に実施していくこととしている。 昨年度及び本年度に, 当連合会の企画・運営も含めた協力により, 下記の2校において, 自らの進路意識を高めるための大学生による講話やグループ懇談会等, 志を抱かせる教育活動を展開し, 高校生の貴重な学びの場となった。 ・カタリ場の実施 平成26年度 山口県立山口中央高等学校 ・熟議の実施 平成27年度 山口県立西京高等学校 以上のように, 当連合会は長年にわたり学校教育活動に積極的にかかわっており, 特にキャリア教育においては, その重要性を深く認識し, 学校と保護者の共通理解を深め, 組織的・実効的な取組の工夫と実践により, 教育委員会の取組への支援とともに, 学校教育の円滑な運営や教育効果の深まりに大きく寄与しており, 今後もさらなる取組の発展・充実が期待されるものである。
徳島県	学校	徳島県立阿波高等学校 徳島県立阿波高等学校は, 県西部に位置する全日制普通科高校である。 学校の教育重点目標に, キャリア教育の推進を掲げ, 自己のキャリアをデザインしようとする主体性と, 自立した人間として社会に貢献しようとする意欲と実践力を高めるために, 総合的な学習の時間を中心として, 「朝読研究」「職業研究」「学部学科研究」「小論文研究」「環境教育研究」の5つの研究テーマに取り組んでいる。 具体的な取組 1 「朝読研究」 (1) 目標 言語活動の充実, 豊かな人間性の伸長等を目指し, 自己の生き方, 在り

		方について考える機会を設定する。 (2) 内容 全学年を対象に、毎朝10分間実施しており、集団読書会や読み聞かせの日を設定するなど、学校全体で取り組んでいる。 2 「職業研究」 (1) 目標 将来の生き方や生活を考えさせるとともに、1年生全員によるインターンシップを推進することにより、しっかりとした勤労観・職業観を育成する。 (2) 内容 ①インターンシップ事前説明会 ②進路適性検査、進路適性講演会の実施 ③自己理解、職業研究 ④インターンシップ体験先企業の決定 ⑤事前指導 ⑥夏季休業中によるインターンシップ体験 ⑦インターンシップの振り返り（就業体験プレゼン） ⑧校内発表会 3 「学部学科研究」 (1) 目標 自己の将来を設計するために必要な諸条件を把握させ、自己の将来を設定するために必要な課題について認識させる。 (2) 内容 進路学習においては、自らの興味・関心や適性、能力について認識させるために、職業や学問研究、大学の学部学科などの調べ学習を推進している。 さらに、進路についての知識を広げるために、県内大学等から講師を招聘し、自らの進路選択をより良いものとする指導を行っている。 4 「小論文研究」 (1) 目標 社会の様々な問題について認識を深めさせ、自己の考えを表現する方法や、問題解決に向けての方法について学ばせる。 (2) 内容 （第1学年、第2学年の2～3学期） 小論文学習の意義、小論文作成の留意事項などの理解を深め、現代社会についての思考方法に関する講演会等を開催している。 5 「環境教育研究」 (1) 目標 地球規模での諸問題について学ぶことを通して、状況判断能力、問題解決能力、コミュニケーション能力等を育成する。 (2) 内容 校内において環境フォトコンテストや、大学教授による環境（防災教育）ワークショップを1学年を対象に実施し、身近にある環境を捉え直し、課題の解決に向けて、考えさせる取組を行っている。 このように、当該校においては、学校全体で系統的にキャリア教育を推進し、長年実施しているインターンシップやワークショップなどの体験的な学習活動
--	--	---

			により、主体性や社会性を育んでいる。 これらの取組に満足している生徒の割合も約 90%を示すなど、内容の充実も図られており、キャリア教育優良校として推薦する。 【ホームページ】 http://awa-hs.tokushima-ec.ed.jp/
香川県	学校	東かがわ市立三本松小学校	東かがわ市立三本松小学校では、キャリア教育を教育計画に位置付け、6年間で育てたい能力や具体的な要素に対し、発達段階に応じた具体的な態度を定め実践を行っている。その中でも6年生は、勤労を重んじ目標に向かって努力する態度を育成するため、総合学習のテーマを「未来に向かって」と題し、職場体験学習を核にしたキャリア教育を進めている。 本校の職場体験は、人の役に立つことのすばらしさを実感するとともに、地域の一員としての自覚や郷土愛を育むために、市内の14業者に依頼して、年間2回（26年度は9月と1月、児童はどちらか1回を選択）実施している。児童は、自分が体験したい業種を選択して1日約2時間の体験学習を行う。業種は公務員やサービス業等多岐に渡っており、児童が興味関心をもって活動に臨めるようにしている。 上記の体験活動を核にし、総合学習では、児童が課題の発見と解決に向けて主体的・共同的に学ぶ学習（アクティブラーニング）を年間を通して計画し、実践を行っている。また体験学習の前後では、国語科との関連を図り、あいさつやお礼文といった社会生活に必要な力の育成も図っている。 東かがわ市では、中学校（2年時）で職場体験・地元企業による説明会を実施している。三本松小学校の6年生児童が、小学校でのキャリア教育をもとに、中学校で自分の将来の目標に向かって具体的なビジョンをもつとともに、地元に対する誇りと愛情を深めることができる取組にもなっている。
	学校	多度津町立四箇小学校	多度津町立四箇小学校では、学校教育目標「学び合い 手を取り合い 高め合う子どもの育成」をめざし、キャリア教育の基盤でもある「あいさつ・清掃」活動を核として規範意識を高め、豊かな体験活動を多く取り入れて学校経営を行っている。 豊かな体験活動では、花や野菜、米作り等の栽培活動や弘田川の水環境を学ぶ環境学習、ふるさとのよさを学ぶ佐柳島学習や高見島集団宿泊学習、そして地域の保育所や公民館でのボランティア活動などを系統的・継続的に実践している。 特に、キャリア教育の一つである6年生の職場体験では、町教育委員会や町役場だけでなく、多度津町文化体育振興事業団や多度津町商工会議所の協力を得て、いろいろな分野の事業所が児童を受け入れている。児童は、自分がつきたい職業調べや興味ある職場体験活動を通して、そこで働く人々の願いや苦労を知ったり、職人の方の素晴らしい技術に感動したり、仕事に対する真剣さを感じていた。そして、自分の未来予想図（総合的な時間の学習で）をまとめ、働くことの大変さを感じながらも人の役に立つ喜びを実感し、将来の夢をより身近なものにしていくことができた。 いろいろな人・もの・こととふれあう体験を通して、児童はコミュニケーション能力や自分で意志決定して行動する態度を身に付けている。
愛媛県	学校	伊方町立瀬戸中学校	○総合的な学習の時間の取組 「ふるさと」をキーワードとして、継続的、系統的にキャリア教育を実践している。中でも、地域の名産であるさつまいもを栽培し、商品加工して販売する「IMOプロジェクト」は、キャリア教育の柱となっている。 第3学年では、模擬会社を設立して、さつまいもを使用した商品の開発、原料の調達、販売促進、経理などの活動を行っている。また、販売促進のた

		めに、生徒がオリジナルキャラクターの着ぐるみやキャンペーンソングを作ったり、TV局主催のふるさとCM大賞に応募したりしている。 第2学年では、職場体験を行ったり、3年生の指導を受けながらさつまいものお菓子の製造、地域のイベントでの販売活動を行ったりしている。 第1学年では、地域の方の協力を得て、農業体験や漁業体験を実施している。農業体験では、3年生が起こした会社から注文を受けた契約農家の立場でさつまいもの栽培を行い、収穫後は3年に納品している。 ○外部機関や地域との連携 ジョブカフェと連携して講師を招聘し、職場体験の事前指導や教員研修の充実に努めている。さつまいもの栽培では、毎年、地域の農家などと連携を図り、助言を受けている。 【ホームページ】http://seto-j.esnet.ed.jp/
学校	愛媛県立新居浜南高等学校	新居浜南高校は、長期にわたり生徒の特性や発達段階に応じた3年間を通して継続的なキャリア教育を実践するとともに、キャリア教育に係る体験活動を通して、職業人としての資質・能力の育成に努めている。 ○進路指導体制の構築 進路に関する委員会を年3回実施し、進路指導に関する教員間の情報の共有や、生徒一人一人の希望や適性に対応した進路指導の在り方について意思統一を図り、地域で活躍できる人材の育成に努めている。 ○充実したインターンシップの実施 2年生全員が、総合的な学習の時間に地元の事業所において、4日間のインターンシップを実施するとともに、事前指導としてマナーに関する社会人講話を行うほか、事後指導としてレポートやプレゼン作成、発表会等を実施しており、望ましい勤労観・職業観の育成に精力的に取り組んでいる。 ○企業見学、職場見学、教員による企業訪問の実施 1年生全員が、総合的な学習の時間に地元の製造業を営む企業等において、企業見学を実施し、早期に将来の職業について体験する機会を設け、雇用のミスマッチの解消に努めるほか、3年生の就職希望者約70名が就業前の職場見学を実施し、卒業後の進路意識の高揚を図るなど、充実したキャリア教育を実践している。また、地元企業を中心に教員が企業訪問を行い、企業ニーズの把握に努めている。 ○ビジネスマナー講座の実施 外部講師を活用して、職場でのコミュニケーション能力を高めるためのビジネスマナー講座を実施するなど、社会的・職業的自立に向けた実践的な取組を行っている。 ○キャリア教育に係る情報発信 学校のホームページや学校リーフレットにキャリア教育に関する実施状況を掲載するなど、キャリア教育の普及・啓発に努めている。 【ホームページ】http://niihamaminami-h.esnet.ed.jp/
福岡県	学校 福岡県立久留米筑水高等学校	【久留米筑水高等学校の取組】 農業・福祉・家庭に関する5学科（社会福祉科、食物調理科、環境緑地科、食品流通科、生物工学科）の有機的結合を図り、地域の教育力を活かしながら、生徒一人一人の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育を実践している。社会の変化に柔軟に対応できる実践的な産業人の育成を目指し、地元企業等と緊密に連携した体験活動を積極的に取り入れ、地域の活性化にも貢献している。事前・事後学習を重視した体系的・組織的なキャリア教育への改善を続け、生

		徒が生き生きと学べるよう同窓生や家庭とも連携している。このようなキャリア教育実践は、生徒に学びや勤労の意義についての理解を深めさせ、学習意欲を向上させることに繋がっている。 【キャリア教育充実に向けての具体的取組】 1 外部講師の活用 社会人特別講師招聘事業（5学科19講座）や外部非常勤講師による示範実習（食物調理科）において、第一線で活躍している社会人から、実践的な知識や技術を体験的に学ぶことにより、自己の職業観・勤労観を滋養させる。 2 事前・事後指導を重視したインターンシップ 全学年で2～24日間にわたって体系的・組織的に実施し、職業意識の高揚と自己の適性について考えさせる。 3 地域との連携 5学科の特色と専門性を活かし、地域との交流を深めるとともにスペシャリストへの道を探る。 4 産業界等による学習機会の活用（食品流通科、食物調理科） 学科間で連携した学校生産物の販売やマナー講習、産業界による食品コンテスト等の学習機会をキャリア教育の一環として活用し、課題対応能力を育成する。 5 同窓生・保護者との連携 進路実現に向けて卒業生徒の進路懇談会、職業ガイダンス、保護者との連携など学校全体で系統的に取り組んでいる。
PTA 団体 等	那珂川町立福岡女子商業高等学校PTA	福岡女子商業高等学校のPTAは、以下に示す様々な活動で、学校と綿密に連携が取れており、生徒達のキャリア形成に十分な効果を上げている。PTA役員全体委員会を定期的に開催し、各学校行事にどのように関わるかを審議し実行している。 1 女子商マルシェへの支援 11月に開催している本校最大の学校行事である。マルシェとは、フランス語で市場という意味で、2日間で来客数1万人以上、売上高は1,000万円あり、本年で9回目を迎える。準備は5月から全クラスに実行するための組織を立ち上げ、実際の企業と仕入、値付、販売の交渉を行うなど、商業教育の実践を行い、将来の就職活動の基礎や日頃の学習の意味を体験的に習得している。この事業の目的は、21世紀を担う「志」ある女性を目指すものである。PTAは、職業観・勤労観などの家庭内における教育をとおしてインターンシップに臨む生徒達の支援を行うとともに、近隣道路から本校までのお客様の誘導、会場入口での誘導、会場内の警備、他校PTA視察の応対を担当して、マルシェの成功に貢献している。 2 挨拶運動の展開 9月に早朝挨拶運動として、朝登校してくる生徒達に積極的に声をかけ、挨拶の大切さや登校時の安全確保の指導をしている。この取組をとおして、PTAは、日頃の生徒の姿が観察できると同時に、課題も把握することができ、役員会や学年会、総会を通じて家庭教育力の向上にも大いに貢献している。また、保護者自らが挨拶運動を行う姿に接し、生徒達は、社会人としてのマナーの重要性はもとより、相手を思いやる心の大切さを直接学んだ。これは、社会人として自立した人材を育てる観点を持ち、社会人としての基礎的資質・能力の育成に繋がる生きた教材としてキャリア教育の手本となっている。 3 ウォークイン那珂川の支援

			自ら学ぶ学校の所在する地域の文化や自然を知することは、深く郷土を愛することに繋がる重要な体験である。このことを踏まえて、今年で21回目を迎える学校行事として、1月に学校から中之島公園まで往復約21kmを踏破している。PTAは前日よりぜんざいを仕込み、当日の生徒達の努力を労っている。生徒達はこのような経験を通じて自然の大切さや、仲間との協力の重要性、達成感や成就感の涵養など、様々な成長を実感している。これもPTAの協力なしには実現できない。キャリア教育の観点から、21kmを踏破する生徒達に生徒自身の可能性を支援し成長を認めることにより、生徒たちの自己肯定感を育成し、「やればできる」という行動力を育成することに繋がっている。 4 体育的行事への協力・体育祭会場警備 7月に実施するクラスマッチにおいて、PTAで応援計画を作成して、生徒の活動を見守っている。さらに熱中症予防として飲料水の差し入れをしている。また、10月に行う体育祭では、グラウンドや周辺の警備を担当し、生徒達の安全を確保しスムーズな行事運営に貢献している。 5 広報活動をととした生徒の支援 学校の教育活動を年2回のPTA新聞を通じて、情報を発信している。同校は、町立高校であることから、小学生への珠算指導、中学生への学習指導、人権コーラス隊の編成など年間を通じて数多くのボランティア、地域貢献活動がある。PTA広報委員会は、その活動の一つ一つを丁寧に取材し、生徒達の活動、活躍を積極的に掲載し、学校教育目標である生徒の自己肯定感、自己有用感の育成に努めている。
長崎県	学校	五島市立奈留小中学校	五島市立奈留小中学校は、平成13年度に連携型中高一貫教育を導入、平成20年度には小中併設校となり、本格的な小中高一貫教育が開始された。現在は小学校・中学校・高等学校、さらには地域が一体となり、キャリア教育を柱に12年間の一貫継続した系統的な教育を進めている。平成26年度は「キャリア教育の推進による 夢・実現」を研究主題に掲げ、その取組を県全体に発表した。現在もキャリア教育推進の中核校として、市全体のキャリア教育推進・啓発への貢献度が高い。 【具体的取組】 1 12年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習 (1) 確実な繋ぎを意識した取組 校種間の繋ぎと発達段階を意識して12年間を次の①～③のように3つの段階に分け、その段階に応じた系統的・継続的な進路学習を実施した。 ①前期（小学1年生～小学4年生） ○基礎基本の定着 自ら進んで学ぶ ○集団生活への融和、協調性の育成 基本的生活習慣の確立 ②中期（小学5年生～中学1年生） ○基礎基本の習熟 自ら課題を見つけ問題意識を持って学ぶ ○多様な経験をととしての豊かな情操の育成 社会や生活を見つめ、職業や人間の生き方を学ぶ ③後期（中学2年生～高校3年生） ○発展的学習をととしての応用力の育成 自ら課題を設定し自ら解決する

		○地域・社会の一員としての自覚とたくましさの育成 自己理解を深め、将来に向けての目標設定を行う 個性・能力を磨き、主体的に夢の実現を図る (2) 授業、行事にも3つのキャリア目標を設定 授業や行事においては、以下の①～③に示すキャリア教育の目標と定めた3つの力を、どの場面でどのように向上させるかを具体的に示し取り組んだ。 ①人間力・社会力向上 ○基礎的生活習慣の定着 ○社会形成能力の育成 ○コミュニケーション能力の育成 ②学力向上 ○意欲・積極的態度の育成 ○基本的知識の習得と「考える力」の育成 ○家庭学習の定着・実施 ③進路力向上 ○望ましい勤労観・職業観の育成 ○進路に関する情報収集及び理解力・将来設計能力の育成 ○希望進路達成に向けての活動支援体制の確立 (3) 職業に関する系統的な取組 ①職業調べ及び職場見学（小中） ②職業講話（中） ③職場体験学習（中） ④課題レポートを活用した進路学習（中高） ⑤修学旅行時の職場体験や工場見学，大学等の訪問（中高） ⑥卒業生による講話（高） ⑦進路内定後の地元企業・施設勤労体験（高3） (4) 垣根を越えた児童生徒の把握 小中高職員が校種の垣根を越え，以下の①～⑥に示す取組を実施し，全児童生徒の理解に努めた。 ①合同職員会議（小中高） ②生徒指導連絡会（小中高） ③生活実態調査（小中高） ④通学時の挨拶指導（小中高） ⑤合同行事（歓迎遠足，体育大会，かるた百人一首大会，教育週間） ⑥乗り入れ授業 中→小（英・社），中→高（音，体，数） 高→小（英），高→中（理，家，体，英） 2 取組の成果 (1) 小学校から中学校にかけての系統性のある職場学習から，高等学校での発展的な体験学習を通して，進路意識の高揚が図られ社会人として巣立つ自覚を深めることができた。 (2) 小中高の職員の連携及び児童生徒の理解が一層深まり，各種行事の円滑かつ効果的な運営を図ることができた。 (3) 生活実態調査や挨拶指導を通して実態把握を行い，各校種における指導内容の共通理解がなされ，実態に即した指導ができるようになった。 (4) 合同行事を通して児童生徒同士の理解が一層深まり，異校種ギャップの解消に繋がっている。
--	--	---

			(5) 乗り入れ授業は、高い専門性の確保や少人数授業の実施、校種間ギャップの解消など、児童生徒の学習意欲の向上に有効であった。 以上のように、奈留小中学校は、全教育活動をキャリア教育の視点で捉え、小中高一貫教育の中で地域を巻き込んだ系統的・体系的な取組を進めている。その結果、ここ数年は奈留高等学校で希望進路実現100%を達成するなど、その成果も着実に上げている。
宮崎県	学校	延岡市立北方学園	○ 地域イベント「干支の町フェスティバル」に企画の段階から参加し、PR活動や模擬店舗での販売、スタッフとしての運営等を通して、地域と一体となった体験活動を実施した。 具体的には、推進協議会に生徒代表が参加し、若い視点からの意見を反映してもらった。中学生は4つの縦割りチームを編成し、チラシ作成・配布やラジオ番組に出演してPR活動をする広報チーム、地域の特産品を使った食品を開発し販売するチーム、来場者が喜ぶようなゲームコーナーを作るチーム等に分かれイベントを盛り上げた。また、小学生は特産品を使ったレシピ集を作成し来場者に配ったり、北方の名所を調べ、来場者に向けてプレゼンテーションを行ったりして会場を盛り上げた。前日、当日の清掃や進行等の運営もスタッフと一緒にいった。 ○ 本校は、小中一貫校の良さを生かし、地域のひと・もの・空間を活用した系統性のあるキャリア教育に取り組んでいる。その中で、ロッククライミングやボルダリング（岩登り）の聖地として全国的に有名な比叡山や、高速道路の開通により道の駅となった「北方よっちみろ屋」周辺をもっとPRしたいと考えた。小学生が中心となって、仮設のボルダリング壁を体育館に設置して体験したり、道の駅周辺は高速道路から近いという立地を生かし、NPO法人と連携したフットパス（遊歩道）づくりを行ったりしている。 行政やNPO法人と連携し、ボルダリング体験やフットパスづくり等、地域素材を生かした本校の活動が地域観光振興のアイデアとなり、行政の施策に反映されつつある。 ○ その他、修学旅行先である沖縄県那覇市の国際通り入口のスペースを借りて、北方のPR活動を行ったり、JICA九州の方を数回ゲストティーチャーとして招聘し、世界から見た北方の強み・弱みやASEANの現状等についてキャリア教育の視点から指導を受けたりして、日々の教育活動に生かした。
	学校	宮崎県立飯野高等学校	◎生徒の学習意欲を高めるキャリア教育の取組について 1 LCA（地域貢献活動）の取組 普通科の2・3年生を対象に学校設定科目として、毎週水曜日の午後の2単位時間で「地域貢献活動」を実施している。2年生の1学期は「えびの市について知る」を主なテーマに、えびの市の政治や経済、福祉、観光、地方創生などについて、えびの市の出前講座を利用して学習させている。えびの市の現状について理解を深めさせたうえで、2年生の2学期から3年生の1学期にかけては、2人～5人程度のグループ別に、保育園や幼稚園、小学校、老人介護施設、図書館などで現場実習を実施している。内容は、保育園や幼稚園では読み聞かせや紙芝居、帰りの会などの保育補助、小学校では昼休み時間の児童とのふれあい、行事や授業における補助や校内美化活動、老人介護施設では職員の補助やレクリエーションの企画・実行などである。自分が

			希望した職場の実際を、毎週かつ1年間という長期にわたり体験することで、社会性やコミュニケーション能力、勤労観の育成、人の役に立つことの喜びから得られる自己肯定感の醸成、地域が抱える課題について自ら考える姿勢の育成など、短期の職場体験では得られない成果が出ている。 さらに、3年生の2学期には1年間の活動の振り返りとまとめを行っている。それぞれの取組や成果に関する発表会も開催することで、プレゼンテーション能力の育成も図っている。これらの活動を、校内の担当者の計画に沿って、各事業所との綿密な事前打合せ、実施中の巡回指導、毎回の実施後の反省をもとに、改善を加えながら組織的に実施しており、生徒たちの「生きる力」の育成につなげている。 2 生活情報科の地域連携の取組 生活情報科の地域連携の取組として、「地域特産物開発プロジェクト」の中で、JAえびの市と連携し、地域の特産品となっている米の生産活動や加工品のレシピづくり、実際に加工したものをイベントで振る舞うなど年間を通した活動となっている。この活動の成果としては、市内小中学校の給食献立に採用されたことがあげられる。 さらにえびの市民図書館での読み聞かせやえびの市生涯学習振興大会におけるファッションショー開催など、地域と密着した取組を行っている。 3 地域探究活動（課外活動）の取組 課外活動の中で行っている「地域探究活動」では、地元企業でバイオマスエネルギーについて考える研修や地域資源を生かした活性化に関する街頭アンケート、地元企業への聞き取り調査をもとにグループで行う討論会など、“地域”をフィールドとした学習活動を積極的に行っている。これらは、活動を行っているホームルームだけでなく、発表会を通して学びを還元し、すべての生徒が学べる機会も設けている。 さらに、その成果として、市に提言を行い市長との意見交換会も実現している。 上述のような地元企業や自治体等と連携した校内・外の学びを通して、生徒の目的意識を高めることで、学習意欲を引き出し成長を促すとともに、地元への理解・愛着・誇りを育む教育を積極的に行っている。 ◎ 早期離職防止に向けた県内就職の質を高める取組について えびの市観光商工課と連携したえびの市内の企業研修や、企業担当者を招いての校内ガイダンスを行うことで地元企業の理解と職業観の育成に努めるとともに、ハローワーク職員を招いての就職ガイダンスにより、なぜ働かないといけないのかを真剣に考えさせることで、望ましい勤労観を育んでいる。これらの取組により、早期離職率の減少や生徒の希望する県内就職に効果を上げている。
鹿児島県	教育委員会	霧島市教育委員会	霧島市教育委員会は、小中学校の系統性・継続性をもたせ、様々な組織的な取組を行っている。 【具体的な取組】 ○9年間を見通した「キャリア教育」充実の取組 1 小・中学校の9年間に系統性・継続性をもたせたカリキュラムの作成のための指導・助言 2 夢や希望、憧れる自己のイメージを獲得させる取組の具現化のための指導・助言

		○「向こう10年間の学校教育の普遍」の取組 【き・り・し・ま】 「き」－基礎・基本の確実な定着 「り」－立志，夢や志を持った子どもの育成 「し」－習慣づけ（基本的生活習慣・読書・家庭学習） 「ま」－マナー（規範意識・人権感覚）の育成 ○「きりしまっ子立志推進事業」の実施・開催 子どもたちの志に着眼し，自分の将来に夢や希望をもち，その目標の実現に向かって努力する青少年を育成することを目的とする。 1 「きりしまっ子立志10年カレンダー」の作成と活用 ・将来の夢や身近な目標の明確化 ・「体験学習」や「進路指導」の充実 2 「きりしまっ子立志塾」の開催 ・夢や志を育てる体験的な学習 ・キャリアプランニング能力の育成 ○「ふるさと達人支援プラン」の実施 小・中学校の教科，道徳，特別活動等で外部講師による専門的な指導や講話等を依頼し，児童・生徒が一流に触れ一流に学ぶ機会を設定する。必要に応じて，学校からの要請に基づいて，外部指導者を派遣する。 ○「青少年による国際交流の推進事業」の実施 1 日韓親善子供大使友好の翼 2 青少年海外派遣事業助成
学校	宇検村立田検小学校	宇検村立田検小学校は，奄美大島本島の南西部に位置する宇検村にある全校児童60人の小規模校である。 田検小学校では，キャリア教育の目標を「自他のよさに気づき，自らを成長させるための課題の解決に向けて粘り強く取り組む子どもの育成」と掲げ，小学校段階における「勤労観・職業観」の育成を目指し，計画的・多角的に取り組んでいる。 【具体的な取組】 1 学校・家庭・地域が一体となった取組 ～地域みんなで子どもたちを見守り，育てていくという意識での取組～ ○地域住民（集落区長）・PTA・行政との連携による集団下校 ○交通安全運動キャンペーンへの活動協力 2 「田検小学校ヒストリア～歴史秘話」の取組 ～学校の歴史を改めて紐解き，先人の教えや知恵を感じさせる取組～ ○学校ヒストリアをもとに学習発表会等で劇を披露する。 3 「夢チャレンジ，先輩から学ぶ」の取組 ～働くことの意義を理解し多様な生き方に学ぶ講話～ ○卒業前の6年生向けに先輩講話を企画し，先輩方の生き方から自らの今後の生き方について考えさせ，将来設計能力の育成につなげていく。 【先輩講話】 《平成25年度》 ■元山 主税氏（ちから屋店主）『海外での仕事経験について』 《平成26年度》 ■Nana（シンガーソングライター）『自信をもつことの大切さ』 ■渡 陽子氏（奄美FMアナウンサー）『伝えることの大切さ』 4 「本物に触れる」取組 ○机上の学習だけでなく，トップクラスの技術に触れさせることで，児童に

		興味・関心を持たせ、今後の学習に生かし、キャリア教育の充実を図る。 ■須古鎌踊り保存会による「鎌踊り」の披露 ■石原久子氏による三味線・島唄クラブの指導 ■東北福祉大学陸上部による「陸上教室」 ■空撮用マルチコプターによる遺跡調査 ■MBC アナウンサーによる朗読会 ■まき網漁船団「昭徳丸」の社会科見学 等 学校が組織的・計画的に、また、学校・保護者・地域住民が一体となってキャリア教育を推進している。
学校	鹿児島市立吉田北中学校	鹿児島市立吉田北中学校では、5日間の職場体験学習やキャリア教育の系統的な取組を行っている。 【具体的な取組】 1 5日間の連続した職場体験学習の実施 ・平成20年から職場体験学習を5日間連続で実施している。 ・あいさつ指導や履歴書、お礼状等の作成など、事前指導に十分時間をかけている。 ・職場体験学習のまとめは、保護者や地域住民を招いて、参観日に活動報告等を行っている。 2 他校種や地域との連携・協力 ・全校生徒と隣接する吉田小学校6年生や希望する保護者が校内ハローワークに参加している。 ・26年度は、校内ハローワークに講師として、地域の看護師やセラピスト、建築士、ドラム奏者等を招き、ワークショップを実施している。 ・職場体験学習では、地域内の新規事業所の開拓を行い、受入先を確保している。 3 組織的・系統的なキャリア教育の取組 ・総合的な学習の時間に「キャリアタイム」を位置付け、1年から3年まで系統的な取組がなされている。 ・担任だけでなく養護教諭や事務職員も含めた、全職員による組織的な指導計画が立てられている。 ・体験的な学習も、1・2年「福祉体験学習」、3年「職場体験学習」と系統的に取り組まれている。
学校	日置市立日吉中学校	日置市立日吉中学校では、自己実現させるための進路指導の充実を図り、郷土の自然・文化・産業の現状を理解することで、次代の郷土を築き、自立自興する生徒の育成に取り組み、キャリア教育としての実践を積み重ねている。 1 学校経営方針などのキャリア教育の視点、特に勤労観・職業観を育む力としての4つの能力との関係について見直しを図る。 (1) 目指す生徒像をキャリア発達にかかる4つの能力との関係の見直し (2) 学校行事や総合的な学習の時間等の取組のねらいと、4つの能力との関係整理 (3) 各教科・領域で育成するキャリア発達にかかる諸能力の把握と実践 2 キャリア教育、郷土教育の視点を取り入れた総合的な学習の時間を展開する。 (1) キャリア発達にかかる4つの能力との関係整理 (2) 道徳教育の推進、特別活動での計画的な進路指導 (職業人に学ぶ、進路指導) (3) 特色ある総合的な学習の時間の体験的活動

			(農業体験学習、焼酎造り、立志瓦造り) (4) キャリア発達に直接かかる体験活動の充実 (職場体験学習) 3 キャリア教育の視点を取り入れた地域連携を図る。 (1) キャリア教育における保護者との連携 (保護者との連携による学校農園〔水稻、サツマイモ〕の運営、保護者による職業講話「職業人に学ぶ」の実施) (2) キャリア教育における地域との連携 (地域企業との連携による焼酎造り・立志瓦造りの実施、地域住民による職業講話「職業人に学ぶ」の実施) (3) 地域行事への参加と協力による連携 (お田植祭、豊年祭、敬老会等への生徒・職員の積極的参加)
	PTA 団体 等	末吉高校農巧 クラブ	「末吉高校農巧クラブ」は、昭和38年に発足し、卒業後に全員が加入する組織である。現在、地域で農業に携わる25名の卒業生から構成された役員を中心に活動し、農家委託実習(7泊8日)や学校での指導講話など、様々な活動を通じて、農業自営者や農業理解者の育成に努め、地域産業の活性化とキャリア教育の充実に貢献している。 1 職場体験の受入の確保等 主な活動に7泊8日で農巧クラブ会員宅に宿泊し、農家の生活を体験させる農家委託実習がある。農巧クラブが宿泊農家の選定を行い、生徒・保護者と農家との連携を担っている。実習に当たり事前・事後指導等も行っている。 2 継続的な学校支援 農家委託実習は、昭和38年に発足以来、30回実施している。 3 地域と密着した組織的な体制 役員は農業に関する学科の卒業生で、地域で農業自営を営んでいる方、指導的な立場(農協・市の農政職員など)の方などで組織されている。目的は、地域の農業自営者・農業理解者の育成であり、農家委託実習や指導講話などを通じて、将来の農業自営者として必要な知識・技術を学ばせ、農業に関する興味関心を深めることで、農業経営の企画・運営ができる生徒の養成を図るなど積極的にキャリア教育を推進している。
沖 縄 県	学校	那覇市立松島 小学校	松島小学校の実践は、学校の教育課題及びキャリア教育の実践的課題について、児童の実態や学校生活に着目して計画・実践して多くの成果を導くなど、特色ある内容となっている。 1 学校規模 児童数710名程度で各学年4学級の学校である。 2 実践内容の概要(平成25年度から本格的に実践) ○学校生活の諸活動の中軸に能動的な活動を重視して「児童の地域への理解・愛情・誇りを育む教育」を実践 ○「係活動や当番活動」「委員会活動」「清掃活動」「花と緑いっぱい運動」「学力向上」「地域連携」等を全校体制で実践 ○第3学年以上の各学年で「観光に視点をおいた取組」や「おもてなし」「学校ふるさとづくり」などをキーワードに実践 ○社会生活を営むために必要な「ルール・マナー」との関わりを図り「よりよい学校生活を自分達の力でつくる」をコンセプトに実践 ○自他の役割と責任、根気強さ、問題解決能力、成就感、職業意識等の能力を育成し、将来の目標の醸成などに繋ぐ実践 3 成果

			○学ぶ意欲の向上や挨拶・行動の改善及び諸活動が活性化している。 ○学力が飛躍的に向上して市や県、国が実施する各種学力調査の全てで平均を上回るようになった。 ○不登校児童が本実践取組前の 1/4 以下に改善している。 ○都心部で、学校を拠点とした教育実践のあり方の提案とまちづくりに対する児童の興味・関心を高める特色ある取組となっている。
	学校	沖縄県立小禄高等学校	平成 24 年度から 26 年度までの 3 年間、「キャリア教育マネジメント事業」（沖縄県教育委員会）の指定校として、キャリア教育コーディネーターを配置し、授業やホームルーム活動、進路行事等の教育活動全体を通して、キャリア教育の実践として、下記に取り組んでいる。 1 キャリア教育に関する自主研鑽・校内研修・授業実践 (1) 先進校視察・体験学習 県外先進校視察（福岡県立朝倉高等学校、福岡大学、九州大学等） (2) アクティブラーニング型授業の校内研修会 県外講師を招聘し積極的に研修会や勉強会を実施。 (3) アクティブラーニング型授業の公開授業 情報「社会と情報」や商業「簿記」で授業実践を行い、30 名程の先生方が参加し、有意義な公開授業であった。 2 外部人材活用型キャリア教育プログラム開発 保健体育の授業の「応急処置」の単元で、県内専門学校の救急救命士学科の先生方や学生とともに、心肺蘇生の授業を実践。 3 キャリア教育的視点を取り入れた行事等の実施 生徒一人ひとりの主体的な進路選択、自己実現の取組として、1 学年宿泊学習、3 学年進路講演会等を開催。 4 保護者・地域へのキャリア教育の啓発活動、情報発信 PTA 進路学習会、退職校長会員へのパソコン講座等を開催。 上記事業のアクティブラーニング型授業の取組の関連として、平成 27 年度から「学力向上推進研究モデル」研究指定校（沖縄県教育委員会）として、「アクティブラーニング型授業の実践と検証」を学校全体あげて実践しているところである。 【ホームページ】http://www.oroku-h.open.ed.jp/
仙 台 市	学校	仙台市立吉成小学校	平成 24、25 年度において、仙台版キャリア教育である自分づくり教育の授業のモデルプランである「たくましく生きる力育成プログラム」（以降「たく生き」）を校内研究テーマの中心として位置づけ、社会的・職業的自立に向けての資質・能力を育むため、研究主任を中心に授業プランの実践を重ねている。平成 26 年度以降も「たく生き」を校内の自分づくり教育の核の活動として位置付け、各担任が複数回の研究授業提供を行うことで、「たく生き」の充実と実践力の向上に励んでいる。 仙台市で推進している「学びの連携モデル校区」のモデル校の一つとして、小中連携も積極的に行い、小中で「自分づくり教育部会」を組織し、定期的な会議等で活発な意見、情報交換を行っている。また、「たく生き」の実践は小学校からの呼びかけで中学校も活発に授業実践を行うようになっており、定期的に小中合同の授業研修会を行うなど、授業の在り方や内容の向上に職員全体で取り組む体制ができています。 またこの取組が職に関連した授業にもつながりを見せている。具体的には 3 年生の町探検において、自分たちの住む町の特徴を理解するために、地域の商

			店街の協力を得て、様々な職業に触れる学習を行い、地域の商店の方と顔の見える関係を築きあげている。5年生では、社会人講師による職業講話「夢教室」を実施、夢や目標に向かって努力していこうとする態度を身に付け、自己肯定感の向上に努めている。6年生では、仮設住宅に住む白菜農家の方からそのノウハウを伝授していただき、実際に白菜を育てることによって仮設住宅に住む方々との交流を深めている。また、「建築と子どもたちネットワーク」の方々のお力添えで、本やカレンダー作り、音を立体化するなど建築家の専門的な知識や技術を取り入れて、完成した作品を仮設住宅に住む方に贈呈するなど、職を通じて、かかわる力や表現力の育成を主体的かつ組織的に行っている。
横浜市	学校	横浜市立日野中央高等特別支援学校	軽度の知的障害を持つ生徒が在学し、設立以来企業就労による社会自立を目的として職業教育と後期中等教育を行ってきた高等部のみの特別支援学校である。 教育課程では、各教科学習の中に職業科（職業基礎・職業情報・作業学習）が位置づけられており、生徒はこれらの学習を通して、働くために必要な力を身につけている。 昭和56年設立されて以来、「学校工場型（ものづくり中心）の職業教育」を行ってきた。社会情勢の変化により、生徒が学ぶ作業種と卒業後の就労職種が合わないという問題が生じてきた。そのため、キャリア教育目標を設定し、教育課程そのものもキャリア教育の視点を踏まえたものへと改善を図っている。 社会の変化に伴い、企業から求められる生徒像も「指示を受け指示どおりにできる生徒」から「自ら考え主体的に行動できる生徒」へと変化してきている。そこで、学校を「日野中央カンパニー」という一つの会社組織に見立て、それぞれ4つずつの課を持つ製造部とサービス部に作業学習を再編した。それによりリアリティを感じられる体系となった。作業学習で育てたい力を設定し、2学年合同の縦割り学習を行っている。そのことで、教職員の意識にも変化がみられ、指示待ちだった生徒が下級生や同級生に指示を出せるようになってきている。 生徒の主体性や協働性を伸ばすための取組として、地域の自治体や企業、商店街などと積極的な連携・協力を図っている。例えば、市営バスの清掃、区役所窓口への苔玉レンタル、飲料販売メーカーの協力による自動販売機の商品管理、地元商店街との共同による駅前バザーの開催などがあげられる。これらの取組を通して、生徒のコミュニケーション能力の向上や自ら考え主体的に行動できる生徒が増えてきたと実感している。 生徒の現場実習と就労のために年間生徒数の3倍ほどの企業開拓を行い、1年次から企業見学、社会交流、現場実習を積み重ね、3年の卒業期には企業就労を目指しそれぞれの事前事後指導にも力を入れている。
大阪市	学校	大阪市立工芸高等学校	工芸高等学校はデザイン系の5学科（ビジュアルデザイン、映像デザイン、プロダクトデザイン、インテリアデザイン、建築デザイン）と美術科を設置する、デザイン・造形・美術を専門的、総合的に学ぶ専門高校で、創立92年の歴史を誇る伝統校である。生徒たちは同校で学んだ専門性のさらなる深化をめざし、約80%が大学等へ進学している。その内訳は、四年制大学と、短期大学・専門学校の割合がそれぞれ約50%である。また、進学者の約80%がデザイン・美術系の学部・学科に進んでおり、このことから生徒のデザイン・美術に対する興味・関心の高さがうかがえる。 同校では、生徒が自己のあり方生き方を考え、主体的に進路選択できるよう、教育活動全体を通じて次のような計画的、組織的な進路指導を行っている。 ・社会を取り巻く現状の課題を正しく認識させる

		・社会的・職業的自立につながられるよう、他校種や産業界等との連携を重視する ・体験授業や協同学習、プロジェクト型学習への参画等を組織的・系統的に行う これらを踏まえ、学科ごとの特色ある教育活動を通じて実践的なキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりが将来において望ましい自己実現ができるよう指導・援助を行っている。 1 高等学校卒業後の進学を見据えた高大連携プログラム 同校の各学科では関西の複数大学と様々な連携授業を行っている。連携では、講義や高校生を対象とするコンクールに向けた実習、模擬事業等、演習を中心とした課題解決型の授業を行い、高等学校で学んだ内容を大学で更に深化させることの意味や、自らの将来や社会とのつながりについて考えさせるためのプログラムに取り組んでいる。 デザイン系の課題解決型授業では、大学側をクライアントとしてプロジェクトを立ちあげ、模擬事業を展開しながらコンペティション形式によって採用を決定するところまで行っている。また、地域の大学と連携し、実習等を通じて高校生対象のコンクールに参加するなどの取組も行っている。このような取組が実を結び、建築デザイン科では、日本建築協会主催の「工校生デザインコンクール『私の家』」において毎年入選を果たしている。他の学科においても実習での作品がコンクールで評価され、多くの賞を受賞しているほか、実習以外にも大学の講義に参加するなど、幅広く大学等との連携を行っている。 このように複数の大学と組織的・系統的な連携を行うことによって、生徒が主体的・継続的に学び、芸術家やクリエイターとして必要な資質や能力、実践的な態度を身につけることができるよう、全学科で特色ある学習プログラムの構築に取り組んでいる。 2 他校種との交流によるキャリア教育の推進 同校では、他校種との交流にも取り組んでいる。インテリアデザイン科では小学校や特別支援学校と連携し、授業をとおして交流を深めていく中で、コミュニケーション力や課題解決力、計画・実行力等、生徒が社会的自立に向けて必要となる基盤や能力を育てるための学習を行っている。 地域の小学校との連携では、高校生が児童作品の制作指導を行う出前授業を実施し、小学生との交流を深める中で、人間関係を構築する力等の育成に努めている。また、特別支援学校との連携では、テーマを設定し双方の生徒が交流を深めながら協同学習に取り組んでいる。この取組の成果物は、全国高等学校インテリア科教育研究会主催の「ものデザインコンテスト」において賞を受賞している。 このような生徒による出前授業や協同学習は、自ら主体性をもって学び、人間関係を構築する力や課題を解決していく力などの基礎的・汎用的能力の育成につながっている。 3 地域・社会との連携による体験授業やプロジェクトへの参画 同校では、地域の複数企業等と連携し、それぞれの専門性を活かした取組を行っている。各学科の取組では、体験授業やプロジェクトへの参画をとおして生徒一人ひとりの能力の向上を図るとともに、自己の理解を深め、自己実現のためのキャリア形成に向けた意識の高揚に努めている。 体験授業では、事業団体から技術者や企業デザイナー派遣の援助を受け、実務経験者による実技指導を実施している。また、地域プロジェクトへの参
--	--	---

			画では、大阪湾環境保全協議会や地域企業と連携し、事業の活性化とともに広報活動などについての取組を行っている。このような取組をとおして、単に専門的な技術を学習するだけでなく、デザインすることの意義や役割について学び、主体的に課題を発見し、解決に向けて「自らが考え行動できる力」の育成に努めている。 このような学習を通じて生徒の能力を高めるとともに、自ら地域・社会とのかかわりについて考えさせ、社会の一員であることの自覚を深めさせることで、芸術家やクリエイターに対し求められる必要な能力・態度の育成に努めている。 同校では、他校種や産業界と連携を図り卒業後の進路・将来を見据えた系統的なキャリア教育を実践し、高等学校から実社会に至る連続性・継続性のある学びにつなげている。このような取組によって生徒の学習意欲の向上を図り、芸術家やクリエイターとして求められる能力を高めるとともに職業観・勤労観の育成に努めている。 本市教育委員会では、同校の専門分野におけるスペシャリスト育成に向けた組織的・系統的な取組について高く評価し、キャリア教育優良校として推薦する。
神戸市	学校	神戸市立雲中小学校	○学校の様子 雲中小学校は、今年で創立 142 年目の歴史ある学校である。教育目標を「ねばり強くやりぬく子、自ら考え表現する子、思いやりのある子」と掲げ、キャリア教育を全学年で系統的に取り組んでいる。5 年生では、地域の施設見学や出張授業を取り入れ、我が国の伝統建築に関心を持たせ、自分の生き方を考えさせたり、6 年生では、修学旅行を子供たち主体で計画させたりすることで、将来、社会人・職業人として自立していくための能力や態度の基盤を育成している。 ○具体的な活動 ・5 年生では、近隣の竹中大工道具館を見学したり、その学芸員の方の出張授業を取り入れたりすることで、我が国の伝統建築や職人の技への関心を高めさせ、国語「千年の釘にいどむ」を深まりのある学習へと発展させている。薬師寺西塔再建を手掛けた鍛冶職人、白鷹幸伯さんの生き方・職業観について理解することで、「ものを作るだけでなく、それを未来に伝えていく」ことの大切さを学んでいる。また、この学習を通して、児童に働く意義とやりがいのある職業についても考えさせていると言える。 ・6 年生では、総合的な学習で「オリジナル修学旅行をつくろう」と題して修学旅行を児童自らが主体的に計画する取組をしている。旅行会社の方に旅行の魅力や計画していく楽しさを教えてもらい、1 泊 2 日の旅行先で観光スポットや見所等を調べ、ポスターで発表したり、プレゼンテーションをしたりしてコースを決めていく。児童は、自分たちで旅をつくる楽しさを味わう経験をしている。また、旅行後は 5 年生や保護者に旅の楽しさを積極的に伝えたり、旅行から学んだことを生かし、近隣の生田川の清掃や「生田川を美しく」という趣旨の看板を作り地域に贈呈したりするなど、環境保全の活動にも取り組んでいる。 ・6 年生で児童自らが修学旅行を計画できるようにするため、1 年生から 5 年生まで校外学習等において系統的な学習を実施している。児童自らが活動や活動場所を選ぶという「選択制」を取り入れたものであり、班やコースを選んで主体的に活動するものである。

			以上のように雲中小学校は、本市において地域を生かし、主体的にキャリア教育の実践に先進的に取り組んでいる。
広島市	学校	広島市立美鈴が丘中学校	本校は、「優しく たくましく」の校訓のもと、「夢や目標をもって、笑顔でいきいきとたくましく生きる生徒の育成」を学校教育目標とし、中学校区の「保・幼・小・中・高校の園長・校長の会」や、ふれあい活動推進協議会、まちづくり協議会等と主体的に連携を図るとともに、組織的・系統的なキャリア教育に取り組んでいる。 1 他校種や地域との連携 保・幼・小・中・高校の園長・校長の会で、「元気にあいさつ」「自ら行動」「きまりを守る」「思いやりの心」「美しい環境」の5つの目標を考え、ふれあい活動推進協議会で決定し、「美鈴が丘まちづくり協議会」の援助による横断幕と美術部制作による地域広報用ポスターを町内の施設や中学校に掲げ、地域が一体となって生徒を育てようとする機運を醸成している。 また、保・幼・小・中・高校の合唱や吹奏楽部の演奏を地域に披露する「ふれあい音楽会」での吹奏楽部による司会進行などの行事運営や、生徒会による地域の祭りでのボランティア活動、長年実施されている地域清掃活動等の取組により、他者と協力・協働して社会に参画する力の育成を図っている。 さらに、2年生の総合的な学習の時間で、認知症アドバイザーや民生委員、理学療法士等を招聘し、認知症サポーター養成講座や車椅子体験などの福祉体験をしたり、3年生の家庭科で、地域の保育園、幼稚園に訪問し、各自が作成した絵本の読み聞かせなどをする保育実習をしたりすることを通して、自己と社会の双方についての多様な気づきや発見を経験させている。 このように、他校種や地域と深く連携した取組を通して、人間関係形成・社会形成能力や課題対応能力の育成を図っている。 2 組織的・系統的なキャリア教育の取組 1年生では、地域の駐在所や銀行の方などを中学校に招いて「働く人に学ぶ会」を実施し、仕事のやりがいや厳しさ、楽しさなどを学んでいる。 2年生では、市立高等学校普通科及び県立の工業高等学校と商業高等学校の先生を招いて「出前授業」を実施し、進路実現に向け将来についての視野を広げることができるようにしている。 3年生では、職場体験の事前学習として、市立の商業高等学校の先生を招き、礼や言葉遣い、電話対応の基本等について学ぶ「マナー講座」を実施し、事業所への事前訪問をした後、3日間の職場体験学習を実施している。事後のお礼やまとめをし、働く意義を考え将来の職業選択のきっかけとしている。 このように、人間としての生き方の自覚を促し、社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる人間の育成を目指し、3年間を見通した系統的なキャリア教育を推進している。

キャリア教育優良教育委員会，学校及びP T A団体等文部科学大臣表彰推薦要領

平成 2 7 年 7 月 1 日
初等中等教育局長決定

1 推薦の方法

(1) 都道府県教育委員会

別紙様式によるキャリア教育優良教育委員会（様式 1），学校（様式 2）及びP T A団体等（様式 3）文部科学大臣表彰推薦調書 1 部に必要な資料を添付の上，文部科学大臣宛て推薦する。

(2) 指定都市教育委員会

別紙様式によるキャリア教育優良学校（様式 2）及びP T A団体等（様式 3）文部科学大臣表彰推薦調書 1 部に必要な資料を添付の上，文部科学大臣宛て推薦する。

2 推薦数

(1) 都道府県教育委員会

- ① 推薦又は自薦できる教育委員会の数は，1 都道府県教育委員会につき，当該都道府県教育委員会及び指定都市教育委員会を含めた域内の市区町村教育委員会の中から 1 教育委員会とする。
- ② 推薦できる学校の数，域内に所在する国立，公立及び私立の学校の中から 3 校（東京都は 9 校）を限度とする。なお，推薦に当たっては，国立及び私立の学校についても積極的に検討すること。（所在地が指定都市内である国立及び私立の学校は，都道府県若しくは指定都市教育委員会のどちらからでも推薦できるものとする。）
- ③ 推薦できる P T A 団体等（N P O 団体や任意団体を含む）の数は，1 団体とする。

(2) 指定都市教育委員会

- ① 推薦できる学校の数，域内に所在する国立，公立及び私立の学校の中から 2 校を限度とする。なお，推薦に当たっては，国立及び私立の学校についても積極的に検討すること。（所在地が指定都市内である国立及び私立の学校は，都道府県若しくは指定都市教育委員会のどちらからでも推薦できるものとする。）
- ② 推薦できる P T A 団体等（N P O 団体や任意団体を含む）の数は，1 団体とする。

3 推薦の観点

- (1) キャリア教育優良教育委員会，学校及びP T A団体等文部科学大臣表彰要項（以下「表彰要項」という。）2 の(1)に該当する教育委員会としては，次の①～④などとする。

- ① 小・中学校段階において，教育の基本方針にキャリア教育を位置付け，域内全ての小学校でキャリア教育の視点から職場見学を実施したり，域内全ての中学校で 5 日間以上の職場体験に取り組んだり，教科教育の中でキャリア教育を実践するために教員研修を

実施したりするなど、キャリア教育を推進している教育委員会

- ② 高等学校段階において、教育の基本方針にキャリア教育を位置付け、教職員の理解の促進を図るために研修やフォーラムを実施したり、管下の学校にキャリア教育全体計画の作成を求めたりするなど、積極的にキャリア教育を推進し、学校に対してキャリア教育の推進を指導している教育委員会
- ③ 経済団体やPTA、校長会、自治会、職能団体や労働組合等の関係機関、NPO等の協力を得て協議会を設置するなどして、地域・社会でキャリア教育推進の取組を進めている教育委員会
- ④ 進学も就職もしていない中学校・高等学校の卒業生や高等学校中途退学者のキャリア形成に関して、進路等の適切なカウンセリングなどの追指導を行うことや、就職に必要な知識・技能等を習得する機会を提供するなどの支援を行っている教育委員会

(2) 表彰要項2の(2)に該当する学校としては、今年度は次の①～④などとする。

また、推薦に当たっては、①～④の多様な学校が選定されるよう配慮すること。

- ① 児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するため、適切に検証改善を行い、事前・事後指導を含めた職場見学、職場体験、インターシップを積極的に取り入れるなど、他校種や地域・産業界等との連携・協力を主体的に図り、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる学校
- ② 主体的に課題を発見していく力や創造性を育むため、模擬店舗の出店体験や模擬会社の設立、企業・地域団体等との共同した新商品の開発体験、事業アイデアの検討やビジネスプランの作成といった起業体験に係る取組を積極的に行っている学校
- ③ 地元企業や自治体等と連携し、地域課題の解決に取り組むなど、児童生徒の地元への理解・愛着・誇りを育む教育を積極的に取り入れている学校
- ④ 進学も就職もしていない中学校・高等学校の卒業生や高等学校中途退学者のキャリア形成に関して、進路等の適切なカウンセリングなどの追指導を行うことや、就職に必要な知識・技能等を習得する機会を提供するなどの支援を行っている学校

(3) 表彰要項2の(3)に該当するPTA団体等としては、次の①～②などとする。

- ① 学校の教育活動に積極的に関わり、キャリア教育の充実に寄与しているPTA団体等
- ② 教育委員会及び学校がキャリア教育を円滑に推進するため、職場体験の受入先の確保等、2年以上継続的に学校に協力し、推進体制の整備に積極的な活動を行っているPTA団体等

(注意) 経済団体や企業による支援については、経済産業省が実施しているキャリア教育アワードの対象となり、本表彰の対象外となる

(参考) 経済産業省キャリア教育アワード

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/award.html>

4 その他

別紙様式の推薦調書に記入する内容は、公表が可能なものとする